
令和5年度
男女共同参画に関する市民意識調査
結果報告書

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査の方法	1
3	調査項目	1
4	回収結果	1
5	集計にあたって	1
6	回答者の属性	2
II	調査の結果	6
1	男女平等の現状について	6
問1	あなたは、次の分野で、男女の地位が平等になっていると思いますか	6
	【家庭生活】	6
	◇他調査との比較—家庭生活—◇	7
	【職場】	8
	◇他調査との比較—職場—◇	9
	【学校教育の場】	10
	◇他調査との比較—学校教育の場—◇	11
	【地域の町内会や自治会など】	12
	◇他調査との比較—地域の町内会や自治会など—◇	13
	【法律や制度の上】	14
	◇他調査との比較—法律や制度の上—◇	15
	【社会通念・慣習・しきたりなど】	16
	◇他調査との比較—社会通念・慣習・しきたりなど—◇	17
	【政治の場】	18
	◇他調査との比較—政治の場—◇	19
	【社会全体の中】	20
	◇他調査との比較—社会全体の中—◇	21
	◇全分野の比較—男女の平等感（問1）—◇	22
2	結婚や家庭生活について	24
問2	結婚や家庭に関する次のような考え方について、どう思いますか	24
	【結婚は個人の自由であるから、してもしなくても良い】	24
	【結婚してもうまくいかなければ離婚してもかまわない】	25
	【結婚したら、家族のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だ。】	26
	【結婚したら、子どもを持つべきだ】	27
	【夫婦の別性が認められたほうが良い】	28
	◇クロス集計—夫婦の別姓が認められたほうが良い（問2）×夫婦の働き方—◇	29
問3	「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどう思いますか	30
	◇他調査との比較—夫は仕事、妻は家庭を中心にすべきである（問3）—◇	31
	◇クロス集計—夫は仕事、妻は家庭を中心にすべきである（問3）×夫婦の働き方—◇	32
問4-1	賛成と思うのはなぜですか	33
	◇他調査との比較—賛成と思うのはなぜですか（問4-1）—◇	36
問4-2	反対と思うのはなぜですか	37
	◇他調査との比較—反対と思うのはなぜですか（問4-2）—◇	40
問5	あなたは、次のような家庭内の役割を、どのように担うべきだと思いますか	41
	【食事のしたく（理想）】	41
	【食事の後片付け（理想）】	42
	【掃除（理想）】	43

【洗濯（理想）】	4 4
【買物（理想）】	4 5
【子どもの世話（理想）】	4 6
【学校行事などへの参加（理想）】	4 7
【看護・介護（理想）】	4 8
【地域の町内会や自治会などへの参加（理想）】	4 9
【家計の管理（理想）】	5 0
【主たる収入（理想）】	5 1
◇全分野の比較—役割分担についての理想（問5）—◇	5 2
問6 あなたの家庭では、次のような役割を主にだれが担っていますか	5 4
【食事のしたく（現実）】	5 4
【食事の後片付け（現実）】	5 5
【掃除（現実）】	5 6
【洗濯（現実）】	5 7
【買物（現実）】	5 8
【子どもの世話（現実）】	5 9
【学校行事などへの参加（現実）】	6 0
【看護・介護（現実）】	6 1
【地域の町内会や自治会などへの参加（現実）】	6 2
【家計の管理（現実）】	6 3
【主たる収入（現実）】	6 4
◇全分野の比較—役割分担についての現実（問6）—◇	6 5
◇全分野の比較—役割分担についての現実（問6）—◇	6 6
◇理想と現実（問5・問6）の比較—役割分担についての理想と現実—◇	6 7
◇前回調査との比較—役割分担についての現実（問6）—◇	6 8
3 男性の家事や子育てへの参加について	6 9
問7 今後、男性が育児や介護、家事、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか	6 9
4 職場や働き方について	7 2
問8 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどのように思いますか	7 2
◇他調査との比較—女性が職業を持つことについてどう思うか（問8）—◇	7 3
問9 あなたの職場では次のようなことがありますか	7 4
◇他調査との比較—職場における男女格差（問9）—◇	7 6
問10 あなたの職場で、女性の管理職が登用されるためには、どのようなことが必要だと思いますか	7 7
5 育児休業・介護休業について	7 9
問11 現在の職場での育児・介護休業の取得について、お聞かせください	7 9
問12 育児・介護休業を取得できないまたはしない理由はどのようなことですか	8 0
◇他調査との比較—育児・介護休業の取得できないまたはしない理由（問12）—◇	8 2
問13 あなたは、男性の育児休業や介護休業取得についてどう思いますか	8 3
6 地域の方針決定の場への女性の参画について	8 4
問14 町内会や自治会など地域における方針決定の場へ女性が増えていくためには、どのようなことが必要だと思いますか	8 4
◇他調査との比較—方針決定の場へ女性を増やすために必要なこと（問14）—◇	8 7
7 DV（ドメスティック・バイオレンス）について	8 8
問15 あなたは過去5年以内に、恋人や配偶者等のパートナー※から、次のようなことを「されたこと」や「したこと」がありますか	8 8
◇他調査との比較—過去5年にDVをした経験（問15）—◇	9 0
◇他調査との比較—過去5年にDVをされた経験（問15）—◇	9 1
問16 次のような機関や人に相談したことがありますか	9 3
◇他調査との比較—DVについて相談した先（問16）—◇	9 5

問 17	相談しなかった・できなかった理由は何ですか	96
	◇他調査との比較—DVについて相談しなかった・できなかった理由（問17）—◇	99
問 18	DV（ドメスティック・バイオレンス）被害者支援の取り組みとして、どのようなことが必要だと思いますか	100
8	男女共同参画社会について	103
問 19	次の言葉や制度のうち、見聞きしたことがあるものはありますか	103
	◇他調査との比較—言葉や制度を知っているか（問19）—◇	106
問 20	男女共同参画社会を実現するために、特にどのようなことが重要だと思いますか	107
III	資料（調査票）	110

I 調査の概要

1 調査の目的

男女共同参画に関する市民意識を把握し、その結果を第4次伊勢崎市男女共同参画計画に反映させるほか、今後の男女共同参画に関する施策の基礎資料とすることを目的としています。

2 調査の方法

- (1) 調査地域 伊勢崎市全域
- (2) 調査対象者 伊勢崎市に在住する満18歳以上の人
- (3) 標本数 2,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- (5) 実施方法 郵送による配布及び郵送回収及びWEBから回答
- (6) 調査期間 令和5年8月3日(木)～令和5年9月22日(金)

3 調査項目

- (1) 男女平等の現状について(問1)
- (2) 結婚や家庭生活について(問2～問6)
- (3) 男性の家事や子育てへの参加について(問7)
- (4) 職場や働き方について(問8～問10)
- (5) 育児休業・介護休業について(問11～問13)
- (6) 地域の方針決定の場への女性の参画について(問14)
- (7) DV(ドメスティック・バイオレンス)について(問15～問18)
- (8) 男女共同参画社会について(問19～問20)
- (9) 回答者属性(性別・年齢・職業・結婚・働き方)
- (10) 自由記述

4 回収結果

配布数 (人)A	回収数 (人)	有効回収数 (人)B	有効回収率 (%) B/A*100
2,000	663	661	33.1

※回収された調査表のうち、全ページ記入が全くなかったものを無効回収として集計から除きました。

5 集計にあたって

- (1) 調査結果の比率は、その設問の回答者総数(n)を基数として、少数点第2位を四捨五入して
います。このため、端数処理の関係で、合計が100%にならない場合があります。
- (2) 複数回答の設問の場合、回答比率の合計が100%を超える場合があります。

(3) 選択肢の語句が長い場合、本文中及び表やグラフにおいて、省略した表現を用いている場合があります。

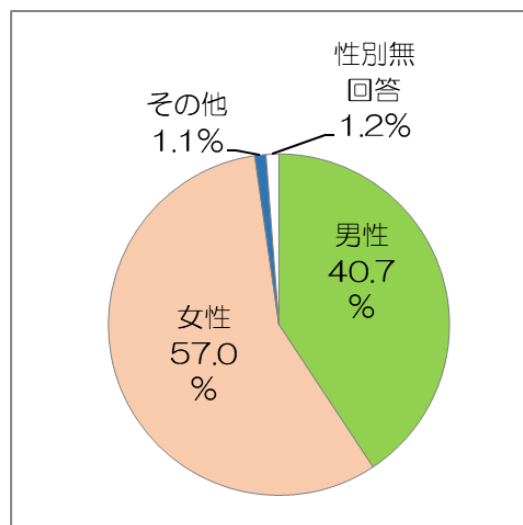
(4) 本報告書の中で比較のため用いているデータは次のとおりです。

- 「伊勢崎市(前回)」 平成30年に伊勢崎市が実施した「男女共同参画に関する市民意識調査」
 - 「群馬県」 令和元年に群馬県が実施した「男女共同参画社会に関する県民意識調査」
 - 「国」 令和4年に内閣府が実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」
- なお、「群馬県」調査は、対象年齢が20歳以上であり、18歳以上である本調査との比較は、厳密なものではありません。

6 回答者の属性

【性別】

	回答数 (人)	割合 (%)
男性	269	40.7
女性	377	57.0
その他	7	1.1
性別無回答	8	1.2
計	661	100.0

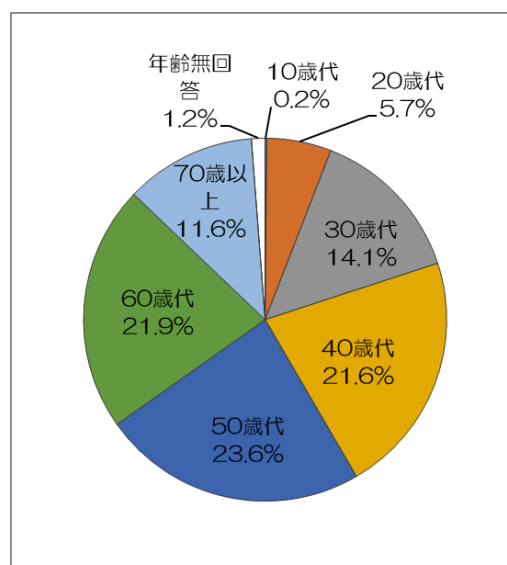


性別の回収数は、男性が269人で40.7%、女性が377人で57.0%であり、女性からの回収割合が16.3ポイント高くなっています。

「性別を答えたくない・分からない方などは、選択肢3に○をつけてください」として設けた選択肢「3()」は、7人の方が選択し、1.1%でした。

【年代】

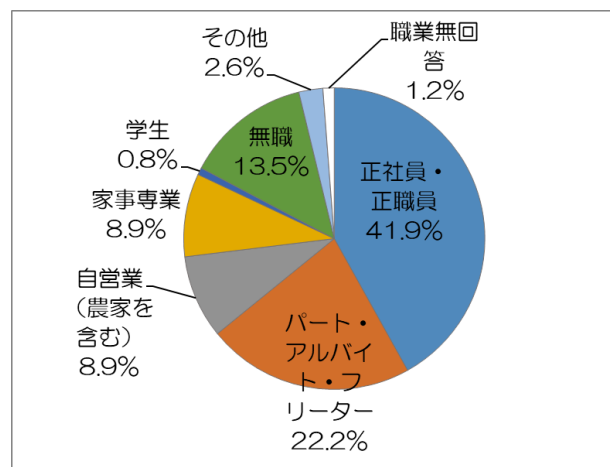
	回答数 (人)	割合 (%)
10歳代	1	0.2
20歳代	38	5.7
30歳代	93	14.1
40歳代	143	21.6
50歳代	156	23.6
60歳代	145	21.9
70歳以上	77	11.6
年齢無回答	8	1.2
計	661	100.0



年代別の回答数は、50歳代が156人(23.6%)で最も多く、最も少ないのは10歳代で1人(0.2%)でした。

【職業】

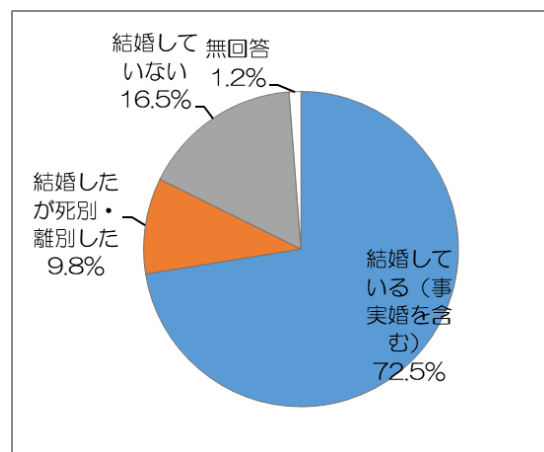
	回答数 (人)	割合 (%)
正社員・正職員	277	41.9
パート・アルバイト・フリーター	147	22.2
自営業(農家を含む)	59	8.9
家事専業	59	8.9
学生	5	0.8
無職	89	13.5
その他	17	2.6
職業無回答	8	1.2
計	661	100.0



職業は、「正社員・正職員」が277人(41.9%)で最も多く、次いで「パート・アルバイト・フリーター」の147人(22.2%)でした。

【婚姻の状況】

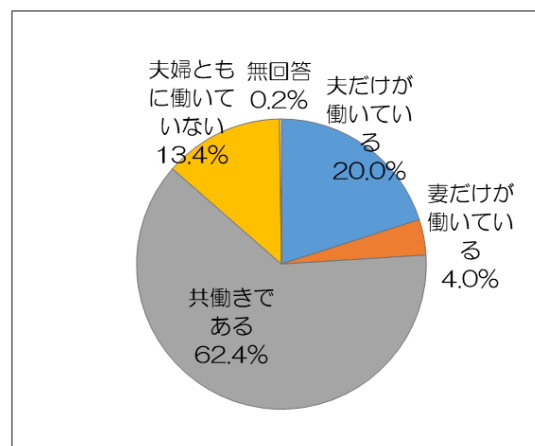
	回答数 (人)	割合 (%)
結婚している(事実婚を含む)	479	72.5
結婚したが死別・離別した	65	9.8
結婚していない	109	16.5
無回答	8	1.2
計	661	100.0



婚姻の状況は、「結婚している」が72.5%、次いで「結婚していない」が16.5%、「結婚したが死別・離別した」が9.8%でした。

【夫婦の働き方】

	回答数 (人)	割合 (%)
夫だけが働いている	96	20.0
妻だけが働いている	19	4.0
共働きである	299	62.4
夫婦ともに働いていない	64	13.4
無回答	1	0.2
計	479	100.0

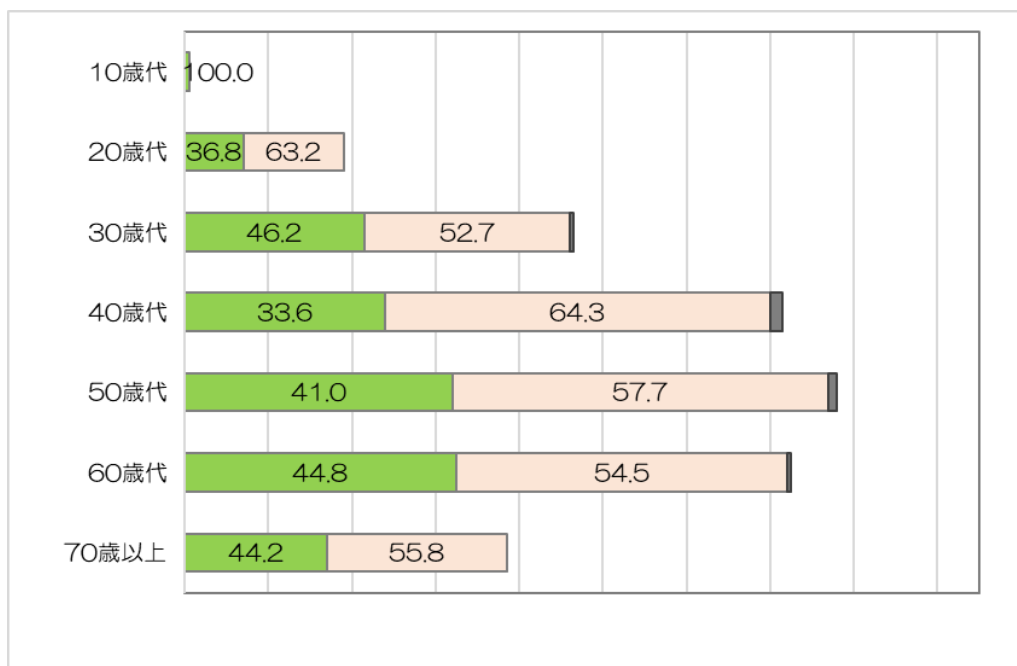


夫婦の働き方は、「共働き」が最も多く62.4%でした。次いで「夫だけが働いている」が20%、「夫婦ともに働いていない」が13.4%、「妻だけが働いている」は4.0%でした。

◇回答者属性のクロス集計◇

【年代×性別】

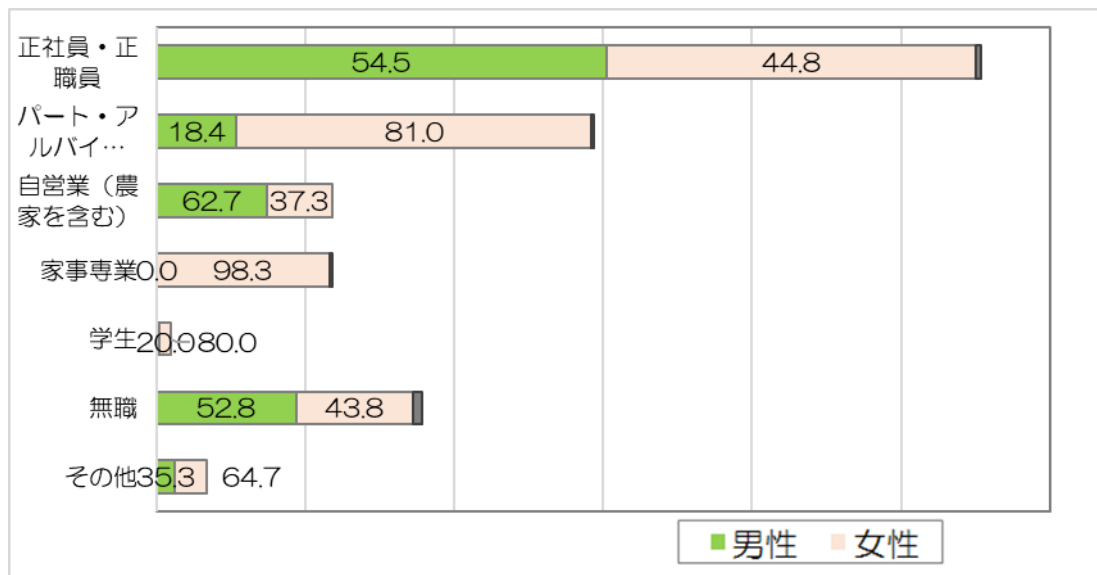
	男性		女性		その他	
	人	%	人	%	人	%
10歳代	1	100.0	0	0.0	0	0.0
20歳代	14	36.8	24	63.2	0	0.0
30歳代	43	46.2	49	52.7	1	1.1
40歳代	48	33.6	92	64.3	3	2.1
50歳代	64	41.0	90	57.7	2	1.3
60歳代	65	44.8	79	54.5	1	0.7
70歳以上	34	44.2	43	55.8	0	0.0
年齢無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	269	40.7	377	57.0	7	1.1



回答者の年代と性別を比較すると、男性の割合が高いのは、10歳代を除いて(10代は回答者1名のため)60歳代で44.8%でした。女性の割合が高いのは、40歳代で64.3%でした。

【職業×性別】

	男性		女性		その他	
	人	%	人	%	人	%
正社員・正職員	151	54.5	124	44.8	2	0.7
パート・アルバイト・フリーター	27	18.4	119	81.0	1	0.7
自営業(農家を含む)	37	62.7	22	37.3	0	0.0
家事専業	0	0.0	58	98.3	1	1.7
学生	1	20.0	4	80.0	0	0.0
無職	47	52.8	39	43.8	3	3.4
その他	6	35.3	11	64.7	0	0.0
職業無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	269	41.2	377	57.7	7	1.1



回答者の職業と性別を比較すると、男性の割合が高いのは「自営業(農家を含む)」で、62.7%でした。次いで「正社員・正職員」の54.5%、「無職」の52.8%でした。

女性の割合が高いのは、「家事専業」で、98.3%でした。次いで「パート・アルバイト・フリーター」の81%、「学生」の80%でした。

II 調査の結果

1 男女平等の現状について

問1 あなたは、次の分野で、男女の地位が平等になっていると思いますか。

(それぞれ1つに○)

【家庭生活】

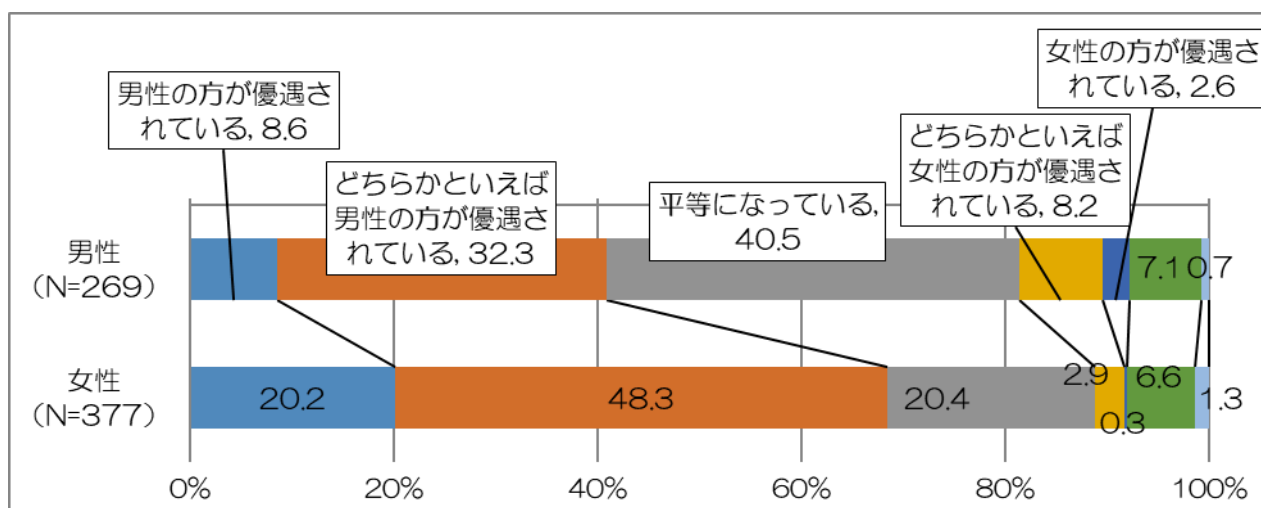
回答数(人)

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
男性(N=269)	23	87	109	22	7	19	2
女性(N=377)	76	182	77	11	1	25	5
その他(N=7)		2	3			2	
無回答(N=8)		4	2	2			
計(N=661)	99	275	191	35	8	46	7

回答割合(%)

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
男性(N=269)	8.6	32.3	40.5	8.2	2.6	7.1	0.7
女性(N=377)	20.2	48.3	20.4	2.9	0.3	6.6	1.3
その他(N=7)	0.0	28.6	42.9	0.0	0.0	28.6	0.0
無回答(N=8)	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0
計(N=661)	15.0	41.6	28.9	5.3	1.2	7.0	1.1

家庭生活について、回答者全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人が41.6%で最も多く、次いで「平等になっている」が28.9%でした。

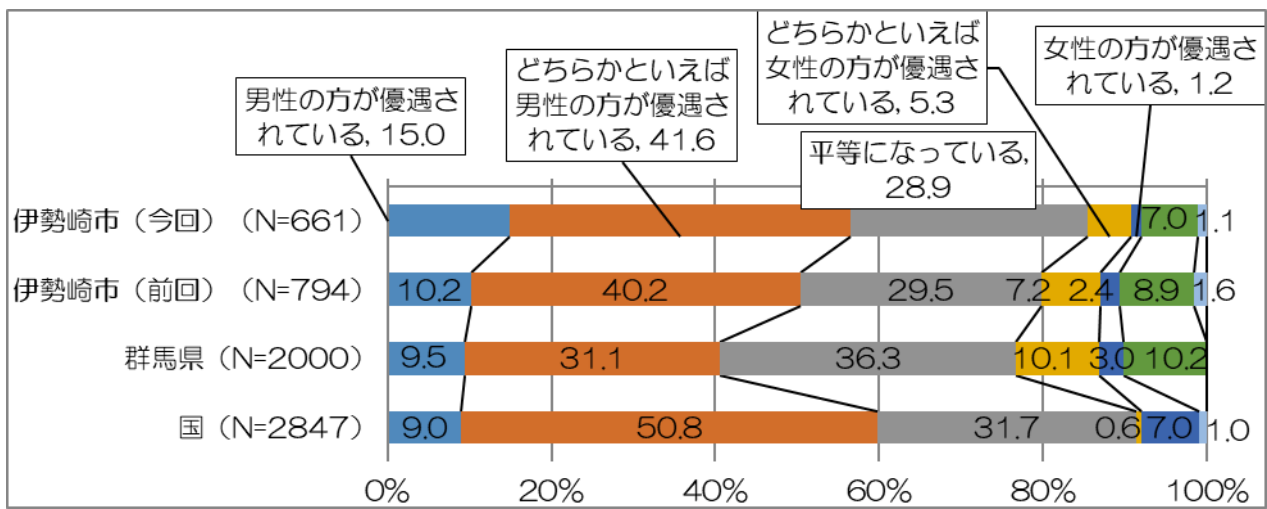


性別で比較すると、「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の回答割合が、女性の方がいずれも高く、「平等になっている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の回答割合は、いずれも男性の方が高くなっています。

◇他調査との比較—家庭生活—◇

回答割合(%)

	男性の方が 優遇されて いる	どちらかとい えば男性の 方が優遇さ れている	平等になっ ている	どちらかとい えば女性 の方が優遇さ れている	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
伊勢崎市(今回)(N=661)	15.0	41.6	28.9	5.3	1.2	7.0	1.1
伊勢崎市(前回)(N=794)	10.2	40.2	29.5	7.2	2.4	8.9	1.6
群馬県(N=2000)	9.5	31.1	36.3	10.1	3.0	10.2	
国(N=2847)	9.0	50.8	31.7	0.6	7.0		1.0



※国と群馬県は、本市の調査と選択肢の表現が若干異なるため、厳密な比較ではありません。

伊勢崎市の前回調査と比較すると、「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の回答割合がどちらもやや増加しています。

群馬県と比較すると、「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、伊勢崎市の方が回答割合が高く、「平等になっている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」は、伊勢崎市の方が回答割合が低くなっています。

国と比較すると、「男性の方が優遇されている」が、伊勢崎市の方が6ポイント高く、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、が伊勢崎市の方が9.2ポイント低くなっています。

【職場】

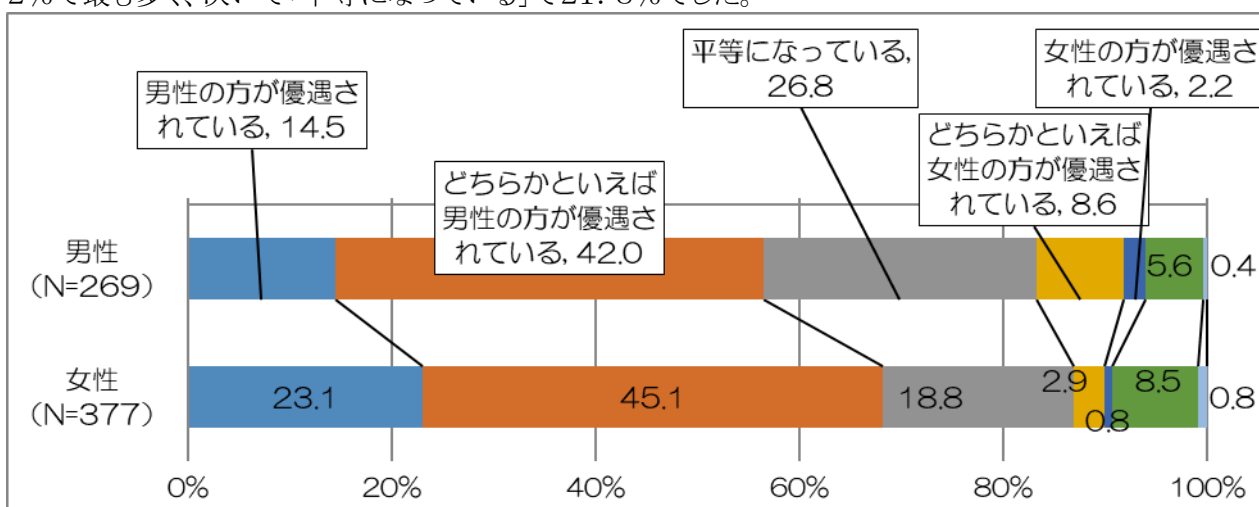
回答数(人)

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
男性(N=269)	39	113	72	23	6	15	1
女性(N=377)	87	170	71	11	3	32	3
その他(N=7)		3	1	1		2	
無回答(N=8)	2	6					
計(N=661)	128	292	144	35	9	49	4

回答割合(%)

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
男性(N=269)	14.5	42.0	26.8	8.6	2.2	5.6	0.4
女性(N=377)	23.1	45.1	18.8	2.9	0.8	8.5	0.8
その他(N=7)	0.0	42.9	14.3	14.3	0.0	28.6	0.0
無回答(N=8)	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計(N=661)	19.4	44.2	21.8	5.3	1.4	7.4	0.6

職場について、回答者全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人が44.2%で最も多く、次いで「平等になっている」で21.8%でした。

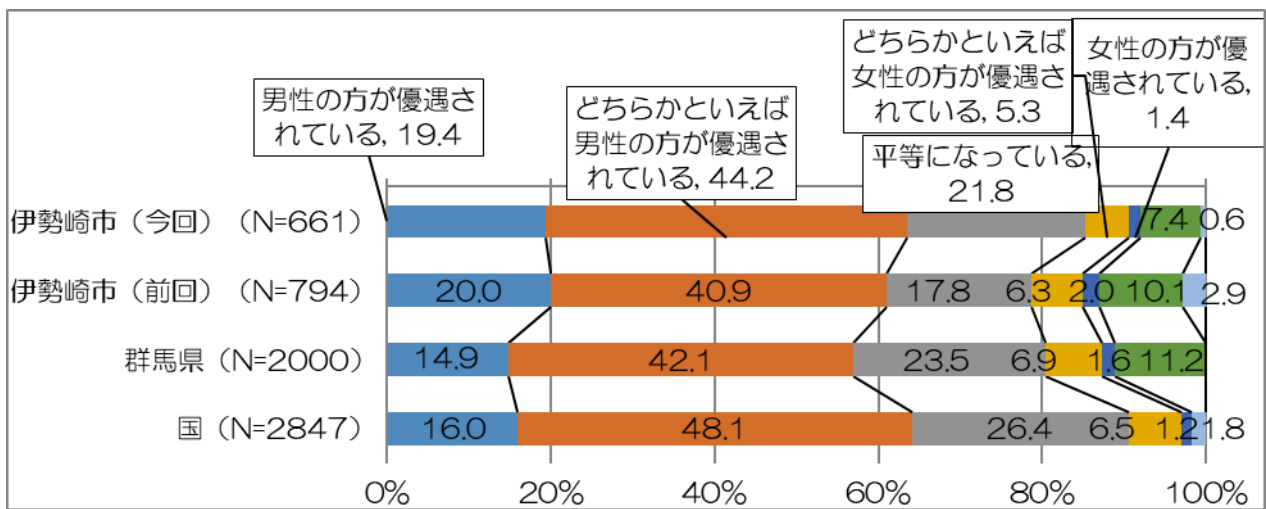


性別で比較すると、「男性の方が優遇されている」の回答割合が、女性の方が8.6ポイント高く、「平等になっている」は、男性の方が8ポイント高くなっています。

◇他調査との比較—職場—◇

回答割合(%)

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
伊勢崎市(今回)(N=661)	19.4	44.2	21.8	5.3	1.4	7.4	0.6
伊勢崎市(前回)(N=794)	20.0	40.9	17.8	6.3	2.0	10.1	2.9
群馬県(N=2000)	14.9	42.1	23.5	6.9	1.6	11.2	
国(N=2847)	16.0	48.1	26.4	6.5	1.2		1.8



※国と群馬県は、本市の調査と選択肢の表現が若干異なるため、厳密な比較ではありません。

伊勢崎市の前回調査と比較すると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が、3.3ポイントで若干高くなっています。

群馬県と比較すると、「男性の方が優遇されている」が、伊勢崎市が4.5ポイント高くなっています。

国と比較すると、「男性の方が優遇されている」が、伊勢崎市の方が3.4ポイントと若干高く、逆に「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は、伊勢崎市の方が3.9ポイントと低くなっています。

【学校教育の場】

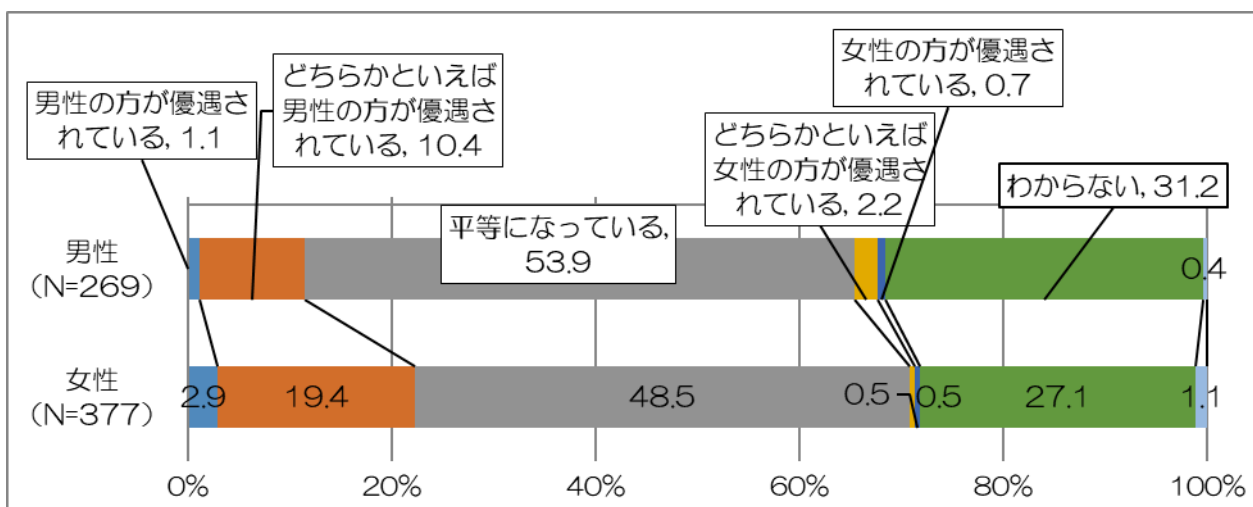
回答数(人)

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
男性(N=269)	3	28	145	6	2	84	1
女性(N=377)	11	73	183	2	2	102	4
その他(N=7)			4			3	
無回答(N=8)		1	5			2	
計(N=661)	14	102	337	8	4	191	5

回答割合(%)

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
男性(N=269)	1.1	10.4	53.9	2.2	0.7	31.2	0.4
女性(N=377)	2.9	19.4	48.5	0.5	0.5	27.1	1.1
その他(N=7)	0.0	0.0	57.1	0.0	0.0	42.9	0.0
無回答(N=8)	0.0	12.5	62.5	0.0	0.0	25.0	0.0
計(N=661)	2.1	15.4	51.0	1.2	0.6	28.9	0.8

学校教育の場について、回答者全体では「平等になっている」と回答した人が51%で最も高く、次いで「わからない」が28.9%と比較的高い割合となっています。

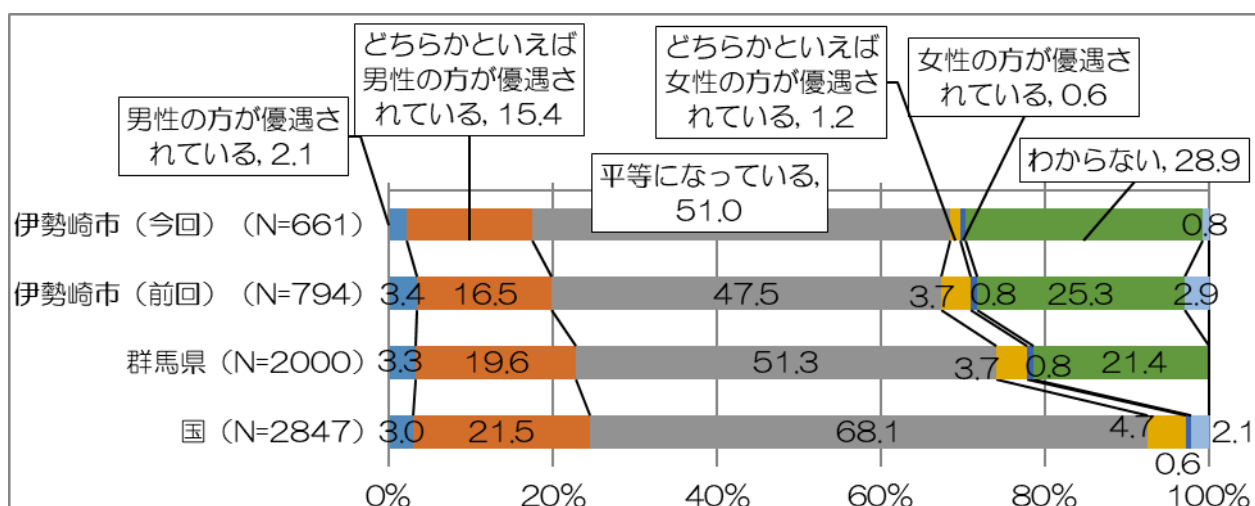


性別で比較すると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の回答割合が、女性の方が9ポイント高く、「平等になっている」は、男性の方が5.4ポイント高くなっています。

◇他調査との比較—学校教育の場—◇

回答割合(%)

	男性の方が 優遇されて いる	どちらかとい えば男性の 方が優遇さ れている	平等になっ ている	どちらかとい えば女性 の方が優遇さ れている	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
伊勢崎市(今回)(N=661)	2.1	15.4	51.0	1.2	0.6	28.9	0.8
伊勢崎市(前回)(N=794)	3.4	16.5	47.5	3.7	0.8	25.3	2.9
群馬県(N=2000)	3.3	19.6	51.3	3.7	0.8	21.4	
国(N=2847)	3.0	21.5	68.1	4.7	0.6		2.1



※国と群馬県は、本市の調査と選択肢の表現が若干異なるため、厳密な比較ではありません。

伊勢崎市の前回調査と比較すると、大きな傾向の違いは見られません。

群馬県との比較でも、概ね同様の傾向となっています。

国と比較すると、「平等になっている」が、伊勢崎市の方が17.1ポイントと大幅に低くなっています。

【地域の町内会や自治会など】

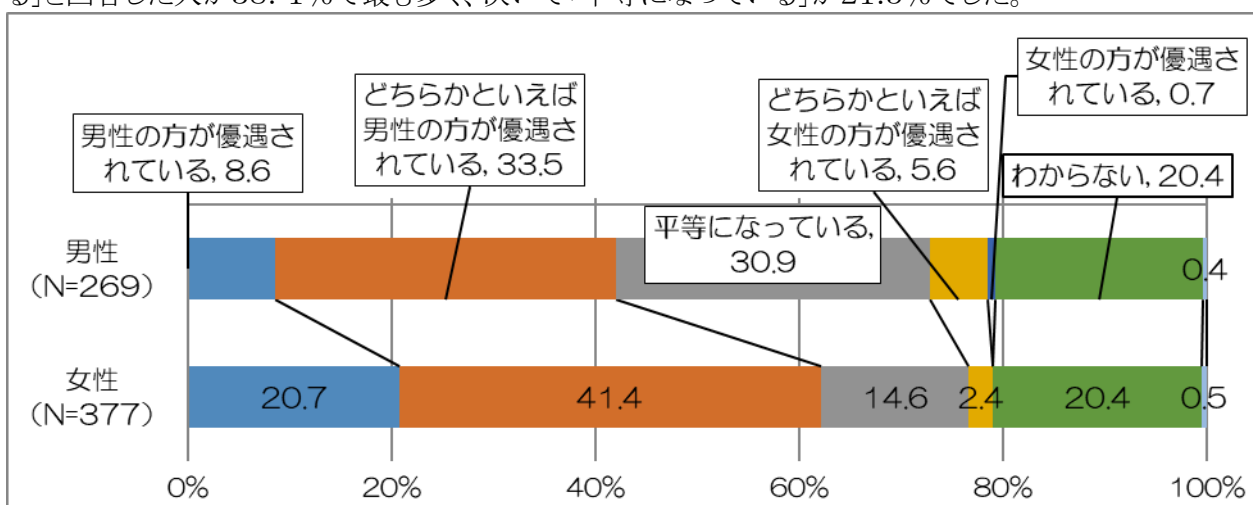
回答数(人)

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
男性(N=269)	23	90	83	15	2	55	1
女性(N=377)	78	156	55	9		77	2
その他(N=7)	1	2	2			2	
無回答(N=8)	2	4	2				
計(N=661)	104	252	142	24	2	134	3

回答割合(%)

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
男性(N=269)	8.6	33.5	30.9	5.6	0.7	20.4	0.4
女性(N=377)	20.7	41.4	14.6	2.4	0.0	20.4	0.5
その他(N=7)	14.3	28.6	28.6	0.0	0.0	28.6	0.0
無回答(N=8)	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計(N=661)	15.7	38.1	21.5	3.6	0.3	20.3	0.5

地域の町内会や自治会などについて、回答者全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人が38.1%で最も多く、次いで「平等になっている」が21.5%でした。

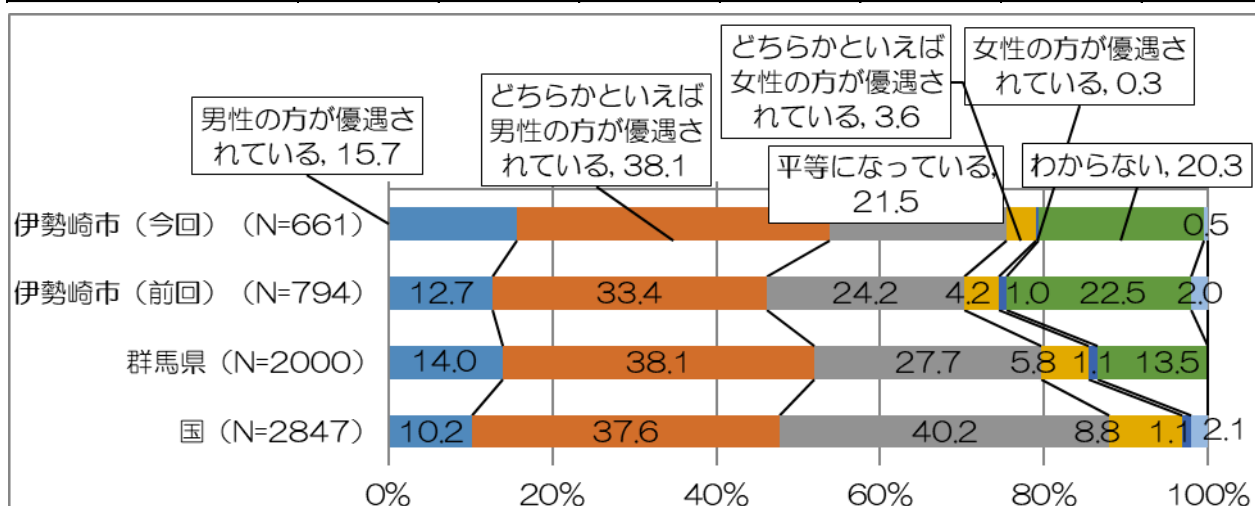


性別で比較すると、「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の回答割合が、いずれも女性の方が高く、「平等になっている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」は、いずれも男性の方が高くなっています。

◇他調査との比較—地域の町内会や自治会など—◇

回答割合(%)

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
伊勢崎市(今回)(N=661)	15.7	38.1	21.5	3.6	0.3	20.3	0.5
伊勢崎市(前回)(N=794)	12.7	33.4	24.2	4.2	1.0	22.5	2.0
群馬県(N=2000)	14.0	38.1	27.7	5.8	1.1	13.5	
国(N=2847)	10.2	37.6	40.2	8.8	1.1		2.1



※国と群馬県は、本市の調査と選択肢の表現が若干異なるため、厳密な比較ではありません。

伊勢崎市の前回調査と比較すると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が、4.7ポイント増加しています。

群馬県と比較すると、「平等になっている」が、伊勢崎市の方が6.2ポイント低くなっています。

国と比較すると、「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」がどちらも伊勢崎市の方がやや高く、「平等になっている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」は、どちらも伊勢崎市の方が低く、中でも「平等になっている」が、伊勢崎市の方が、18.7ポイントと大幅に低くなっています。

【法律や制度の上】

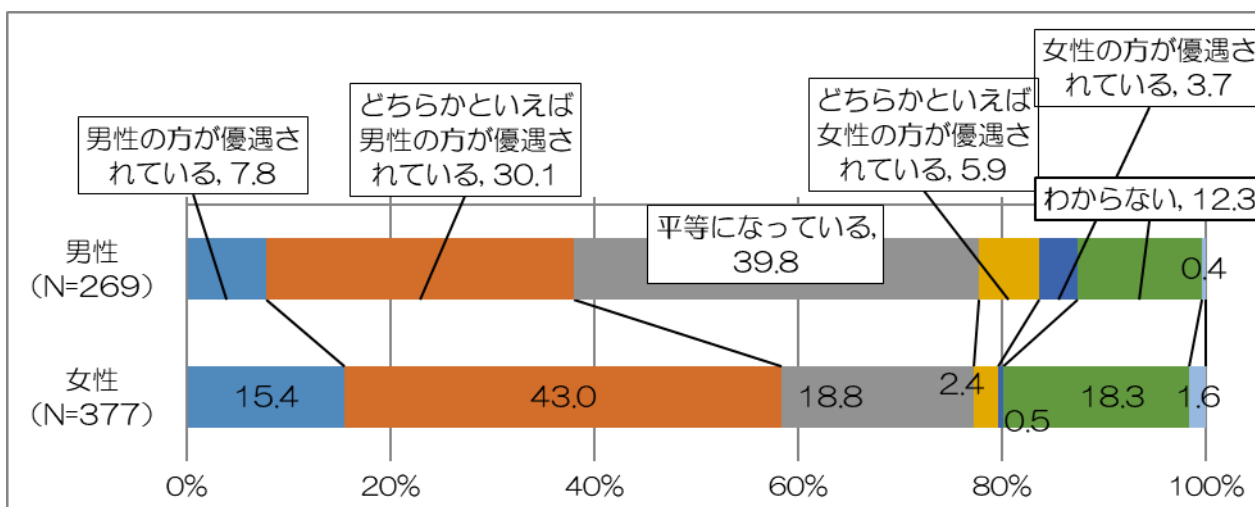
回答数(人)

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
男性(N=269)	21	81	107	16	10	33	1
女性(N=377)	58	162	71	9	2	69	6
その他(N=7)		2	3			2	
無回答(N=8)		3	2			3	
計(N=661)	79	248	183	25	12	107	7

回答割合(%)

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
男性(N=269)	7.8	30.1	39.8	5.9	3.7	12.3	0.4
女性(N=377)	15.4	43.0	18.8	2.4	0.5	18.3	1.6
その他(N=7)	0.0	28.6	42.9	0.0	0.0	28.6	0.0
無回答(N=8)	0.0	37.5	25.0	0.0	0.0	37.5	0.0
計(N=661)	12.0	37.5	27.7	3.8	1.8	16.2	1.1

法律や制度の上について、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人が37.5%で最も多く、次いで「平等になっている」の27.7%でした。

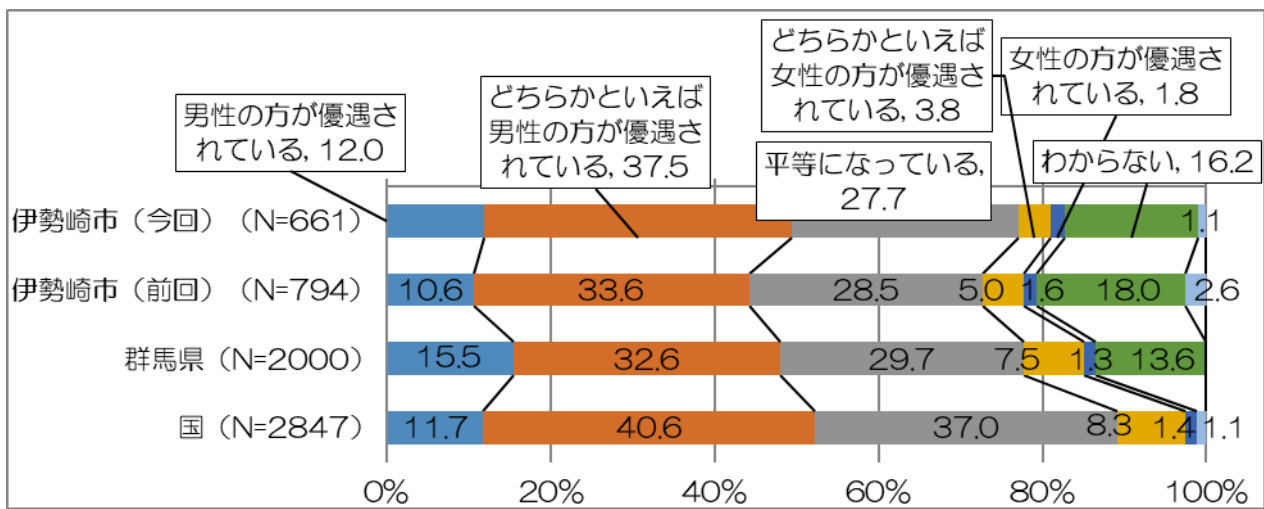


性別で比較すると、「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の回答割合はいずれも女性の方が高く、「平等になっている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」は、いずれも男性の方が高くなっています。

◇他調査との比較—法律や制度の上—◇

回答割合(%)

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
伊勢崎市(今回)(N=661)	12.0	37.5	27.7	3.8	1.8	16.2	1.1
伊勢崎市(前回)(N=794)	10.6	33.6	28.5	5.0	1.6	18.0	2.6
群馬県(N=2000)	15.5	32.6	29.7	7.5	1.3	13.6	
国(N=2847)	11.7	40.6	37.0	8.3	1.4		1.1



※国と群馬県は、本市の調査と選択肢の表現が若干異なるため、厳密な比較ではありません。

伊勢崎市の前回調査と比較すると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が、3.9ポイント増加しています。

群馬県と比較すると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が、伊勢崎市の方が4.9ポイント高くなっています。

国と比較すると、「平等になっている」が、伊勢崎市の方が9.3ポイント低くなっています。

【社会通念・慣習・しきたりなど】

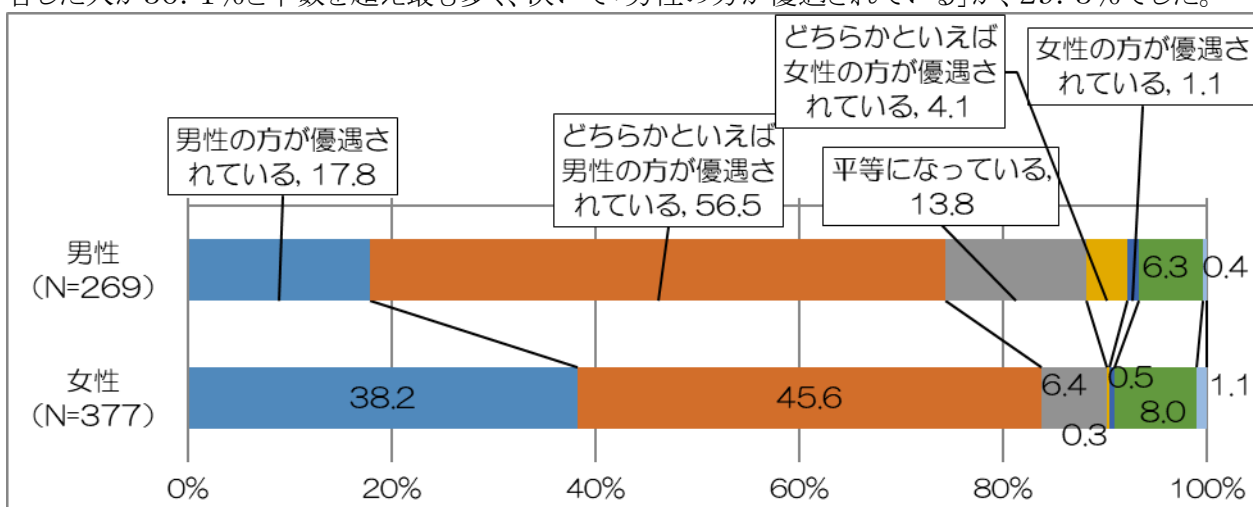
回答数(人)

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
男性(N=269)	48	152	37	11	3	17	1
女性(N=377)	144	172	24	1	2	30	4
その他(N=7)	1	3	1			2	
無回答(N=8)	2	4	2				
計(N=661)	195	331	64	12	5	49	5

回答割合(%)

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
男性(N=269)	17.8	56.5	13.8	4.1	1.1	6.3	0.4
女性(N=377)	38.2	45.6	6.4	0.3	0.5	8.0	1.1
その他(N=7)	14.3	42.9	14.3	0.0	0.0	28.6	0.0
無回答(N=8)	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計(N=661)	29.5	50.1	9.7	1.8	0.8	7.4	0.8

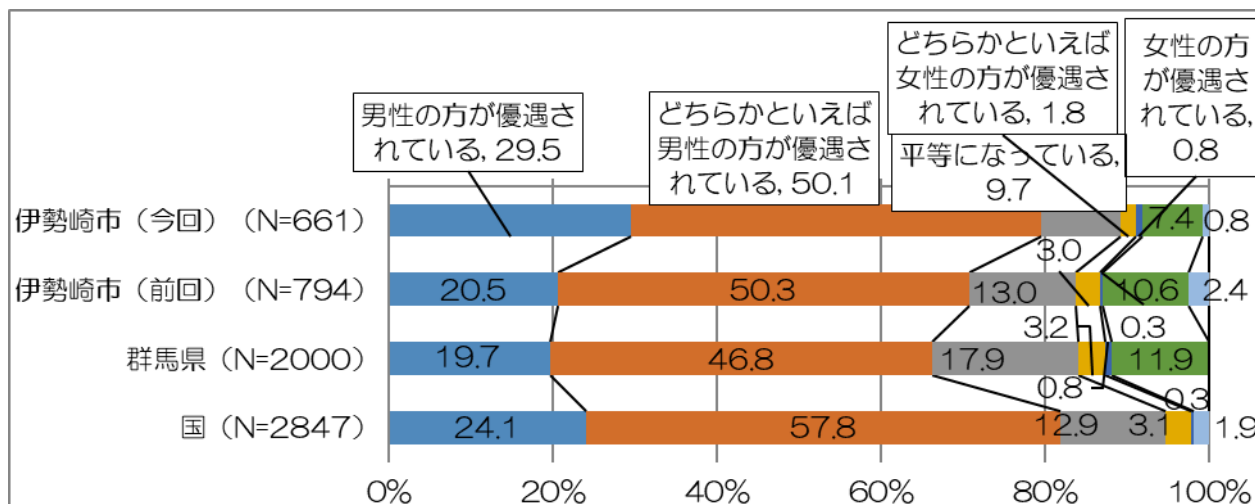
社会通念・慣習・しきたりなどについて、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人が50.1%と半数を超え最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」が、29.5%でした。



性別で比較すると、「男性の方が優遇されている」の回答割合が、女性の方が20.4ポイントと大幅に高く、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は、10.9ポイント男性の方が高くなっています。

◇他調査との比較—社会通念・慣習・しきたりなど—◇
回答割合(%)

	男性の方が 優遇されて いる	どちらかとい えば男性の 方が優遇さ れている	平等になっ ている	どちらかとい えば女性 の方が優遇さ れている	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答	計
伊勢崎市(今回)(N=661)	29.5	50.1	9.7	1.8	0.8	7.4	0.8	100.0
伊勢崎市(前回)(N=794)	20.5	50.3	13.0	3.0	0.3	10.6	2.4	100.0
群馬県(N=2000)	19.7	46.8	17.9	3.2	0.8	11.9		100.3
国(N=2847)	24.1	57.8	12.9	3.1	0.3		1.9	100.1



※国と群馬県は、本市の調査と選択肢の表現が若干異なるため、厳密な比較ではありません。

伊勢崎市の前回調査と比較すると、「男性の方が優遇されている」が、9ポイント増加しています。

群馬県と比較すると、「男性の方が優遇されている」が、伊勢崎市の方が9.8ポイント高く、「平等になっている」が、伊勢崎市の方が8.2ポイント低くなっています。

国と比較すると、「男性の方が優遇されている」が、伊勢崎市の方が5.4ポイント高く、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が、伊勢崎市の方が7.7ポイント低くなっています。

【政治の場】

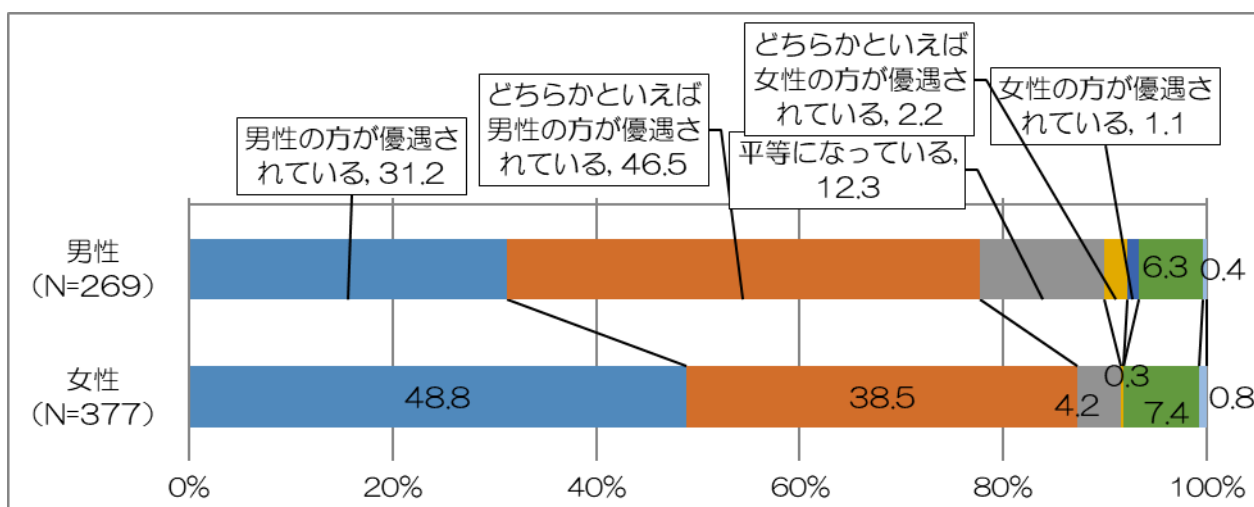
回答数(人)

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
男性(N=269)	84	125	33	6	3	17	1
女性(N=377)	184	145	16	1		28	3
その他(N=7)		2	3			2	
無回答(N=8)	4	4					
計(N=661)	272	276	52	7	3	47	4

回答割合(%)

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
男性(N=269)	31.2	46.5	12.3	2.2	1.1	6.3	0.4
女性(N=377)	48.8	38.5	4.2	0.3	0.0	7.4	0.8
その他(N=7)	0.0	28.6	42.9	0.0	0.0	28.6	0.0
無回答(N=8)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計(N=661)	41.1	41.8	7.9	1.1	0.5	7.1	0.6

政治の場について、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人が41.8%で最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」で41.1%でした。

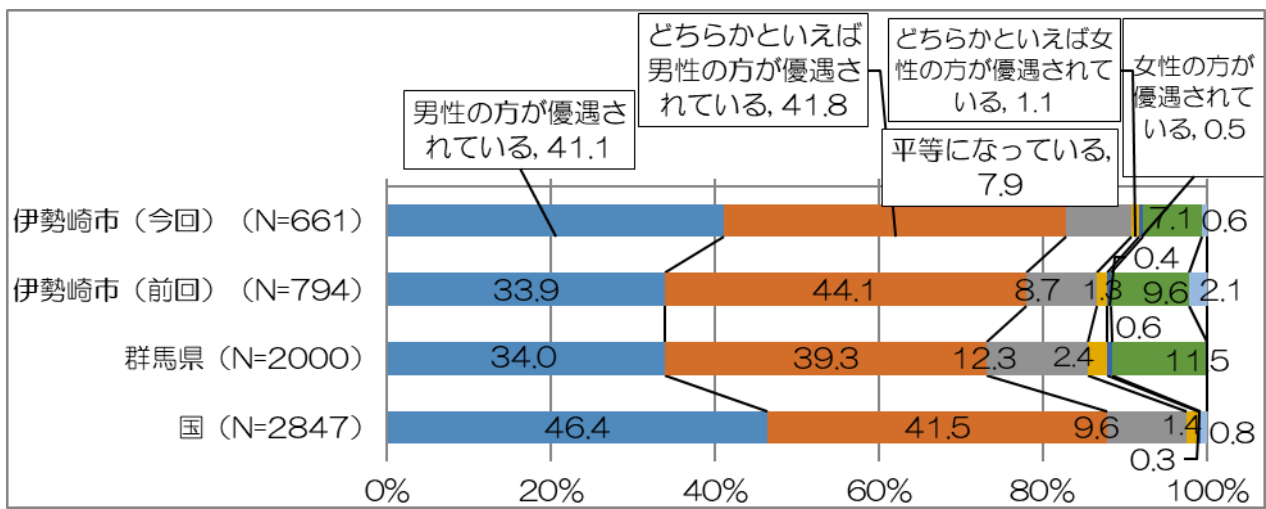


性別で比較すると、「男性の方が優遇されている」回答割合が、女性の方が17.6ポイントと大幅に高く、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は、男性の方が8ポイント高くなっています。

◇他調査との比較—政治の場—◇

回答割合(%)

	男性の方が 優遇されて いる	どちらかとい えば男性の 方が優遇さ れている	平等になっ ている	どちらかとい えば女性 の方が優遇さ れている	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
伊勢崎市(今回)(N=661)	41.1	41.8	7.9	1.1	0.5	7.1	0.6
伊勢崎市(前回)(N=794)	33.9	44.1	8.7	1.3	0.4	9.6	2.1
群馬県(N=2000)	34.0	39.3	12.3	2.4	0.6	11.5	
国(N=2847)	46.4	41.5	9.6	1.4	0.3		0.8



※国と群馬県は、本市の調査と選択肢の表現が若干異なるため、厳密な比較ではありません。

伊勢崎市の前回調査と比較すると、「男性の方が優遇されている」が、7.2ポイント増加しています。群馬県と比較すると、「男性の方が優遇されている」が、伊勢崎市の方が7.1ポイント高くなっています。

国と比較すると、「男性の方が優遇されている」が、伊勢崎市の方が5.3ポイント低くなっています。

【社会全体の中】

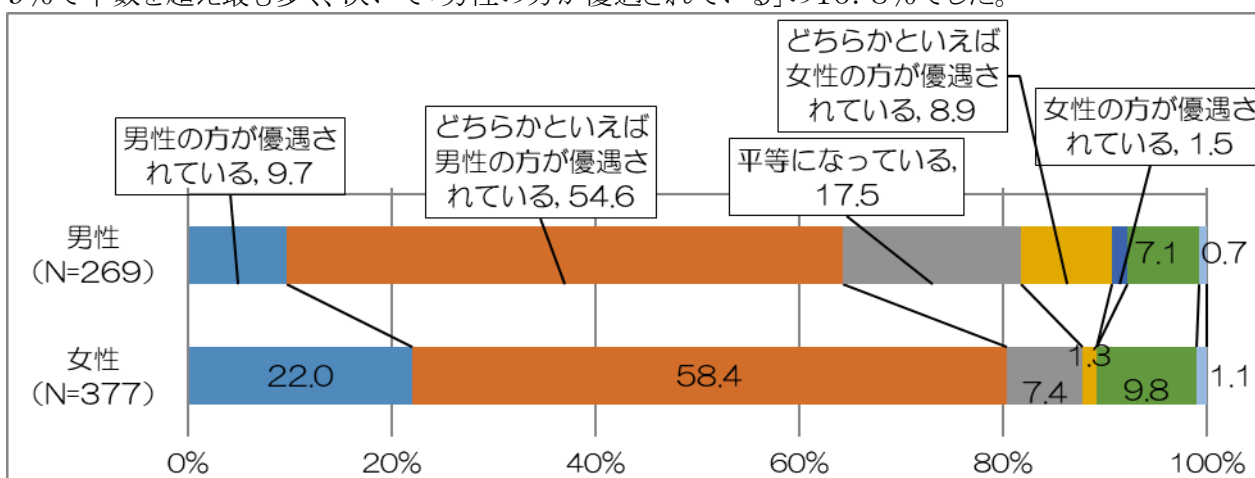
回答数(人)

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
男性(N=269)	26	147	47	24	4	19	2
女性(N=377)	83	220	28	5		37	4
その他(N=7)	1	3	1			2	
無回答(N=8)	1	6				1	
計(N=661)	111	376	76	29	4	59	6

回答割合(%)

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
男性(N=269)	9.7	54.6	17.5	8.9	1.5	7.1	0.7
女性(N=377)	22.0	58.4	7.4	1.3	0.0	9.8	1.1
その他(N=7)	14.3	42.9	14.3	0.0	0.0	28.6	0.0
無回答(N=8)	12.5	75.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0
計(N=661)	16.8	56.9	11.5	4.4	0.6	8.9	0.9

社会全体の中について、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人が56.9%で半数を超え最も多く、次いで「男性の方が優遇されている」の16.8%でした。

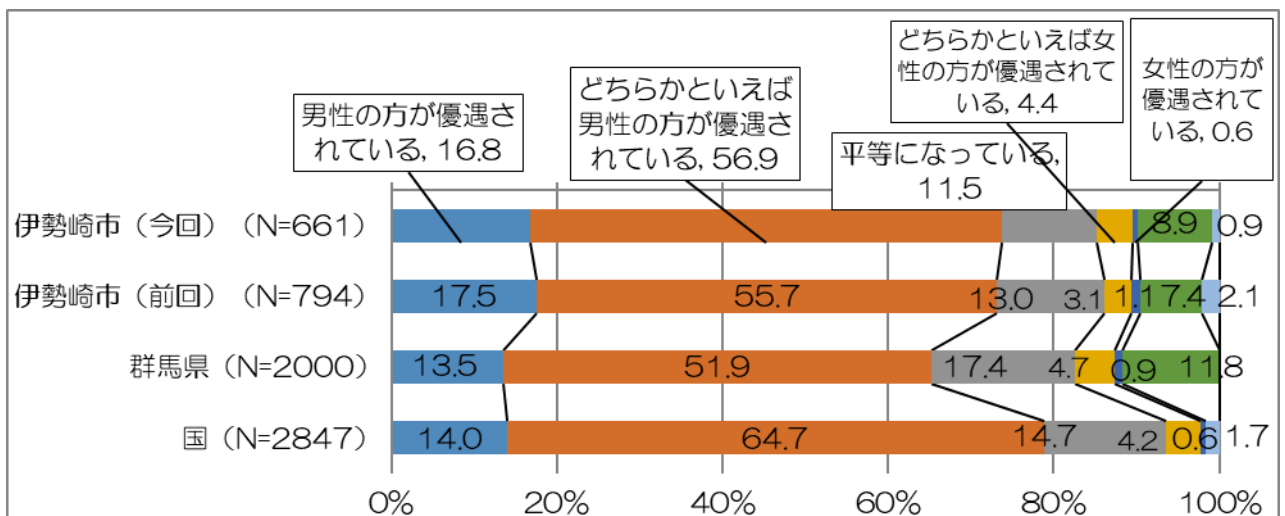


性別で比較すると、「男性の方が優遇されている」が12.3ポイントと大幅に女性の方が高く、「平等になっている」は、男性の方が10.1ポイント高くなっています。

◇他調査との比較—社会全体の中—◇

回答割合(%)

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
伊勢崎市(今回)(N=661)	16.8	56.9	11.5	4.4	0.6	8.9	0.9
伊勢崎市(前回)(N=794)	17.5	55.7	13.0	3.1	1.1	7.4	2.1
群馬県(N=2000)	13.5	51.9	17.4	4.7	0.9	11.8	
国(N=2847)	14.0	64.7	14.7	4.2	0.6		1.7



※国と群馬県は、本市の調査と選択肢の表現が若干異なるため、厳密な比較ではありません。

伊勢崎市の前回調査と比較すると、大きな傾向の違いは見られません。

群馬県と比較すると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が、伊勢崎市の方が5ポイント高く、「平等になっている」は、伊勢崎市の方が5.9ポイント低くなっています。

国と比較すると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が、伊勢崎市の方が7.8ポイント低くなっています。

◇全分野の比較—男女の平等感（問1）—◇

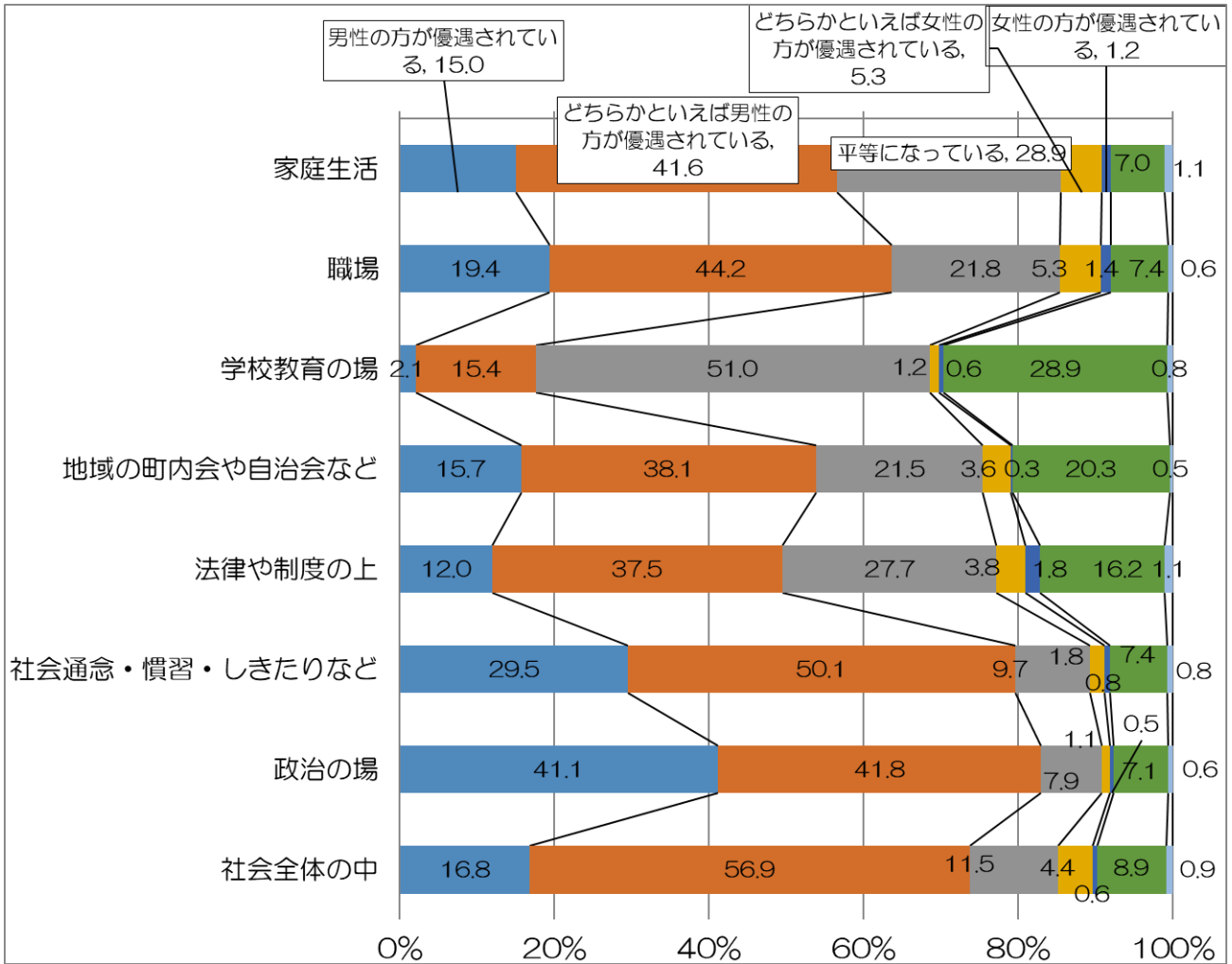
回答件数（人）

	男性の方が 優遇されて いる	どちらかとい えば男性の 方が優遇さ れている	平等になっ ている	どちらかとい えば女性の 方が優遇さ れている	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
家庭生活	99	275	191	35	8	46	7
職場	128	292	144	35	9	49	4
学校教育の場	14	102	337	8	4	191	5
地域の町内会 や自治会など	104	252	142	24	2	134	3
法律や制度の 上	79	248	183	25	12	107	7
社会通念・慣 習・しきたりなど	195	331	64	12	5	49	5
政治の場	272	276	52	7	3	47	4
社会全体の中	111	376	76	29	4	59	6

回答割合（％）

	男性の方が 優遇されて いる	どちらかとい えば男性の 方が優遇さ れている	平等になっ ている	どちらかとい えば女性の 方が優遇さ れている	女性の方が 優遇されて いる	わからない	無回答
家庭生活	15.0	41.6	28.9	5.3	1.2	7.0	1.1
職場	19.4	44.2	21.8	5.3	1.4	7.4	0.6
学校教育の 場	2.1	15.4	51.0	1.2	0.6	28.9	0.8
地域の町内会 や自治会など	15.7	38.1	21.5	3.6	0.3	20.3	0.5
法律や制度 の上	12.0	37.5	27.7	3.8	1.8	16.2	1.1
社会通念・慣 習・しきたりなど	29.5	50.1	9.7	1.8	0.8	7.4	0.8
政治の場	41.1	41.8	7.9	1.1	0.5	7.1	0.6
社会全体の中	16.8	56.9	11.5	4.4	0.6	8.9	0.9

男女の平等感（問1）全分野の比較
回答割合（%）



回答割合を全分野で比較すると、男性が優遇されている（「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）回答が高い分野は「政治の場」で、平等との回答が高い分野は「学校教育の場」でした。

また、女性が優遇されている（「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計）との回答はどの分野も低いながら、相対的に高いのは「家庭生活」と「職場」の分野で、最も低いのは「政治の場」でした。

2 結婚や家庭生活について

問2 結婚や家庭に関する次のような考え方について、どう思いますか。
(それぞれ1つに○)

【結婚は個人の自由であるから、してもしなくても良い】

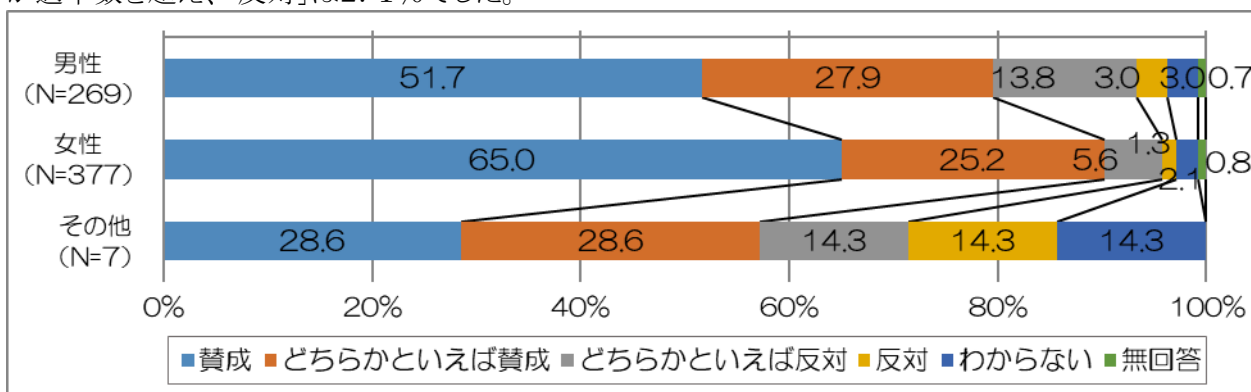
回答数(人)

	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	わからない	無回答
男性(N=269)	139	75	37	8	8	2
女性(N=377)	245	95	21	5	8	3
その他(N=7)	2	2	1	1	1	
無回答(N=8)	2	5			1	
計(N=661)	388	177	59	14	18	5

回答割合(%)

	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	わからない	無回答
男性(N=269)	51.7	27.9	13.8	3.0	3.0	0.7
女性(N=377)	65.0	25.2	5.6	1.3	2.1	0.8
その他(N=7)	28.6	28.6	14.3	14.3	14.3	0.0
無回答(N=8)	25.0	62.5	0.0	0.0	12.5	0.0
計(N=661)	58.7	26.8	8.9	2.1	2.7	0.8

「結婚は個人の自由であるから、してもしなくても良い」という考え方について、回答者全体では「賛成」が過半数を超え、「反対」は2.1%でした。



性別で比較すると、「賛成」の傾向が高いのは男女とも共通ですが、女性の方がより「賛成」の割合が高く、「反対」は、男性の方がやや高くなっています。

【結婚してもうまくいかなければ離婚してもかまわない】

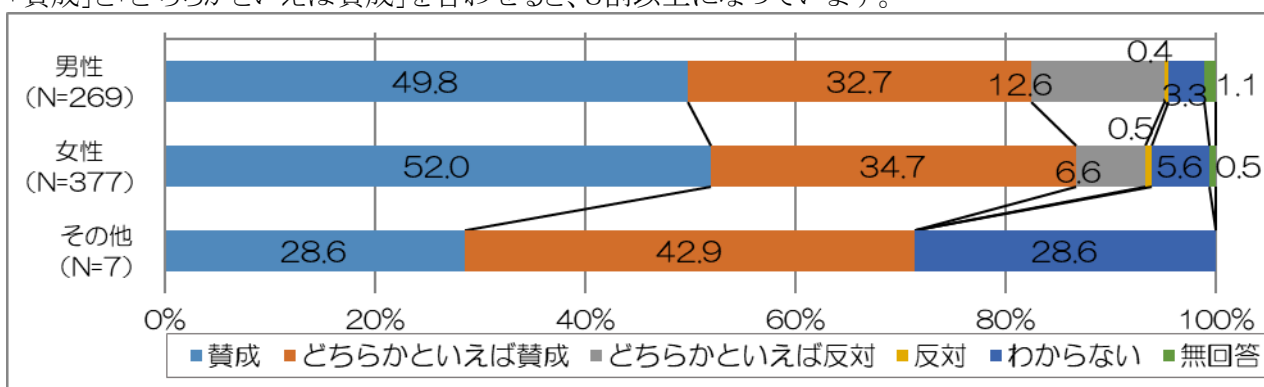
回答数(人)

	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	わからない	無回答
男性(N=269)	134	88	34	1	9	3
女性(N=377)	196	131	25	2	21	2
その他(N=7)	2	3			2	
無回答(N=8)	3	4			1	
計(N=661)	335	226	59	3	33	5

回答割合(%)

	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	わからない	無回答
男性(N=269)	49.8	32.7	12.6	0.4	3.3	1.1
女性(N=377)	52.0	34.7	6.6	0.5	5.6	0.5
その他(N=7)	28.6	42.9	0.0	0.0	28.6	0.0
無回答(N=8)	37.5	50.0	0.0	0.0	12.5	0.0
計(N=661)	50.7	34.2	8.9	0.5	5.0	0.8

「結婚してもうまくいかなければ離婚してもかまわない」という考え方について、回答者全体では「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせると、8割以上になっています。



性別で比較すると、「賛成」の傾向が高いのは男女とも共通ですが、女性の方がやや「賛成」の割合が高くなっています。

【結婚したら、家族のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だ。】

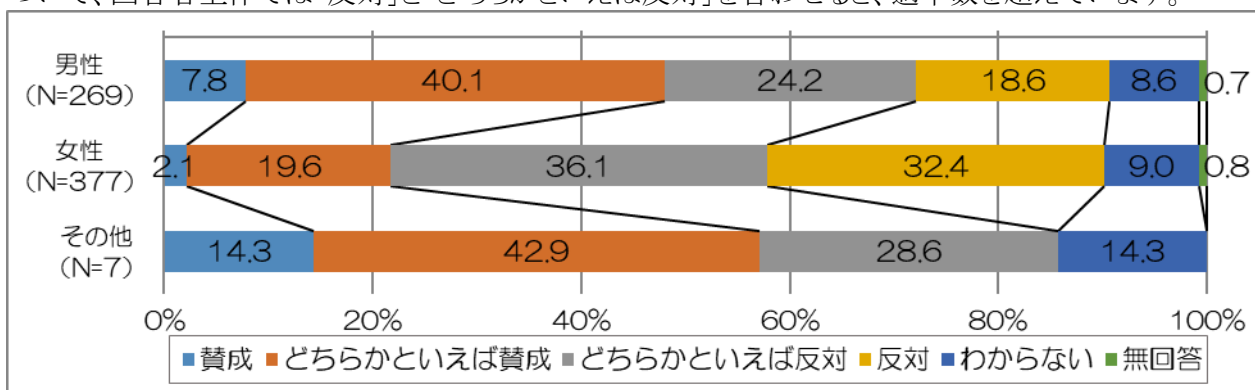
回答数(人)

	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	わからない	無回答
男性(N=269)	21	108	65	50	23	2
女性(N=377)	8	74	136	122	34	3
その他(N=7)	1	3	2		1	
無回答(N=8)			7		1	
計(N=661)	30	185	210	172	59	5

回答割合(%)

	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	わからない	無回答
男性(N=269)	7.8	40.1	24.2	18.6	8.6	0.7
女性(N=377)	2.1	19.6	36.1	32.4	9.0	0.8
その他(N=7)	14.3	42.9	28.6	0.0	14.3	0.0
無回答(N=8)	0.0	0.0	87.5	0.0	12.5	0.0
計(N=661)	4.5	28.0	31.8	26.0	8.9	0.8

「結婚したら、家族のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だ。」という考え方について、回答者全体では「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせると、過半数を超えています。



性別で比較すると、男性の方が「賛成」の傾向が高く、女性の方が「反対」の傾向が高く、性別による差が見られます。

【結婚したら、子どもを持つべきだ】

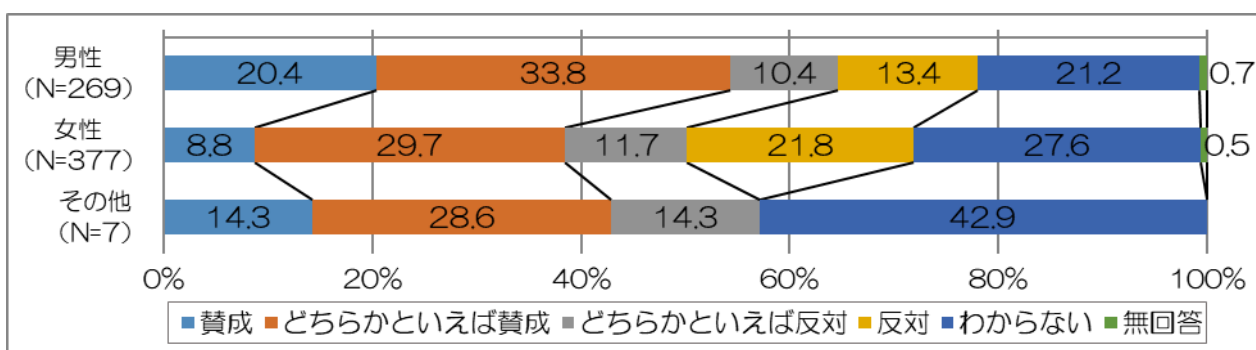
回答数(人)

	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	わからない	無回答
男性(N=269)	55	91	28	36	57	2
女性(N=377)	33	112	44	82	104	2
その他(N=7)	1	2	1		3	
無回答(N=8)	1	5			2	
計(N=661)	90	210	73	118	166	4

回答割合(%)

	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	わからない	無回答
男性(N=269)	20.4	33.8	10.4	13.4	21.2	0.7
女性(N=377)	8.8	29.7	11.7	21.8	27.6	0.5
その他(N=7)	14.3	28.6	14.3	0.0	42.9	0.0
無回答(N=8)	12.5	62.5	0.0	0.0	25.0	0.0
計(N=661)	13.6	31.8	11.0	17.9	25.1	0.6

「結婚したら、子どもを持つべきだ」という考え方について、回答者全体では、賛成の傾向が高く、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせて、4割強となっています。また、「わからない」との回答も2割を超えています。



性別で比較すると、男性の方が「賛成」の傾向が高く、女性の方が「反対」の傾向が高く、性別による差が見られます。

【夫婦の別性が認められたほうが良い】

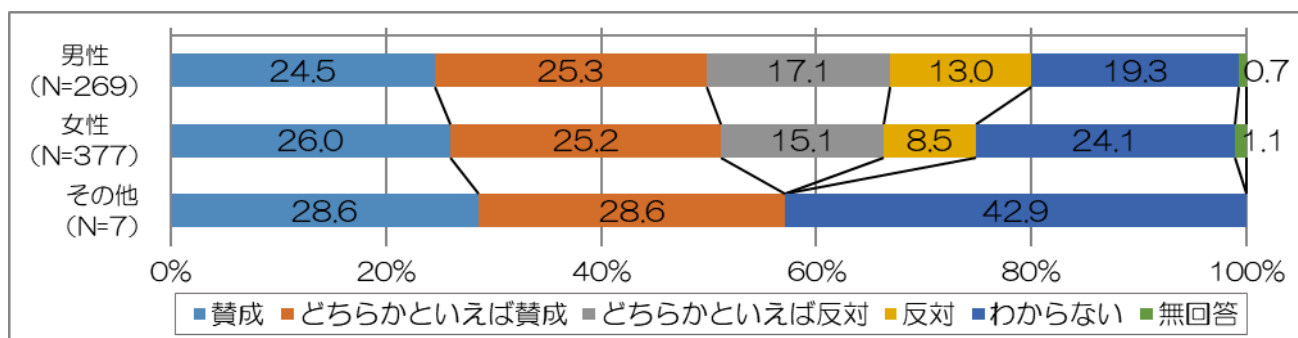
回答数(人)

	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	わからない	無回答
男性(N=269)	66	68	46	35	52	2
女性(N=377)	98	95	57	32	91	4
その他(N=7)	2	2			3	
無回答(N=8)	3	1	3		1	
計(N=661)	169	166	106	67	147	6

回答割合(%)

	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	わからない	無回答
男性(N=269)	24.5	25.3	17.1	13.0	19.3	0.7
女性(N=377)	26.0	25.2	15.1	8.5	24.1	1.1
その他(N=7)	28.6	28.6	0.0	0.0	42.9	0.0
無回答(N=8)	37.5	12.5	37.5	0.0	12.5	0.0
計(N=661)	25.6	25.1	16.0	10.1	22.2	0.9

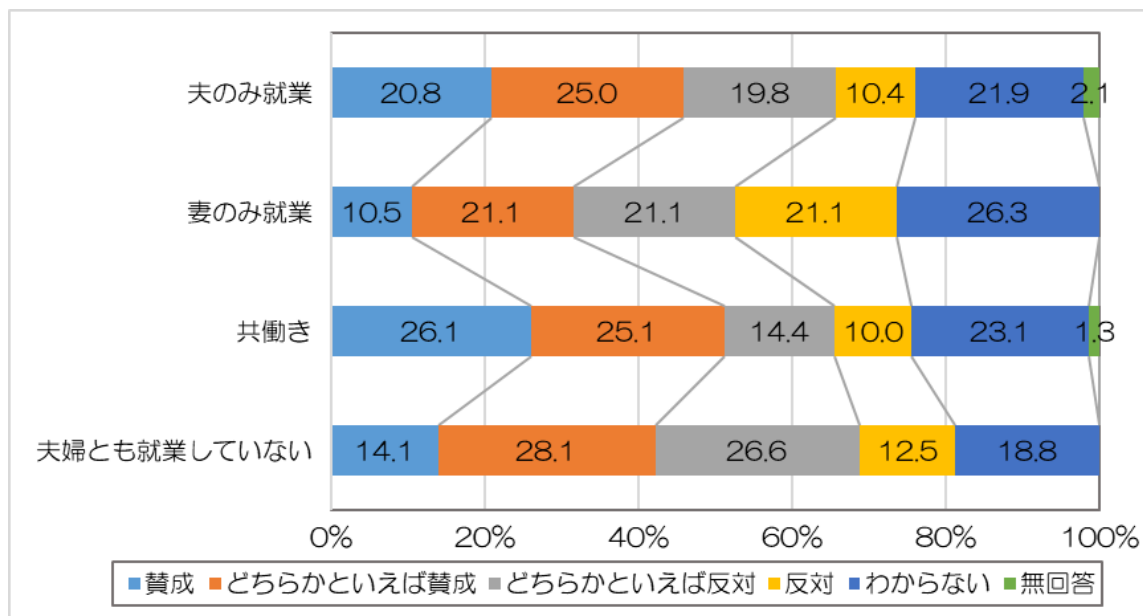
「夫婦の別性が認められたほうが良い」という考え方について、回答者全体では、「賛成」と「どちらかといえれば賛成」を合わせて、過半数を超えています。また、「わからない」との回答も2割を超えています。



性別で比較すると、大きな傾向の差は見られませんが、「反対」が、やや男性の方が高くなっています。

◇クロス集計—夫婦の別姓が認められた方が良い（問2）×夫婦の働き方—◇

回答割合(%)



「夫婦の別姓が認められたほうが良い」という考え方について、「賛成」の回答割合が比較的高いのは「共働き」の世帯で、「反対」の回答割合が高いのは「妻のみ就業」世帯でした。

問3 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはご意見を
 述べ
 (1つに○)

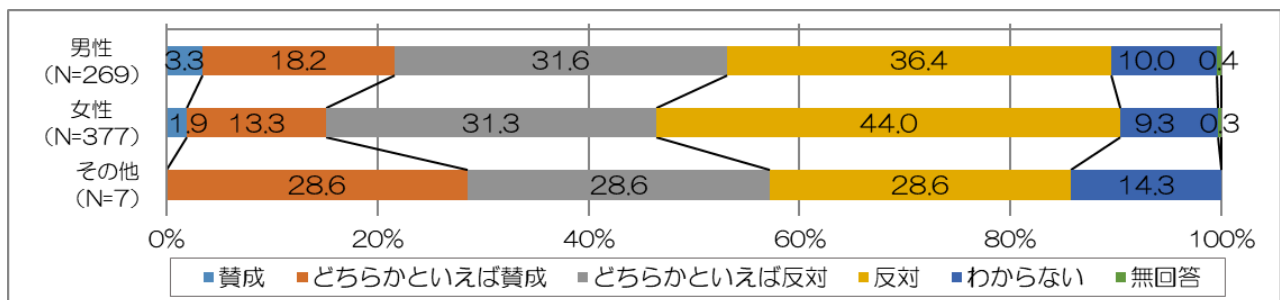
回答数(人)

	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	わからない	無回答
男性(N=269)	9	49	85	98	27	1
女性(N=377)	7	50	118	166	35	1
その他(N=7)		2	2	2	1	
無回答(N=8)			4	1	3	
計(N=661)	16	101	209	267	66	2

回答割合(%)

	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	わからない	無回答
男性(N=269)	3.3	18.2	31.6	36.4	10.0	0.4
女性(N=377)	1.9	13.3	31.3	44.0	9.3	0.3
その他(N=7)	0.0	28.6	28.6	28.6	14.3	0.0
無回答(N=8)	0.0	0.0	50.0	12.5	37.5	0.0
計(N=661)	2.4	15.3	31.6	40.4	10.0	0.3

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、回答者全体では、「反対」と「ど
 ちらかといえば反対」を合わせて、7割以上になっています。

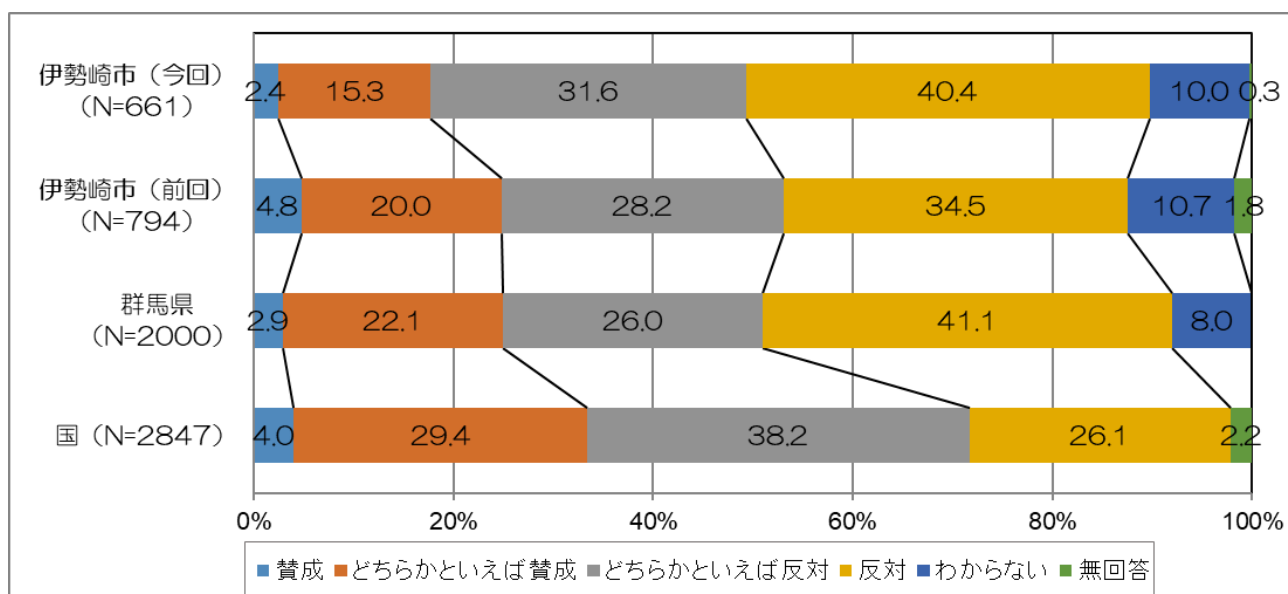


性別で比較すると、女性の方が「反対」傾向が高くなっています。

◇他調査との比較—夫は仕事、妻は家庭を中心にすべきである（問3）—◇

回答割合(%)

	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	わからない	無回答
伊勢崎市(今回)(N=661)	2.4	15.3	31.6	40.4	10.0	0.3
伊勢崎市(前回)(N=794)	4.8	20.0	28.2	34.5	10.7	1.8
群馬県(N=2000)	2.9	22.1	26.0	41.1	8.0	
国(N=2847)	4.0	29.4	38.2	26.1		2.2



※国と群馬県は、本市の調査と選択肢の表現が若干異なるため、厳密な比較ではありません。

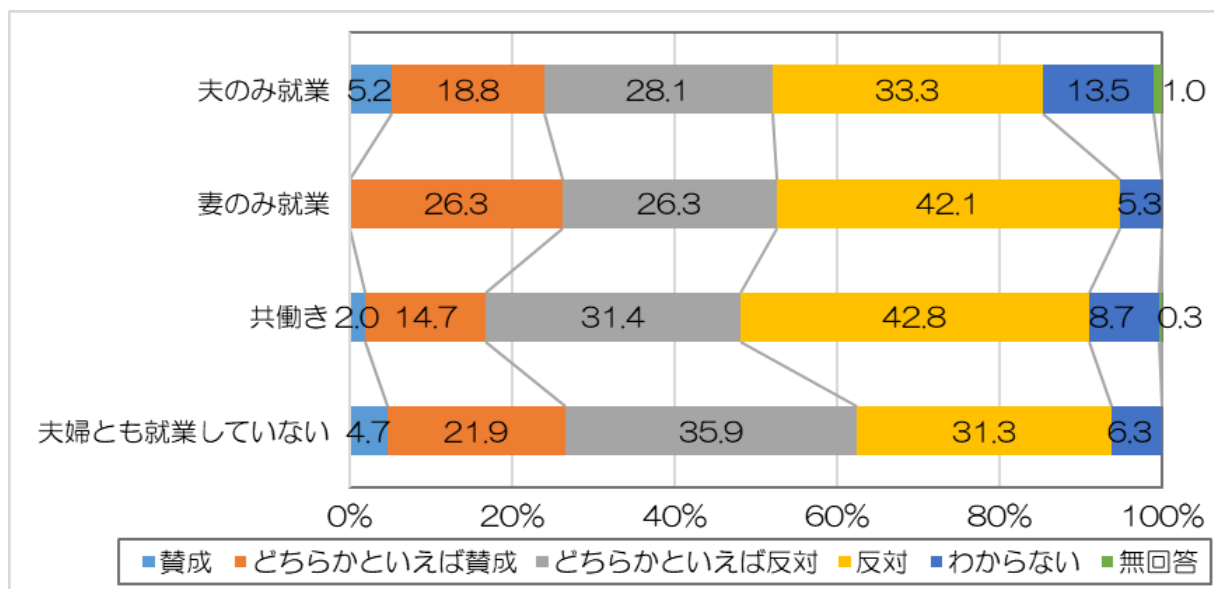
伊勢崎市の前回調査と比較すると、「賛成」、「どちらかといえば賛成」の回答割合が、どちらも減少、「反対」、「どちらかといえば反対」は、どちらも増加しています。

群馬県と比較すると、「どちらかといえば賛成」が、伊勢崎市の方が6.8ポイント低くなっています。

国と比較すると、「反対」が、伊勢崎市の方が14.3ポイント高く、「どちらかといえば賛成」が、伊勢崎市の方が14.1ポイント低くなっています。

◇クロス集計—夫は仕事、妻は家庭を中心にすべきである（問3）×夫婦の働き方—◇

回答割合(%)



「夫は仕事、妻は家庭を中心にすべきである」という考え方について、回答者全体では、「反対」の傾向が高く、中でも「反対」の傾向が高いのは「共働き」世帯でした。

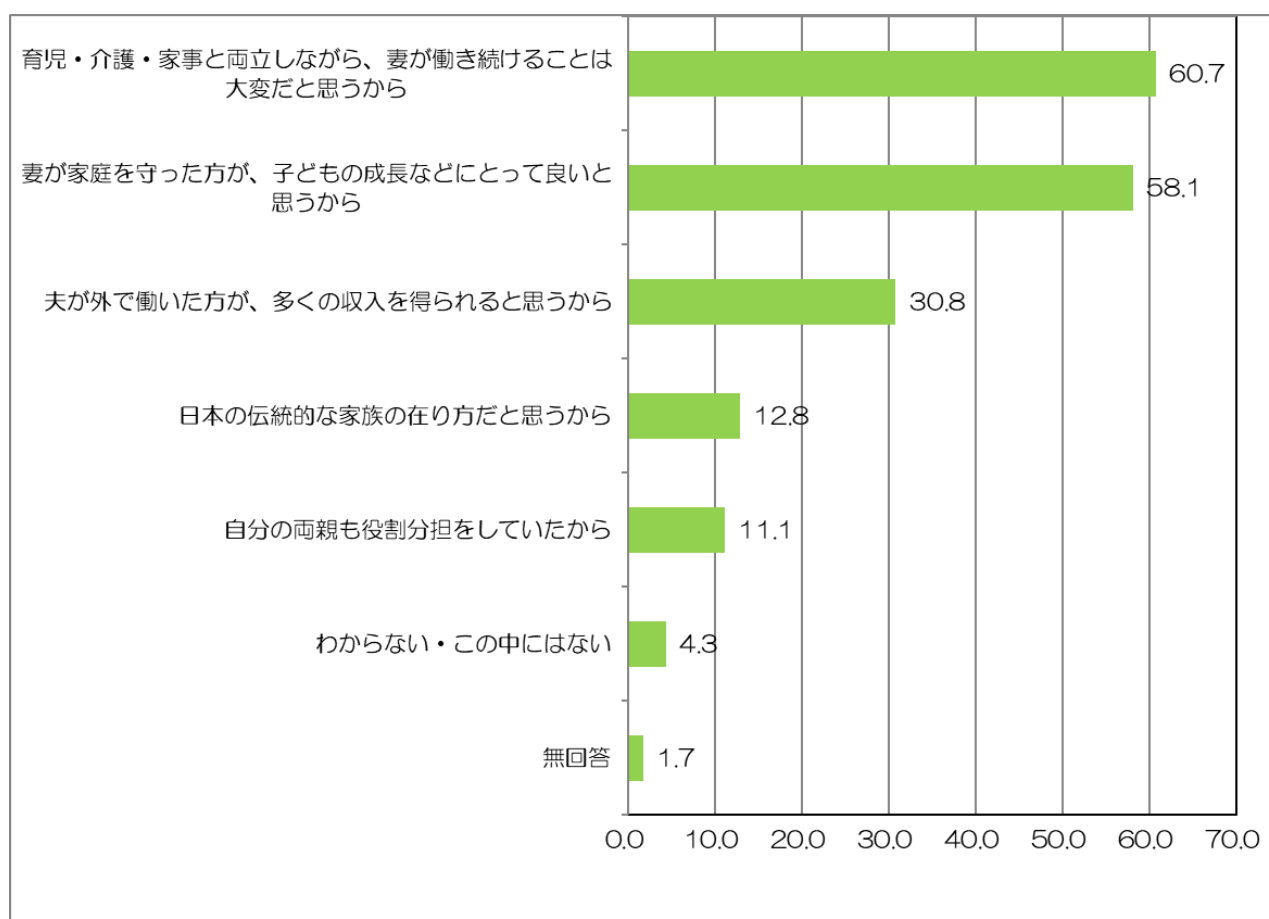
問4-1 賛成と思うのはなぜですか

(あてはまるものすべてに○)

※問3で「1.賛成」、「2. どちらかといえば賛成」と答えた方への設問

	回答数(人)	回答割合(%) N=117
育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから	71	60.7
妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから	68	58.1
夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから	36	30.8
日本の伝統的な家族の在り方だと思うから	15	12.8
自分の両親も役割分担をしていたから	13	11.1
わからない・この中にはない	5	4.3
無回答	2	1.7

回答割合(%)



「夫は仕事、妻は家庭を中心にすべきである」で賛成と思う理由について、「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が最も多く60.7%でした。次いで、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が、58.1%でした。

問3で賛成と思う理由について(問4-1)性別比較

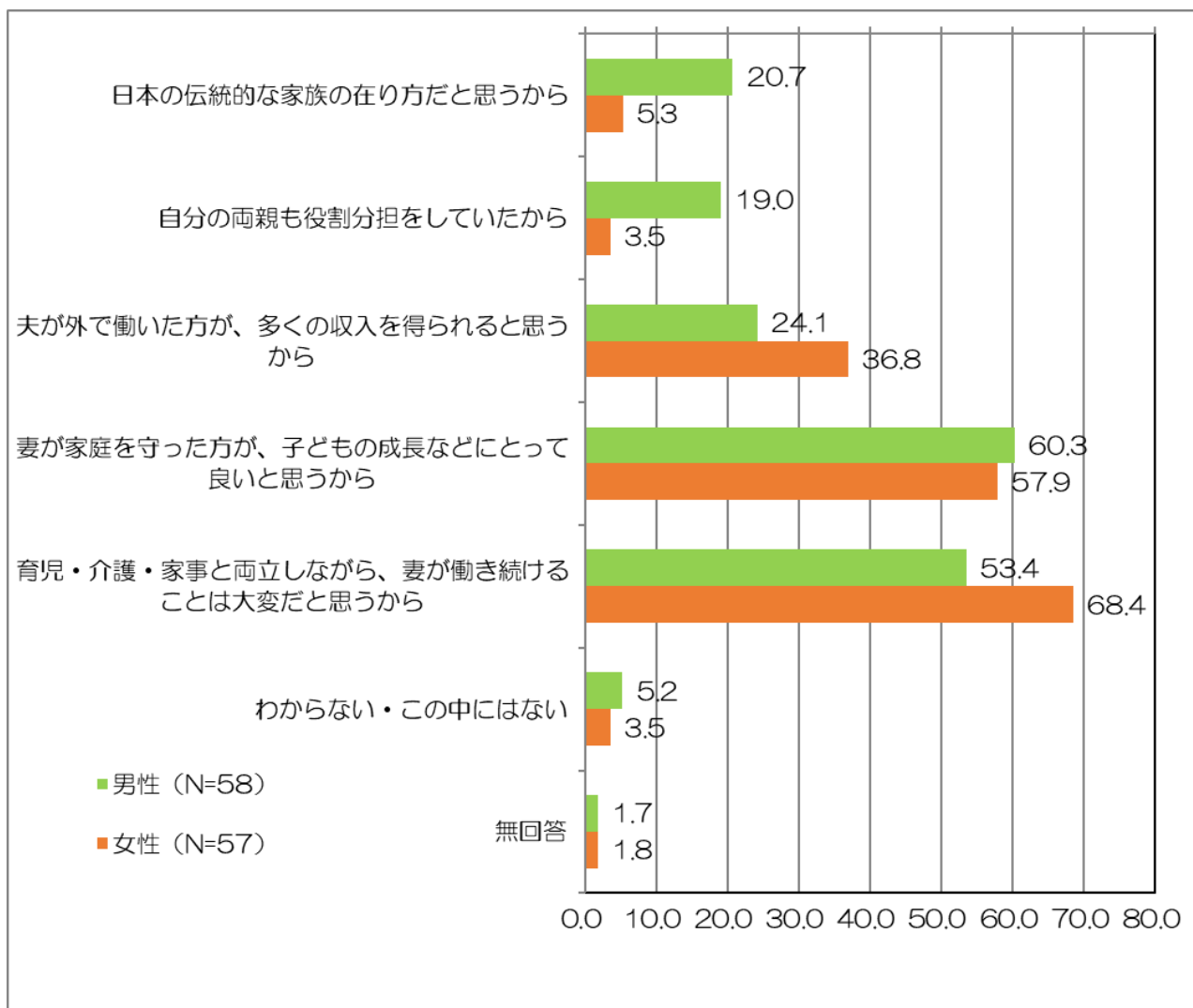
回答数(人)

	日本の伝統的な家族の在り方だと思うから	自分の両親も役割分担をしていたから	夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから	妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから	育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから	わからない・この中にはない	無回答
男性(N=58)	12	11	14	35	31	3	1
女性(N=57)	3	2	21	33	39	2	1
その他(N=2)	0	0	1	0	1	0	0
無回答(N=0)	0	0	0	0	0	0	0
計(N=117)	15	13	36	68	71	5	2

回答割合(%)

	日本の伝統的な家族の在り方だと思うから	自分の両親も役割分担をしていたから	夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから	妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから	育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから	わからない・この中にはない	無回答
男性(N=58)	20.7	19.0	24.1	60.3	53.4	5.2	1.7
女性(N=57)	5.3	3.5	36.8	57.9	68.4	3.5	1.8
その他(N=2)	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
無回答(N=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計(N=117)	12.8	11.1	30.8	58.1	60.7	4.3	1.7

回答割合(%)

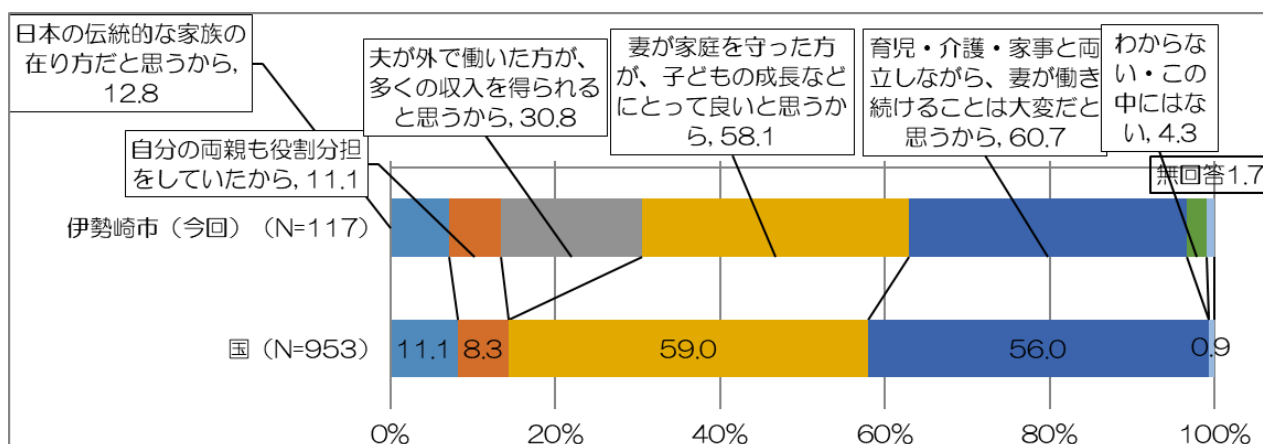


性別で比較すると、「日本の伝統的な家族の在り方だと思うから」、「自分の両親も役割分担をしていたから」がいずれも男性の方が15ポイント以上高く、一方、「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」、女性の方が15ポイント以上高くなっています。

◇他調査との比較—賛成と思うのはなぜですか（問4-1）—◇

回答割合(%)

	日本の伝統的な家族の在り方だと思うから	自分の両親も役割分担をしていたから	夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから	妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから	育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから	わからない・この中にはない	無回答
伊勢崎市(今回)(N=117)	12.8	11.1	30.8	58.1	60.7	4.3	1.7
国(N=953)	11.1	8.3	-	59.0	56.0	-	0.9



※国は、本市の調査と選択肢が同一ではありません。

国と比較すると、大きな傾向の違いは見られません。

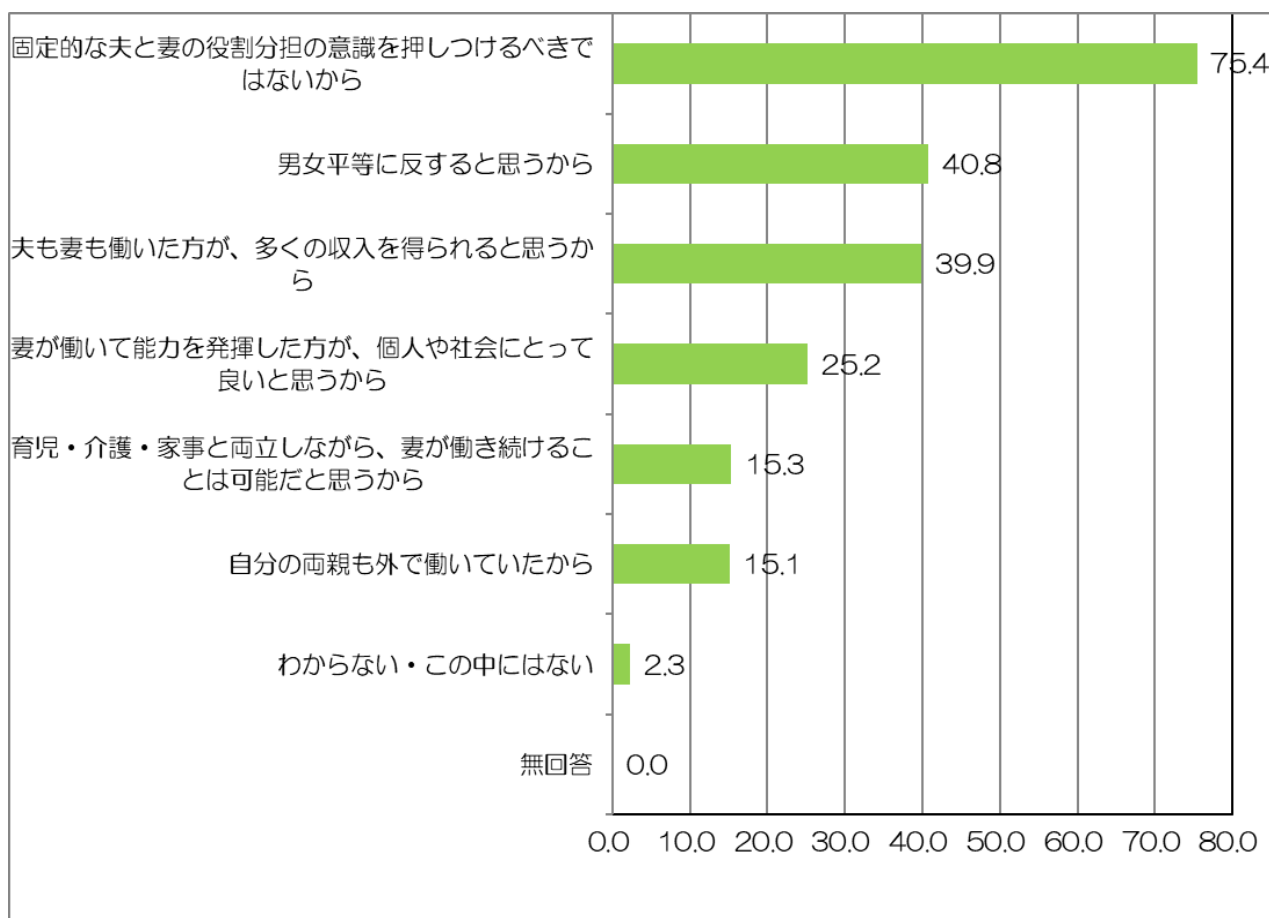
問4-2 反対と思うのはなぜですか

(あてはまるものすべてに○)

※問3で「4.反対」、「3.どちらかといえば反対」と答えた方への設問

	回答数(人)	回答割合(%) N=476
固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから	359	75.4
男女平等に反すると思うから	194	40.8
夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られると思うから	190	39.9
妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから	120	25.2
育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから	73	15.3
自分の両親も外で働いていたから	72	15.1
わからない・この中にはない	11	2.3
無回答	0	0.0

回答割合(%)



「夫は仕事、妻は家庭を中心にすべきである」で反対と思う理由について、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が最も多く75.4%でした。次いで、「男女平等に反すると思うから」が、40.8%でした。

問3で反対と思う理由について(問4-2)性別比較

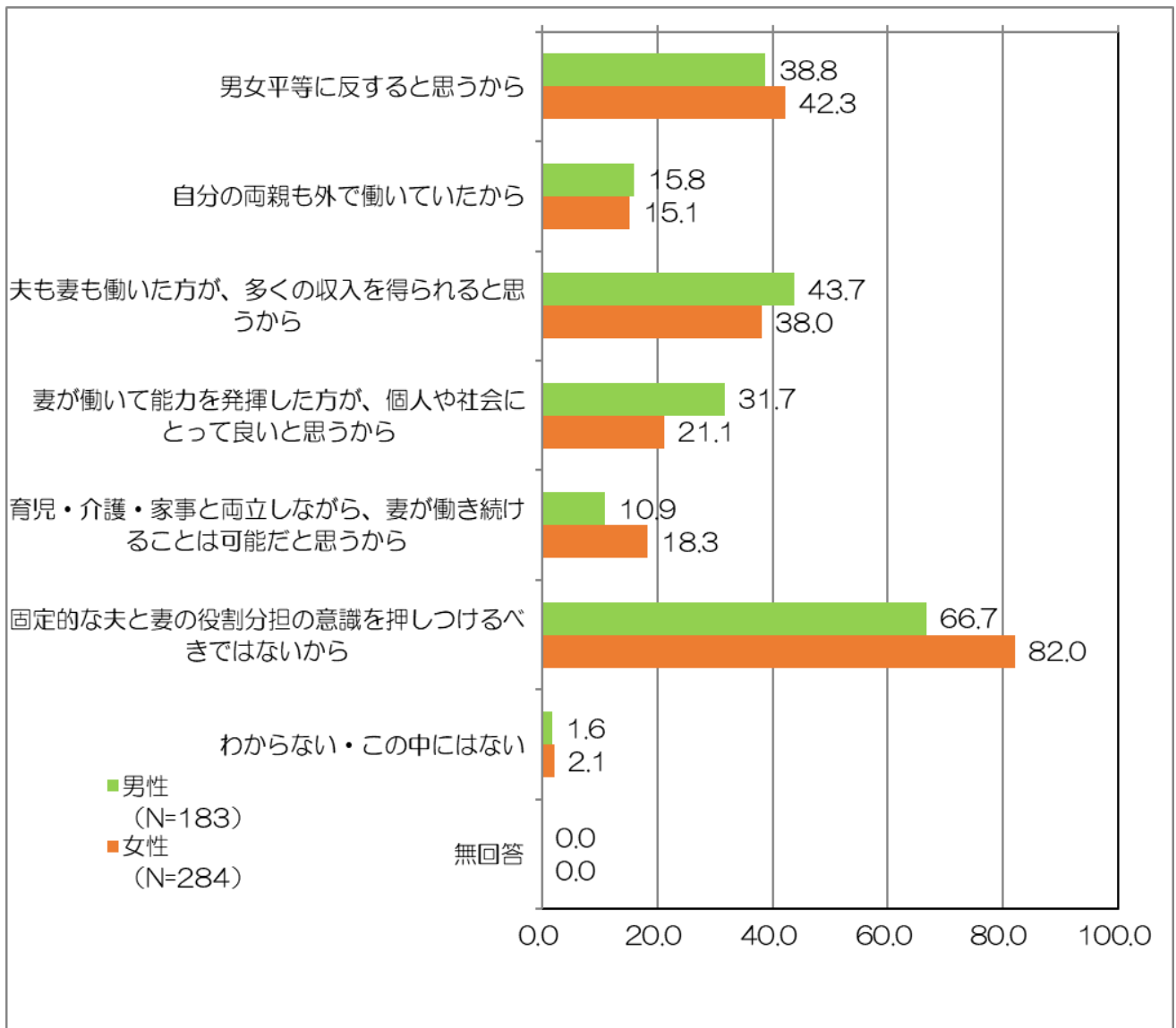
回答数(人)

	男女平等に反 すると思うから	自分の両親も外 で働いていたか ら	夫も妻も働いた 方が、多くの取 入を得られると 思うから	妻が働いて能 力を発揮した方 が、個人や社会 にとって良いと 思うから	育児・介護・家 事と両立しなが ら、妻が働き続 けることは可能 だと思ふから	固定的な夫と妻 の役割分担の 意識を押しつけ るべきではない から	わからないこの 中にはない	無回答
男性(N=183)	71	29	80	58	20	122	3	0
女性(N=284)	120	43	108	60	52	233	6	0
その他(N=4)	1	0	1	0	1	2	2	0
無回答(N=5)	2	0	1	2	0	2	0	0
計(N=476)	194	72	190	120	73	359	11	0

回答割合(%)

	男女平等に反 すると思うから	自分の両親も外 で働いていたか ら	夫も妻も働いた 方が、多くの取 入を得られると 思うから	妻が働いて能 力を発揮した方 が、個人や社会 にとって良いと 思うから	育児・介護・家 事と両立しなが ら、妻が働き続 けることは可能 だと思ふから	固定的な夫と妻 の役割分担の 意識を押しつけ るべきではない から	わからないこの 中にはない	無回答
男性(N=183)	38.8	15.8	43.7	31.7	10.9	66.7	1.6	0.0
女性(N=284)	42.3	15.1	38.0	21.1	18.3	82.0	2.1	0.0
その他(N=4)	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0	50.0	50.0	0.0
無回答(N=5)	50.0	0.0	25.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
計(N=476)	40.8	15.1	39.9	25.2	15.3	75.4	2.3	0.0

回答割合(%)

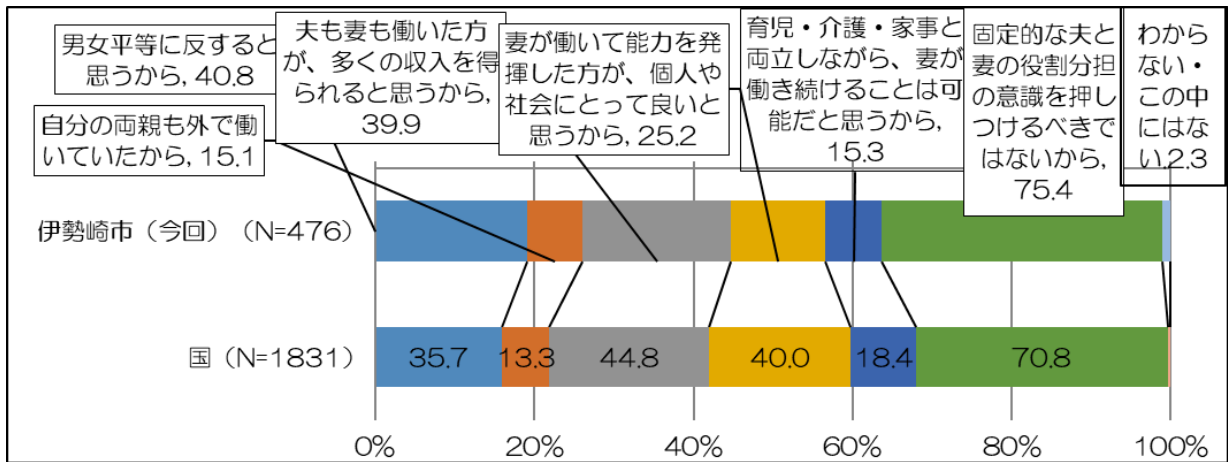


性別で比較すると、「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」が男性の方が10.6ポイント高く、一方、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」は、女性の方が15.3ポイント高くなっています。

◇他調査との比較—反対と思うのはなぜですか（問4-2）—◇

回答割合(%)

	男女平等に反すると思うから	自分の両親も外で働いていたから	夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られると思うから	妻が働いて能力を發揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから	育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから	固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから	わからない・この中にはない	無回答
伊勢崎市(今回) (N=476)	40.8	15.1	39.9	25.2	15.3	75.4	2.3	0.0
国(N=1831)	35.7	13.3	44.8	40.0	18.4	70.8		0.9



※国は、本市の調査と選択肢が同一ではありません。

国と比較すると、「妻が働いて能力を發揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」が、伊勢崎市の方が14.8ポイント大幅に低くなっています。

問5 あなたは、次のような家庭内の役割を、どのように担うべきだと思いますか。
 (それぞれ1つに○)

【食事のしたく(理想)】

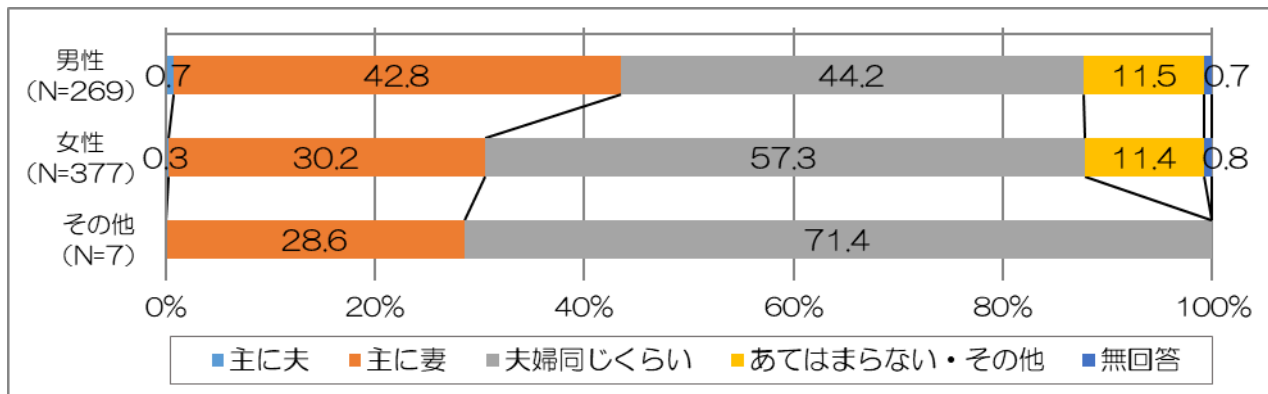
回答数(人)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=269)	2	115	119	31	2
女性(N=377)	1	114	216	43	3
その他(N=7)		2	5		
無回答(N=8)		2	5	1	
計(N=661)	3	233	345	75	5

回答割合(%)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=269)	0.7	42.8	44.2	11.5	0.7
女性(N=377)	0.3	30.2	57.3	11.4	0.8
その他(N=7)	0.0	28.6	71.4	0.0	0.0
無回答(N=8)	0.0	25.0	62.5	12.5	0.0
計(N=661)	0.5	35.2	52.2	11.3	0.8

「食事のしたく」について、「夫婦同じくらい」が半数を超え、「主に妻」が35.2%でした。



性別で見ると、「主に妻」と回答割合は、男性の方が12.6ポイントと高く、「夫婦同じくらい」は、女性の方が13.1ポイント高くなっています。

【食事の後片付け(理想)】

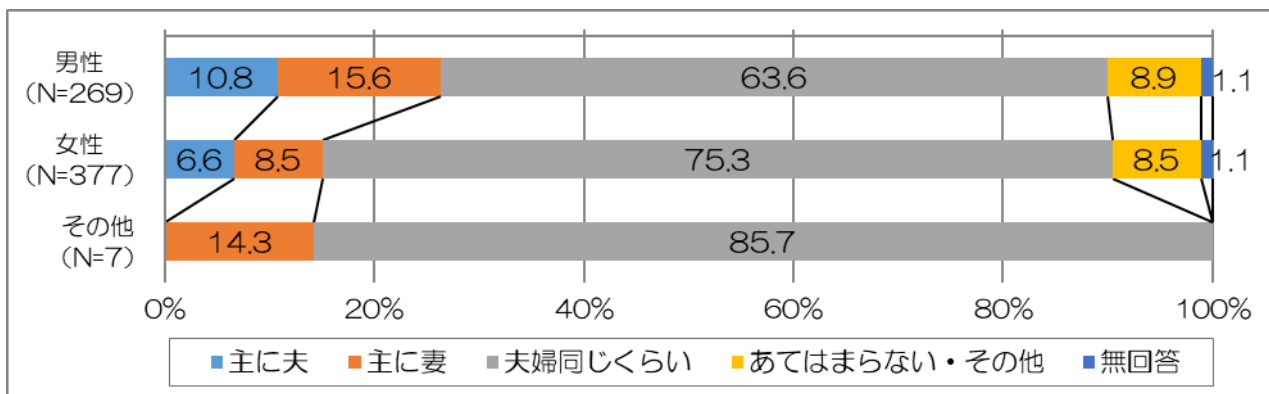
回答数(人)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=269)	29	42	171	24	3
女性(N=377)	25	32	284	32	4
その他(N=7)		1	6		
無回答(N=8)		2	5	1	
計(N=661)	54	77	466	57	7

回答割合(%)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=269)	10.8	15.6	63.6	8.9	1.1
女性(N=377)	6.6	8.5	75.3	8.5	1.1
その他(N=7)	0.0	14.3	85.7	0.0	0.0
無回答(N=8)	0.0	25.0	62.5	12.5	0.0
計(N=661)	8.2	11.6	70.5	8.6	1.1

「食事の後片付け」については、約7割が「夫婦同じくらい」と回答しています。



性別で見ると、「主に夫」、「主に妻」の回答割合は、男性の方がやや高く、「夫婦同じくらい」は、女性の方が高くなっています。

【掃除(理想)】

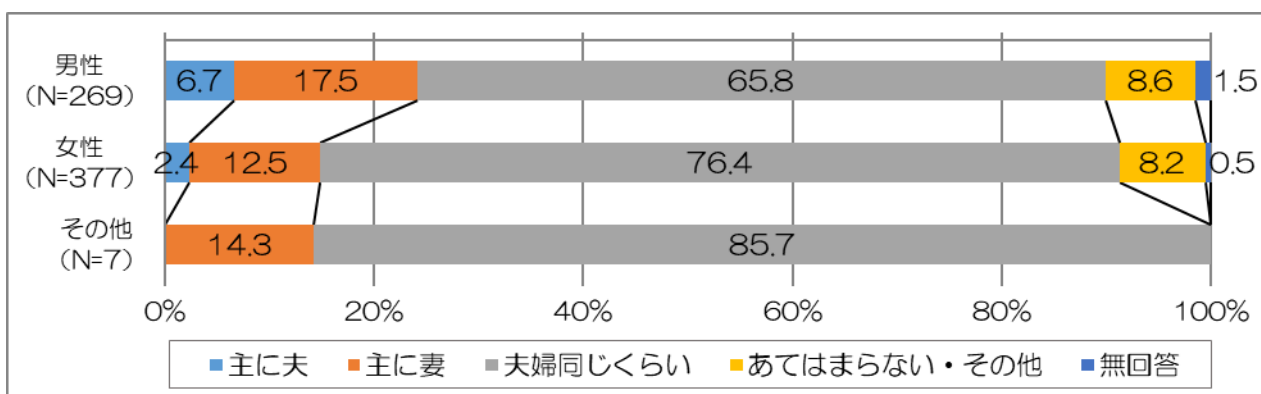
回答数(人)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=269)	18	47	177	23	4
女性(N=377)	9	47	288	31	2
その他(N=7)		1	6		
無回答(N=8)		2	5	1	
計(N=661)	27	97	476	55	6

回答割合(%)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=269)	6.7	17.5	65.8	8.6	1.5
女性(N=377)	2.4	12.5	76.4	8.2	0.5
その他(N=7)	0.0	14.3	85.7	0.0	0.0
無回答(N=8)	0.0	25.0	62.5	12.5	0.0
計(N=661)	4.1	14.7	72.0	8.3	0.9

「掃除」については、7割以上が「夫婦同じくらい」と回答しています。



性別で見ると、「主に夫」、「主に妻」の回答割合は、男性の方がやや高く、「夫婦同じくらい」は、女性の方がやや高くなっています。

【洗濯(理想)】

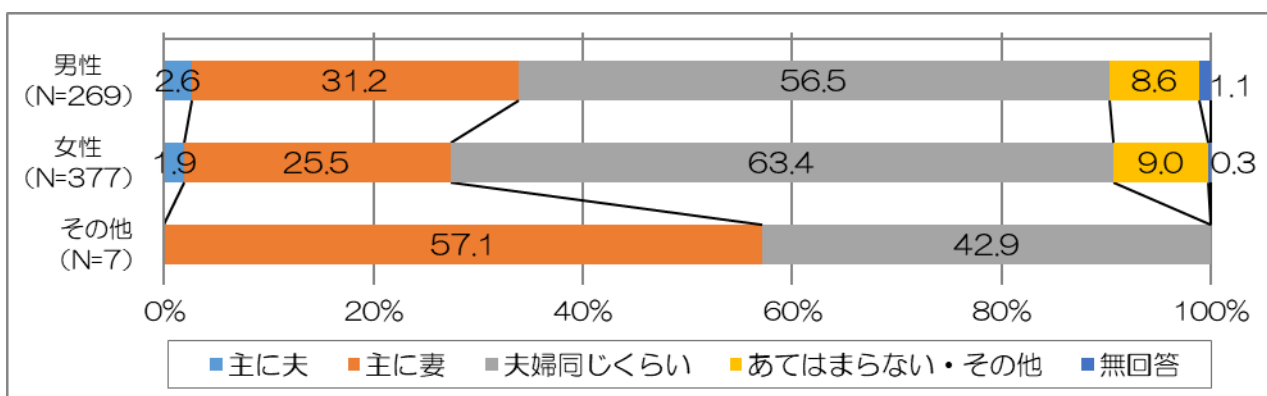
回答数(人)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=269)	7	84	152	23	3
女性(N=377)	7	96	239	34	1
その他(N=7)		4	3		
無回答(N=8)		2	5	1	
計(N=661)	14	186	399	58	4

回答割合(%)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=269)	2.6	31.2	56.5	8.6	1.1
女性(N=377)	1.9	25.5	63.4	9.0	0.3
その他(N=7)	0.0	57.1	42.9	0.0	0.0
無回答(N=8)	0.0	25.0	62.5	12.5	0.0
計(N=661)	2.1	28.1	60.4	8.8	0.6

「洗濯」については、「夫婦同じくらい」が6割を超え、「主に妻」は28.1%でした。



性別で見ると、「主に夫」、「主に妻」の回答割合は、男性の方がやや高く、「夫婦同じくらい」は、女性の方がやや高くなっています。

【買物(理想)】

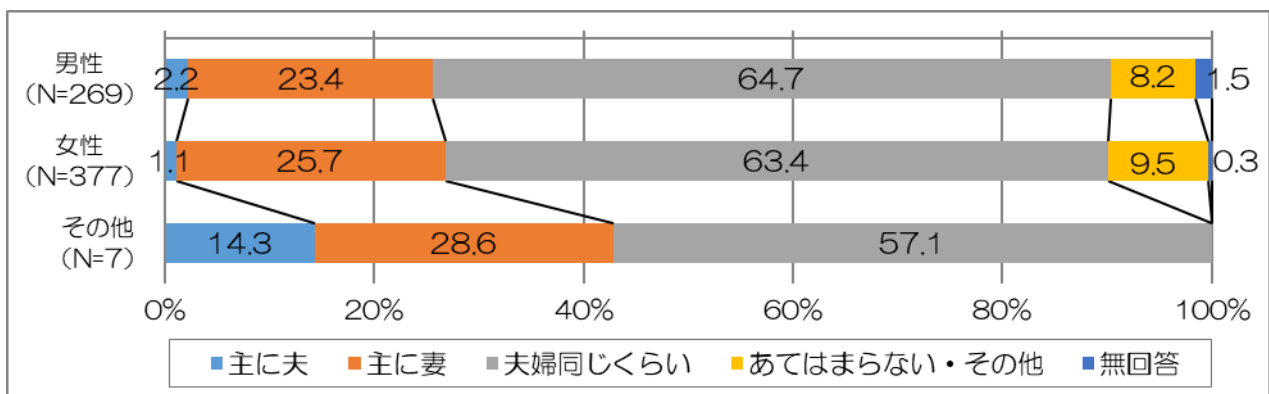
回答数(人)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=269)	6	63	174	22	4
女性(N=377)	4	97	239	36	1
その他(N=7)	1	2	4		
無回答(N=8)			7	1	
計(N=661)	11	162	424	59	5

回答割合(%)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=269)	2.2	23.4	64.7	8.2	1.5
女性(N=377)	1.1	25.7	63.4	9.5	0.3
その他(N=7)	14.3	28.6	57.1	0.0	0.0
無回答(N=8)	0.0	0.0	87.5	12.5	0.0
計(N=661)	1.7	24.5	64.1	8.9	0.8

「買物」は、「夫婦同じくらい」が6割を超え、「主に妻」は24.5%でした。



性別による大きな傾向の違いは見られませんでした。

【子どもの世話(理想)】

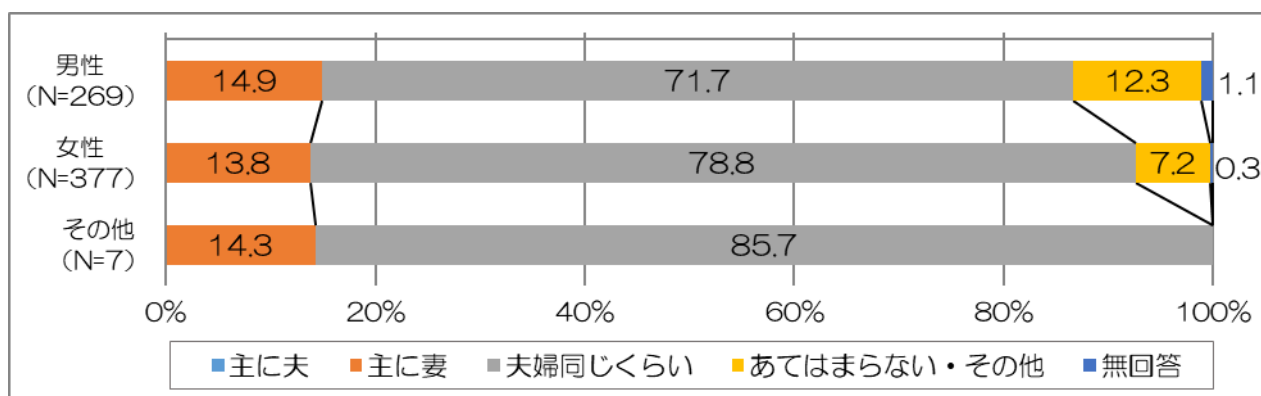
回答数(人)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=269)		40	193	33	3
女性(N=377)		52	297	27	1
その他(N=7)		1	6		
無回答(N=8)		2	4	2	
計(N=661)	0	95	500	62	4

回答割合(%)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=269)	0.0	14.9	71.7	12.3	1.1
女性(N=377)	0.0	13.8	78.8	7.2	0.3
その他(N=7)	0.0	14.3	85.7	0.0	0.0
無回答(N=8)	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0
計(N=661)	0.0	14.4	75.6	9.4	0.6

「子どもの世話」は、75.6%が「夫婦同じくらい」と回答しています。



性別で見ると、「夫婦同じくらい」の回答割合は、やや女性の方が高く78.8%となっています。

【学校行事などへの参加(理想)】

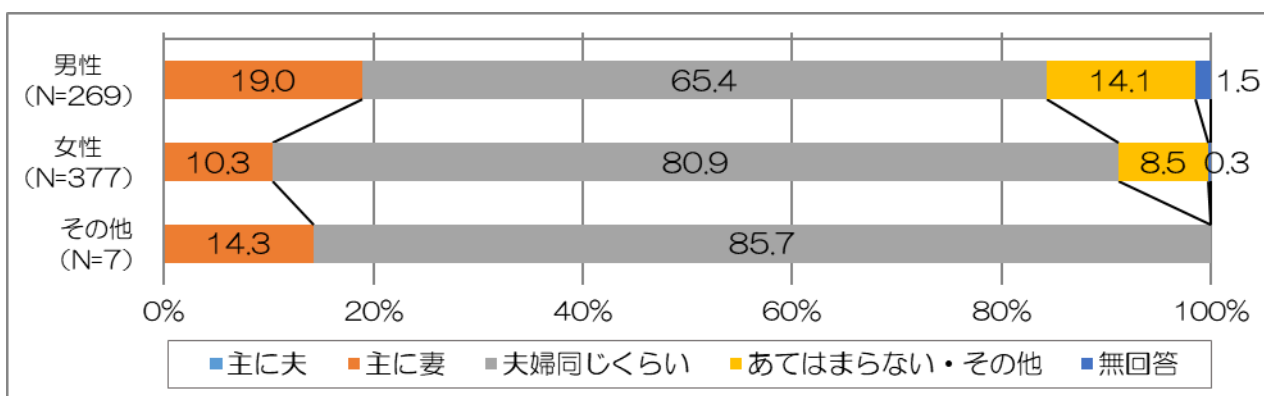
回答数(人)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=269)		51	176	38	4
女性(N=377)		39	305	32	1
その他(N=7)		1	6		
無回答(N=8)		2	5	1	
計(N=661)	0	93	492	71	5

回答割合(%)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=269)	0.0	19.0	65.4	14.1	1.5
女性(N=377)	0.0	10.3	80.9	8.5	0.3
その他(N=7)	0.0	14.3	85.7	0.0	0.0
無回答(N=8)	0.0	25.0	62.5	12.5	0.0
計(N=661)	0.0	14.1	74.4	10.7	0.8

「学校行事などへの参加」は、74.4%が「夫婦同じくらい」と回答しています。



性別で見ると、「夫婦同じくらい」の回答割合が、女性の方が高く80.9%となっています。

【看護・介護(理想)】

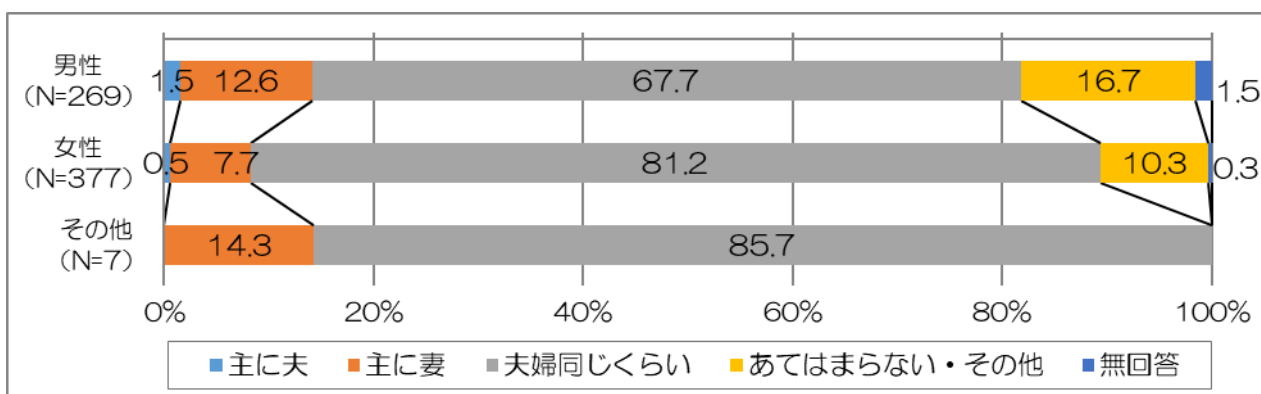
回答数(人)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=269)	4	34	182	45	4
女性(N=377)	2	29	306	39	1
その他(N=7)		1	6		
無回答(N=8)		2	5	1	
計(N=661)	6	66	499	85	5

回答割合(%)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=269)	1.5	12.6	67.7	16.7	1.5
女性(N=377)	0.5	7.7	81.2	10.3	0.3
その他(N=7)	0.0	14.3	85.7	0.0	0.0
無回答(N=8)	0.0	25.0	62.5	12.5	0.0
計(N=661)	0.9	10.0	75.5	12.9	0.8

「看護・介護」は、75.5%が「夫婦同じくらい」と回答しています。



性別で見ると、「夫婦同じくらい」の回答割合が、女性の方が高く81.2%となっています。

【地域の町内会や自治会などへの参加(理想)】

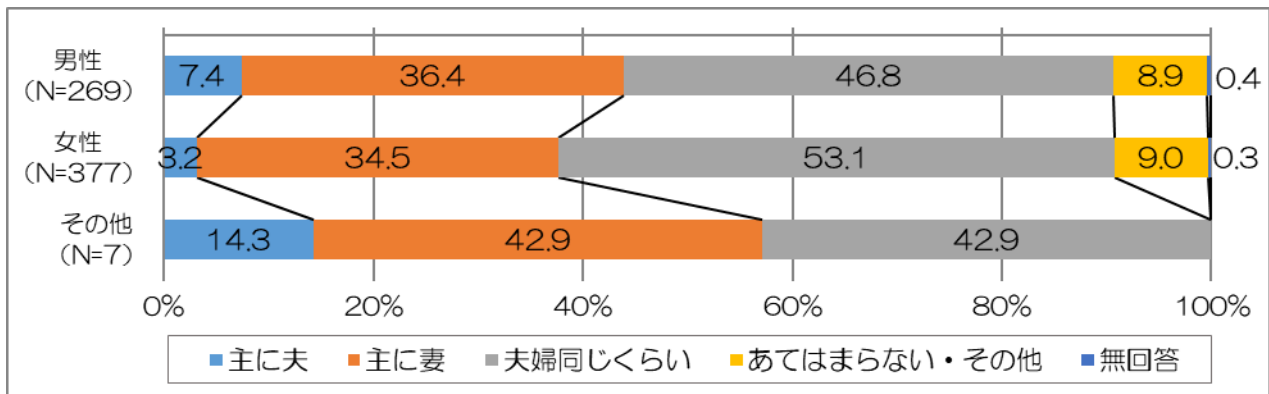
回答数(人)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=269)	65	12	158	31	3
女性(N=377)	59	8	269	38	3
その他(N=7)	1		6		
無回答(N=8)		1	6	1	
計(N=661)	125	21	439	70	6

回答割合(%)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=269)	24.2	4.5	58.7	11.5	1.1
女性(N=377)	15.6	2.1	71.4	10.1	0.8
その他(N=7)	14.3	0.0	85.7	0.0	0.0
無回答(N=8)	0.0	12.5	75.0	12.5	0.0
計(N=661)	18.9	3.2	66.4	10.6	0.9

「地域の町内会や自治会などへの参加」は、「夫婦同じくらい」が66.4%、「主に夫」の回答は18.9%でした。



性別で見ると、「夫婦同じくらい」の回答割合が、女性の方が高く71.4%で、「主に夫」は、男性の方が高く24.2%となっています。

【家計の管理(理想)】

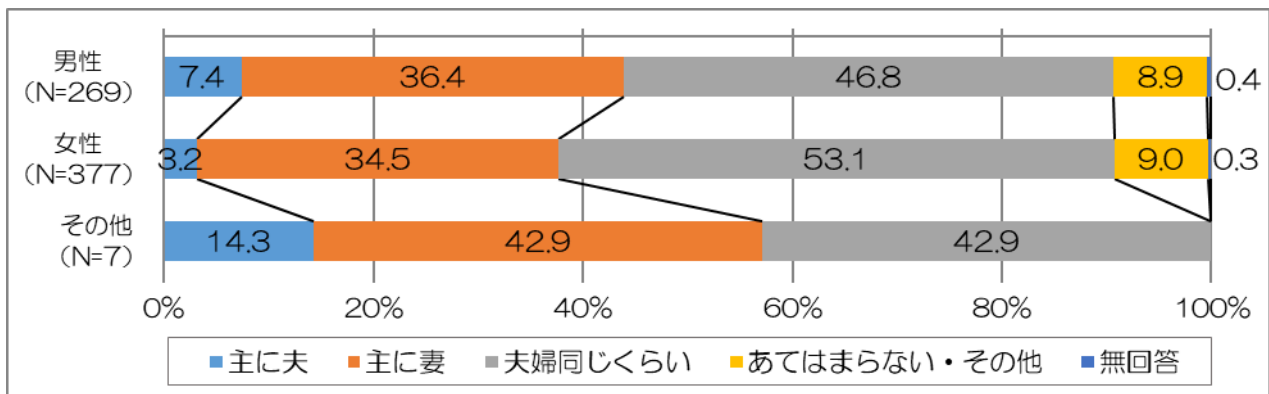
回答数(人)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=269)	20	98	126	24	1
女性(N=377)	12	130	200	34	1
その他(N=7)	1	3	3		
無回答(N=8)		4	3	1	
計(N=661)	33	235	332	59	2

回答割合(%)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=269)	7.4	36.4	46.8	8.9	0.4
女性(N=377)	3.2	34.5	53.1	9.0	0.3
その他(N=7)	14.3	42.9	42.9	0.0	0.0
無回答(N=8)	0.0	50.0	37.5	12.5	0.0
計(N=661)	5.0	35.6	50.2	8.9	0.3

「家計の管理」は、「夫婦同じくらい」が約半数を超え、「主に妻」の回答は35.6%でした。



性別で見ると、「夫婦同じくらい」の回答割合が、女性の方が高く53.1%となっています。

【主たる収入(理想)】

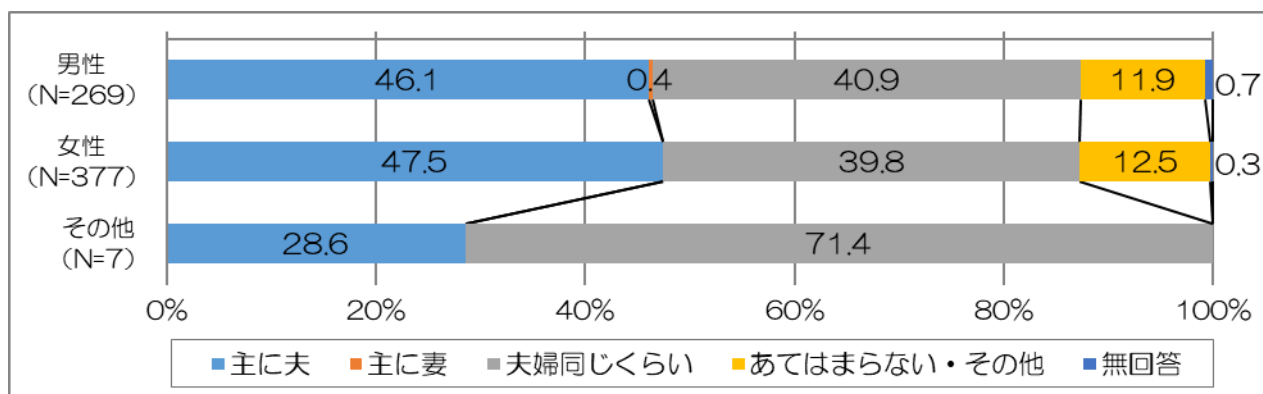
回答数(人)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=269)	124	1	110	32	2
女性(N=377)	179		150	47	1
その他(N=7)	2		5		
無回答(N=8)	3		3	2	
計(N=661)	308	1	268	81	3

回答割合(%)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=269)	46.1	0.4	40.9	11.9	0.7
女性(N=377)	47.5	0.0	39.8	12.5	0.3
その他(N=7)	28.6	0.0	71.4	0.0	0.0
無回答(N=8)	37.5	0.0	37.5	25.0	0.0
計(N=661)	46.6	0.2	40.5	12.3	0.5

「主たる収入」は、「主に夫」が46.6%、「夫婦同じくらい」が40.5%でした。



性別による大きな傾向の違いは見られませんでした。

◇全分野の比較—役割分担についての理想（問5）—◇

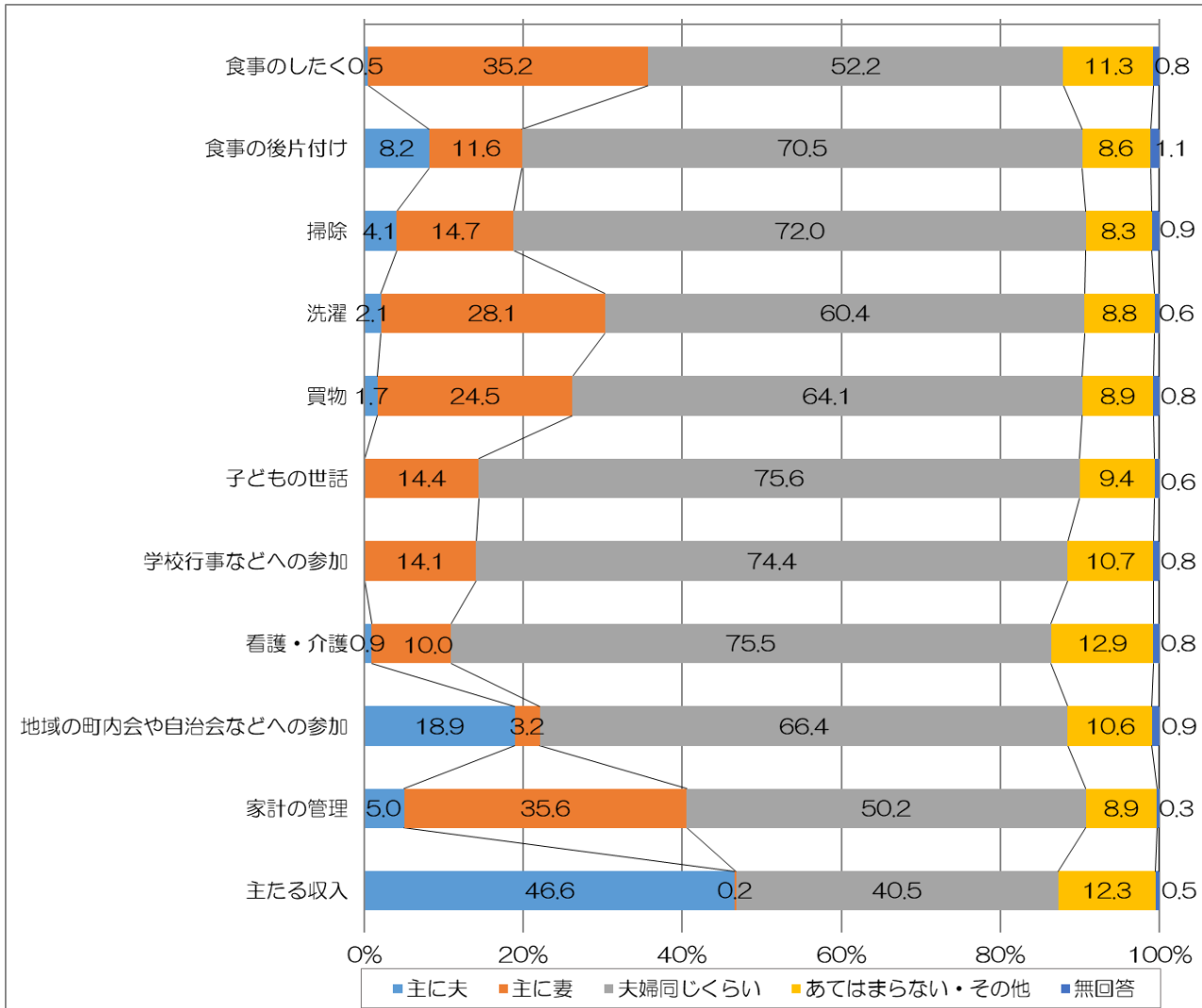
回答件数(人)

	主に夫	主に妻	夫婦同じく らい	あてはまら ない・その 他	無回答
食事のしたく	3	233	345	75	5
食事の後片付け	54	77	466	57	7
掃除	27	97	476	55	6
洗濯	14	186	399	58	4
買物	11	162	424	59	5
子どもの世話	0	95	500	62	4
学校行事などへの参加	0	93	492	71	5
看護・介護	6	66	499	85	5
地域の町内会や自治会などへの参加	125	21	439	70	6
家計の管理	33	235	332	59	2
主たる収入	308	1	268	81	3

回答割合(%)

	主に夫	主に妻	夫婦同じく らい	あてはまら ない・その 他	無回答
食事のしたく	0.5	35.2	52.2	11.3	0.8
食事の後片付け	8.2	11.6	70.5	8.6	1.1
掃除	4.1	14.7	72.0	8.3	0.9
洗濯	2.1	28.1	60.4	8.8	0.6
買物	1.7	24.5	64.1	8.9	0.8
子どもの世話	0.0	14.4	75.6	9.4	0.6
学校行事などへの参加	0.0	14.1	74.4	10.7	0.8
看護・介護	0.9	10.0	75.5	12.9	0.8
地域の町内会や自治会などへの参加	18.9	3.2	66.4	10.6	0.9
家計の管理	5.0	35.6	50.2	8.9	0.3
主たる収入	46.6	0.2	40.5	12.3	0.5

役割分担についての理想（問5）全分野の比較（回答割合）
回答割合（%）



家庭内の役割分担について、どのように担うべきかについて各回答の割合を比較すると、「主に夫」の回答が突出して高いのは「主たる収入」で、46.6%でした。

一方、「主に妻」が高かったのは、「家計の管理」で35.6%でした。次いで、「食事のしたく」が35.2%といずれも3割を超えていました。

「夫婦同じくらい」が高かったのは、「子どもの世話」の75.6%でした。「夫婦同じくらい」の回答が低かったのは、「主たる収入」の40.5%でした。

問6 あなたの家庭では、次のような役割を主にだれが担っていますか。
 (それぞれ1つに○)※結婚(事実婚を含む)されている方への設問

【食事のしたく(現実)】

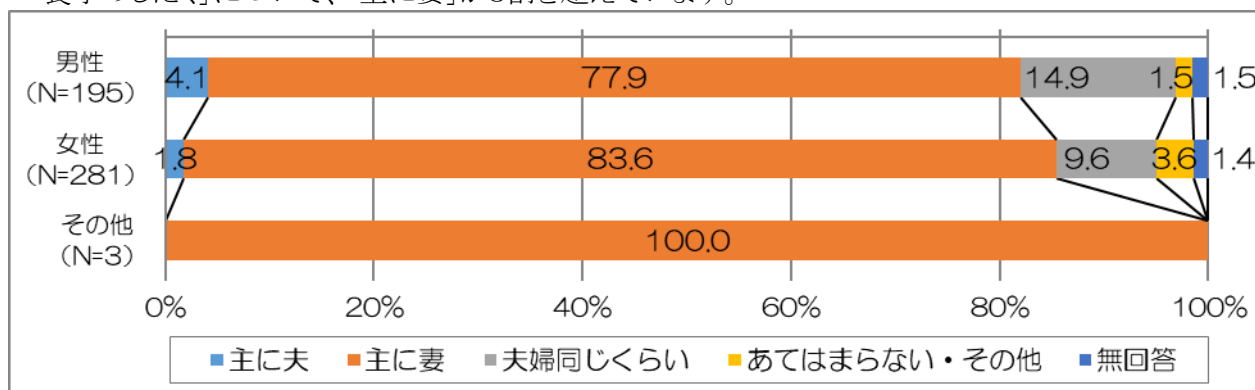
回答数(人)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=195)	8	152	29	3	3
女性(N=281)	5	235	27	10	4
その他(N=3)		3			
無回答(N=0)					
計(N=479)	13	390	56	13	7

回答割合(%)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=195)	4.1	77.9	14.9	1.5	1.5
女性(N=281)	1.8	83.6	9.6	3.6	1.4
その他(N=3)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
無回答(N=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計(N=479)	2.7	81.4	11.7	2.7	1.5

「食事のしたく」について、「主に妻」が8割を超えています。



性別で見ると、「主に妻」と回答した人の割合は、より女性の方が高く83.6%でした。

【食事の後片付け(現実)】

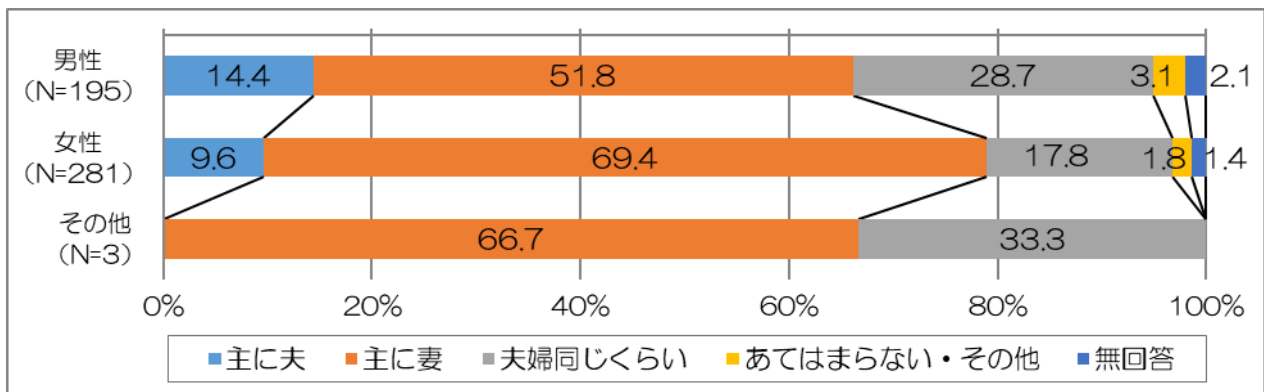
回答数(人)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=195)	28	101	56	6	4
女性(N=281)	27	195	50	5	4
その他(N=3)		2	1		
無回答(N=0)					
計(N=479)	55	298	107	11	8

回答割合(%)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=195)	14.4	51.8	28.7	3.1	2.1
女性(N=281)	9.6	69.4	17.8	1.8	1.4
その他(N=3)	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0
無回答(N=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計(N=479)	11.5	62.2	22.3	2.3	1.7

「食事の後片付け」については、「主に妻」が62.2%で、次いで「夫婦同じくらい」は22.3%でした。



性別で見ると、男性と女性で大きく回答に差があり、「主に妻」は女性の方が17.6ポイント高く、「夫婦同じくらい」は男性の方が10.9ポイント高くなっています。

【掃除(現実)】

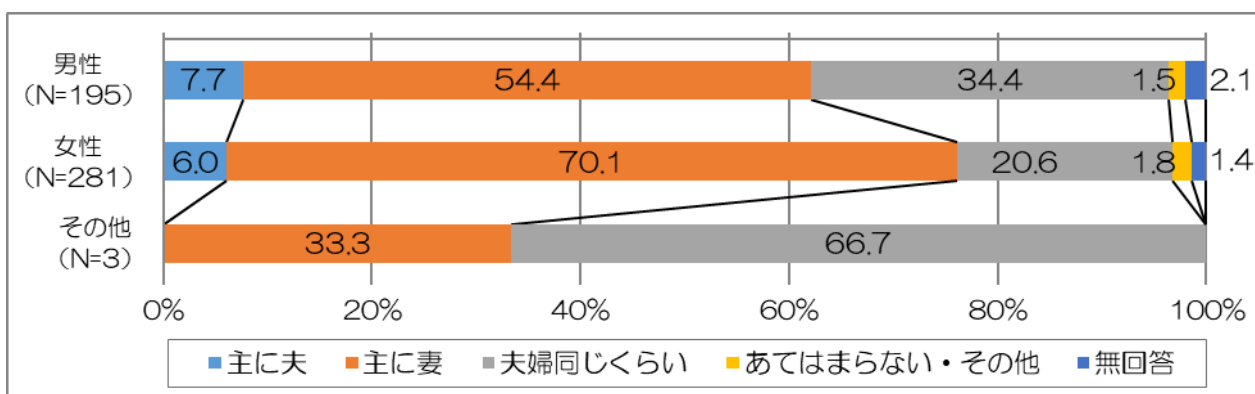
回答数(人)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=195)	15	106	67	3	4
女性(N=281)	17	197	58	5	4
その他(N=3)		1	2		
無回答(N=0)					
計(N=479)	32	304	127	8	8

回答割合(%)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=195)	7.7	54.4	34.4	1.5	2.1
女性(N=281)	6.0	70.1	20.6	1.8	1.4
その他(N=3)	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0
無回答(N=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計(N=479)	6.7	63.5	26.5	1.7	1.7

「掃除」については、「主に妻」が6割を超え、次いで「夫婦同じくらい」は26.5%でした。



性別で見ると、男性と女性で回答に差があり、「主に妻」は女性の方が15.7ポイント高く、「夫婦同じくらい」は男性の方が13.8ポイント高くなっています。

【洗濯(現実)】

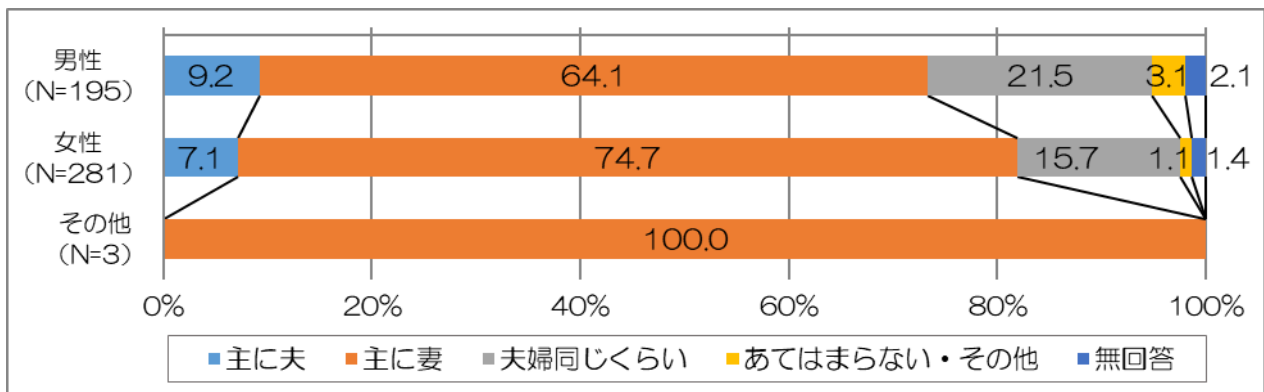
回答数(人)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=195)	18	125	42	6	4
女性(N=281)	20	210	44	3	4
その他(N=3)		3			
無回答(N=0)					
計(N=479)	38	338	86	9	8

回答割合(%)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=195)	9.2	64.1	21.5	3.1	2.1
女性(N=281)	7.1	74.7	15.7	1.1	1.4
その他(N=3)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
無回答(N=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計(N=479)	7.9	70.6	18.0	1.9	1.7

「洗濯」については、「主に妻」が7割を超えています。



性別で見ると、「主に妻」の回答は女性の方が高く、「夫婦同じくらい」の回答は男性の方がやや高くなっています。

【買物(現実)】

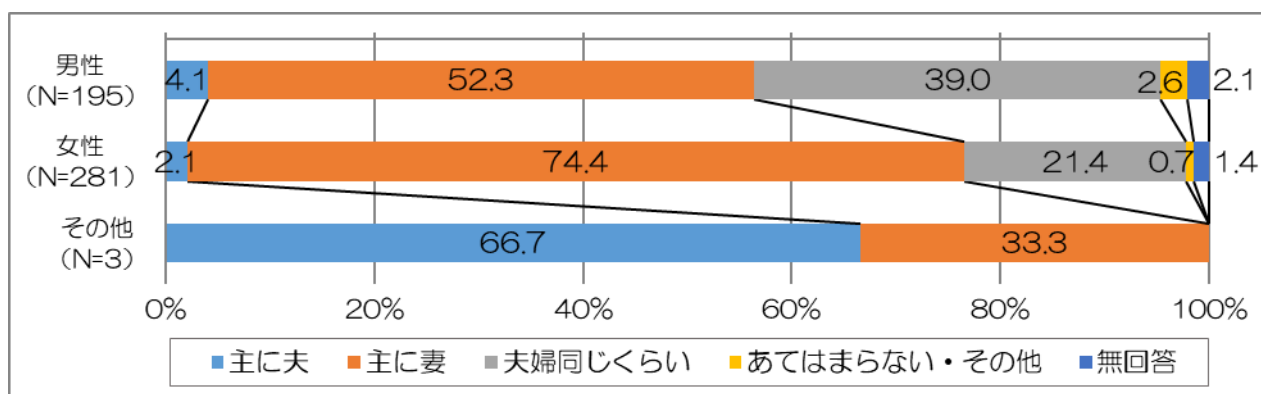
回答数(人)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=195)	8	102	76	5	4
女性(N=281)	6	209	60	2	4
その他(N=3)	2	1			
無回答(N=0)					
計(N=479)	16	312	136	7	8

回答割合(%)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=195)	4.1	52.3	39.0	2.6	2.1
女性(N=281)	2.1	74.4	21.4	0.7	1.4
その他(N=3)	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
無回答(N=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計(N=479)	3.3	65.1	28.4	1.5	1.7

「買物」は、「主に妻」が6割を超え、「夫婦同じくらい」は28.4%でした。



性別で見ると、男性と女性で大きく回答に差があり、「主に妻」は女性の方が22.1ポイント高く、「夫婦同じくらい」は男性の方が17.6ポイント高くなっています。

【子どもの世話(現実)】

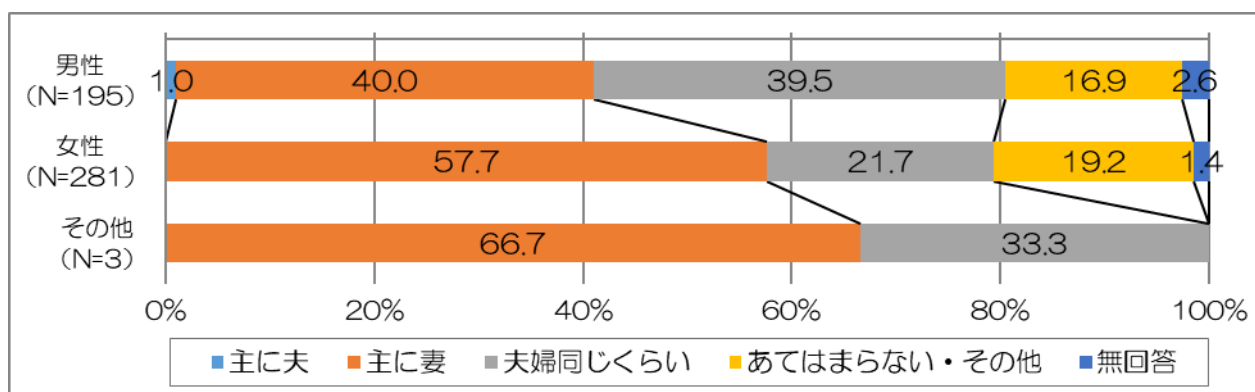
回答数(人)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=195)	2	78	77	33	5
女性(N=281)		162	61	54	4
その他(N=3)		2	1		
無回答(N=0)					
計(N=479)	2	242	139	87	9

回答割合(%)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=195)	1.0	40.0	39.5	16.9	2.6
女性(N=281)	0.0	57.7	21.7	19.2	1.4
その他(N=3)	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0
無回答(N=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計(N=479)	0.4	50.5	29.0	18.2	1.9

「子どもの世話」は、「主に妻」が半数を超え、「夫婦同じくらい」は29%でした。
また、「あてはまらない・その他」の回答も18.2%と、他の項目に比べて高くなっています。



性別で見ると、男性と女性で大きく回答に差があり、「主に妻」は女性の方が17.7ポイント高く、「夫婦同じくらい」は男性の方が17.8ポイント高くなっています。

【学校行事などへの参加(現実)】

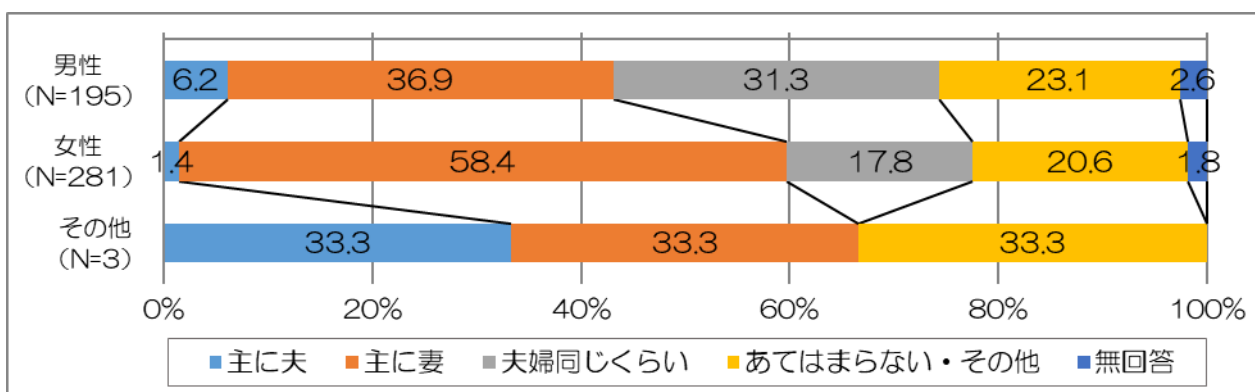
回答数(人)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=195)	12	72	61	45	5
女性(N=281)	4	164	50	58	5
その他(N=3)	1	1		1	
無回答(N=0)					
計(N=479)	17	237	111	104	10

回答割合(%)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=195)	6.2	36.9	31.3	23.1	2.6
女性(N=281)	1.4	58.4	17.8	20.6	1.8
その他(N=3)	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0
無回答(N=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計(N=479)	3.5	49.5	23.2	21.7	2.1

「学校行事などへの参加」は、「主に妻」が49.5%で、次いで「夫婦同じくらい」も2割を超えています。また、「あてはまらない・その他」の回答も21.7%と、他の項目に比べて高くなっています。



性別で見ると、男性と女性で大きく回答に差があり、「主に妻」は女性の方が21.5ポイント高く、「夫婦同じくらい」は男性の方が13.5ポイント高くなっています。

【看護・介護(現実)】

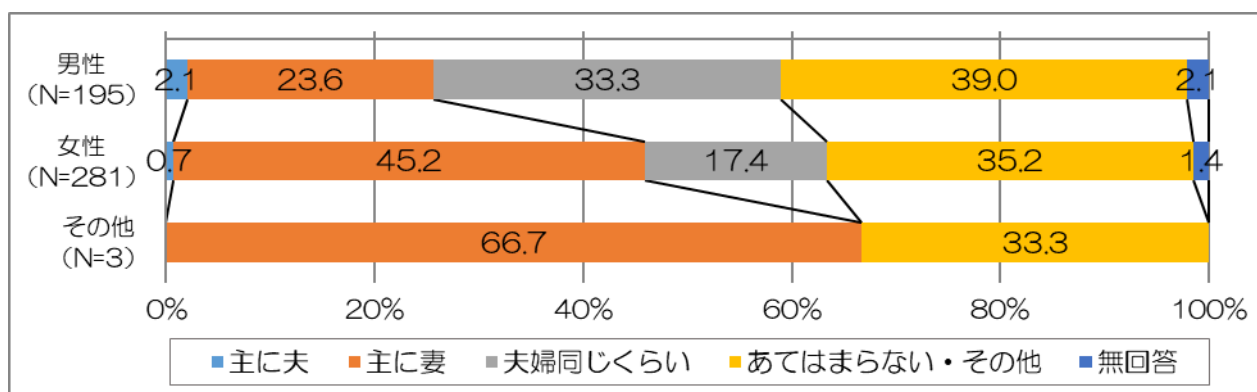
回答数(人)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=195)	4	46	65	76	4
女性(N=281)	2	127	49	99	4
その他(N=3)		2		1	
無回答(N=0)					
計(N=479)	6	175	114	176	8

回答割合(%)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=195)	2.1	23.6	33.3	39.0	2.1
女性(N=281)	0.7	45.2	17.4	35.2	1.4
その他(N=3)	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0
無回答(N=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計(N=479)	1.3	36.5	23.8	36.7	1.7

「看護・介護」は、「あてはまらない・その他」の回答が最も多く、36.7%でした。次いで、「主に妻」が36.5%でした。



性別で見ると、男性と女性で大きく回答に差があり、「主に妻」は女性の方が21.6ポイント高く、「夫婦同じくらい」は男性の方が15.9ポイント高くなっています。

【地域の町内会や自治会などへの参加(現実)】

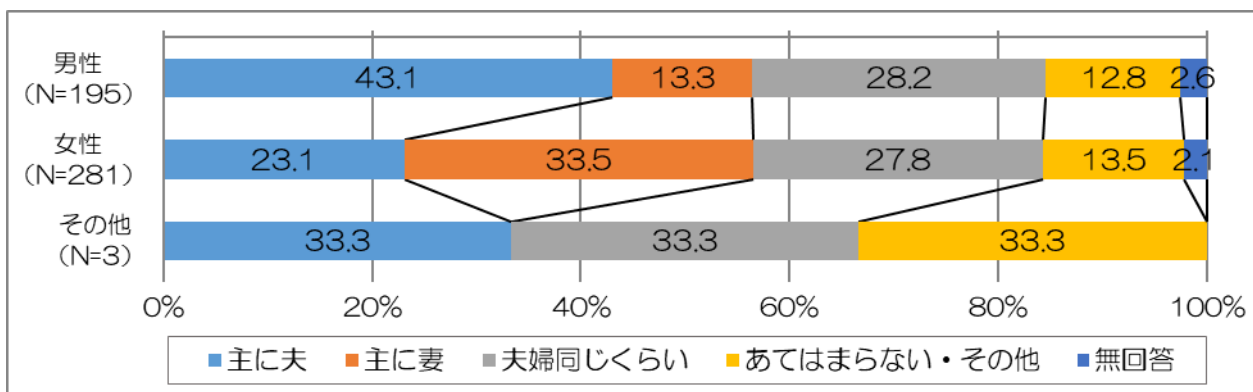
回答数(人)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=195)	84	26	55	25	5
女性(N=281)	65	94	78	38	6
その他(N=3)	1		1	1	
無回答(N=0)					
計(N=479)	150	120	134	64	11

回答割合(%)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=195)	43.1	13.3	28.2	12.8	2.6
女性(N=281)	23.1	33.5	27.8	13.5	2.1
その他(N=3)	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0
無回答(N=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計(N=479)	31.3	25.1	28.0	13.4	2.3

「地域の町内会や自治会などへの参加」は、「主に夫」、「主に妻」、「夫婦同じくらい」がともに2～3割代で拮抗しています。



性別で見ると、男性と女性で大きく回答に差があり、「主に夫」は男性の方が20ポイント高く、「主に妻」は女性の方が20.2ポイント高くなっています。

【家計の管理(現実)】

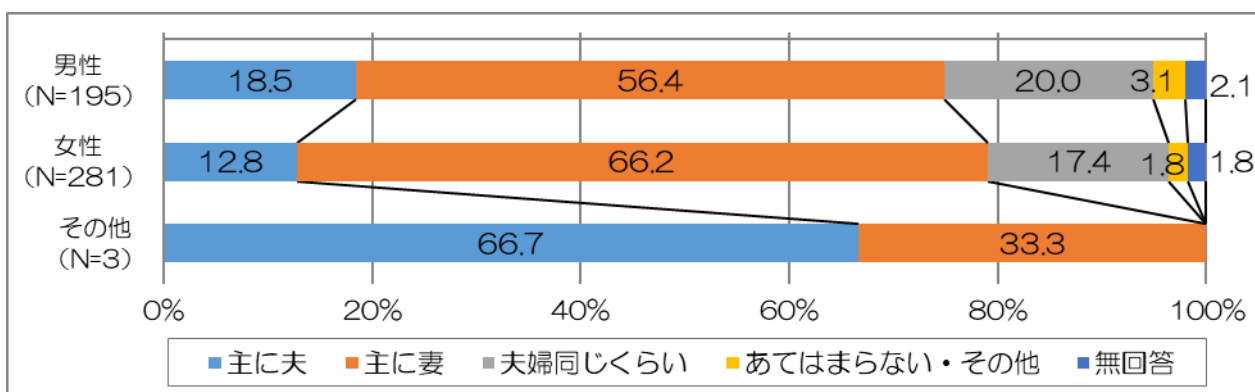
回答数(人)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=195)	36	110	39	6	4
女性(N=281)	36	186	49	5	5
その他(N=3)	2	1			
無回答(N=0)					
計(N=479)	74	297	88	11	9

回答割合(%)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=195)	18.5	56.4	20.0	3.1	2.1
女性(N=281)	12.8	66.2	17.4	1.8	1.8
その他(N=3)	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
無回答(N=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計(N=479)	15.4	62.0	18.4	2.3	1.9

「家計の管理」は、「主に妻」が6割を超えています。



性別で見ると、「主に夫」と回答した割合が、男性の方が5.7ポイント高く、「主に妻」と回答した割合が、女性の方が9.8ポイント高くなっています。

【主たる収入(現実)】

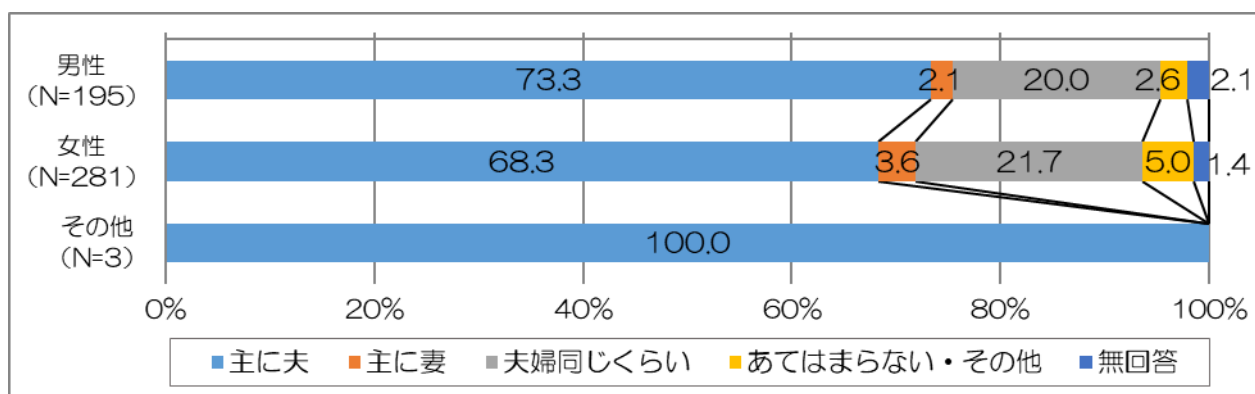
回答数(人)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=195)	143	4	39	5	4
女性(N=281)	192	10	61	14	4
その他(N=3)	3				
無回答(N=0)					
計(N=479)	338	14	100	19	8

回答割合(%)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他	無回答
男性(N=195)	73.3	2.1	20.0	2.6	2.1
女性(N=281)	68.3	3.6	21.7	5.0	1.4
その他(N=3)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答(N=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計(N=479)	70.6	2.9	20.9	4.0	1.7

「主たる収入」は、「主に夫」が約7割でした。



性別による大きな傾向の違いは見られませんでした。

◇全分野の比較—役割分担についての現実（問6）—◇

回答件数（人）

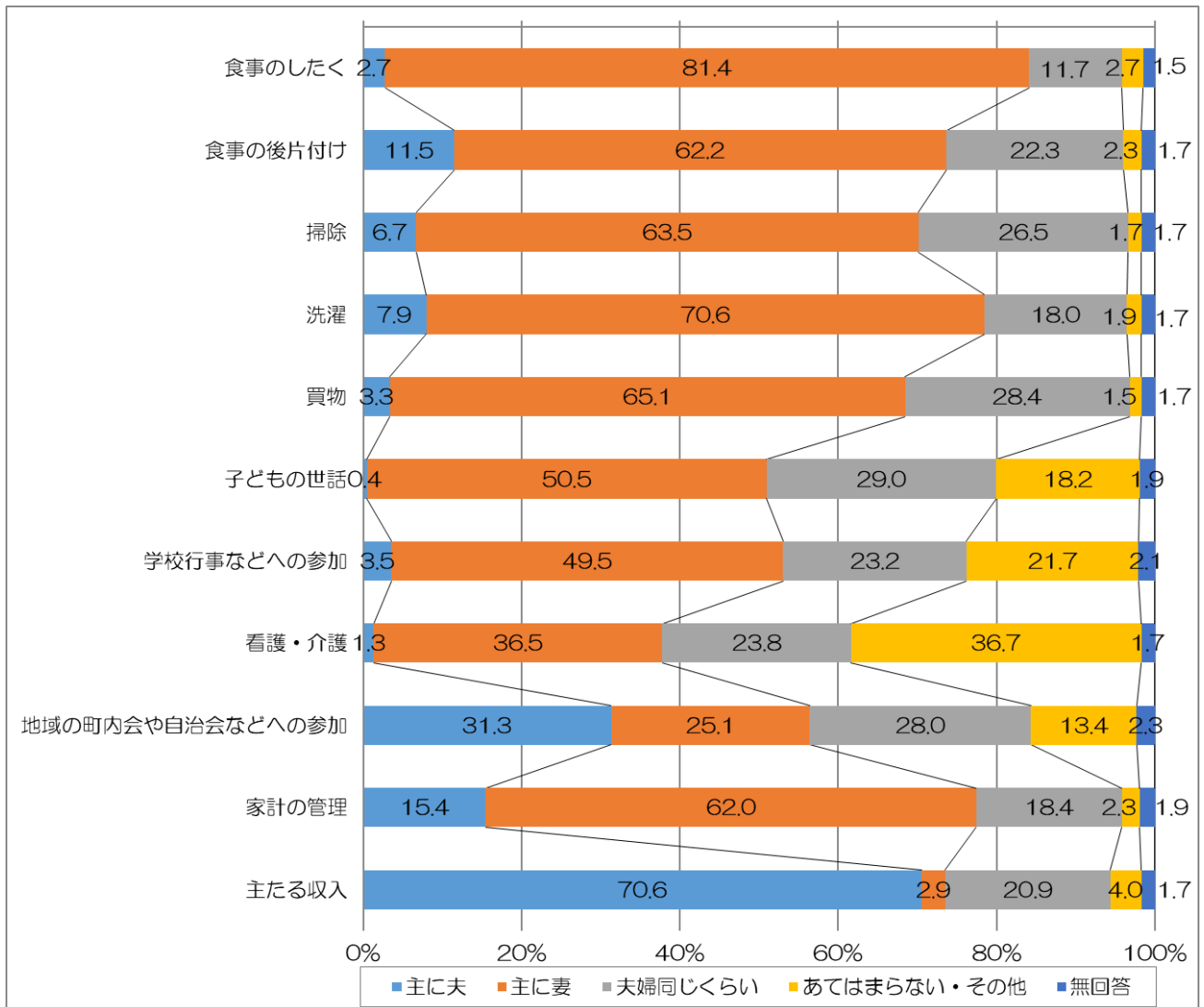
	主に夫	主に妻	夫婦同じく らい	あてはまら ない・その 他	無回答
食事のしたく	13	390	56	13	7
食事の後片付け	55	298	107	11	8
掃除	32	304	127	8	8
洗濯	38	338	86	9	8
買物	16	312	136	7	8
子どもの世話	2	242	139	87	9
学校行事などへの参加	17	237	111	104	10
看護・介護	6	175	114	176	8
地域の町内会や自治会などへの参加	150	120	134	64	11
家計の管理	74	297	88	11	9
主たる収入	338	14	100	19	8

回答割合（％）

	主に夫	主に妻	夫婦同じく らい	あてはまら ない・その 他	無回答
食事のしたく	2.7	81.4	11.7	2.7	1.5
食事の後片付け	11.5	62.2	22.3	2.3	1.7
掃除	6.7	63.5	26.5	1.7	1.7
洗濯	7.9	70.6	18.0	1.9	1.7
買物	3.3	65.1	28.4	1.5	1.7
子どもの世話	0.4	50.5	29.0	18.2	1.9
学校行事などへの参加	3.5	49.5	23.2	21.7	2.1
看護・介護	1.3	36.5	23.8	36.7	1.7
地域の町内会や自治会などへの参加	31.3	25.1	28.0	13.4	2.3
家計の管理	15.4	62.0	18.4	2.3	1.9
主たる収入	70.6	2.9	20.9	4.0	1.7

◇全分野の比較—役割分担についての現実（問6）—◇

回答割合(%)

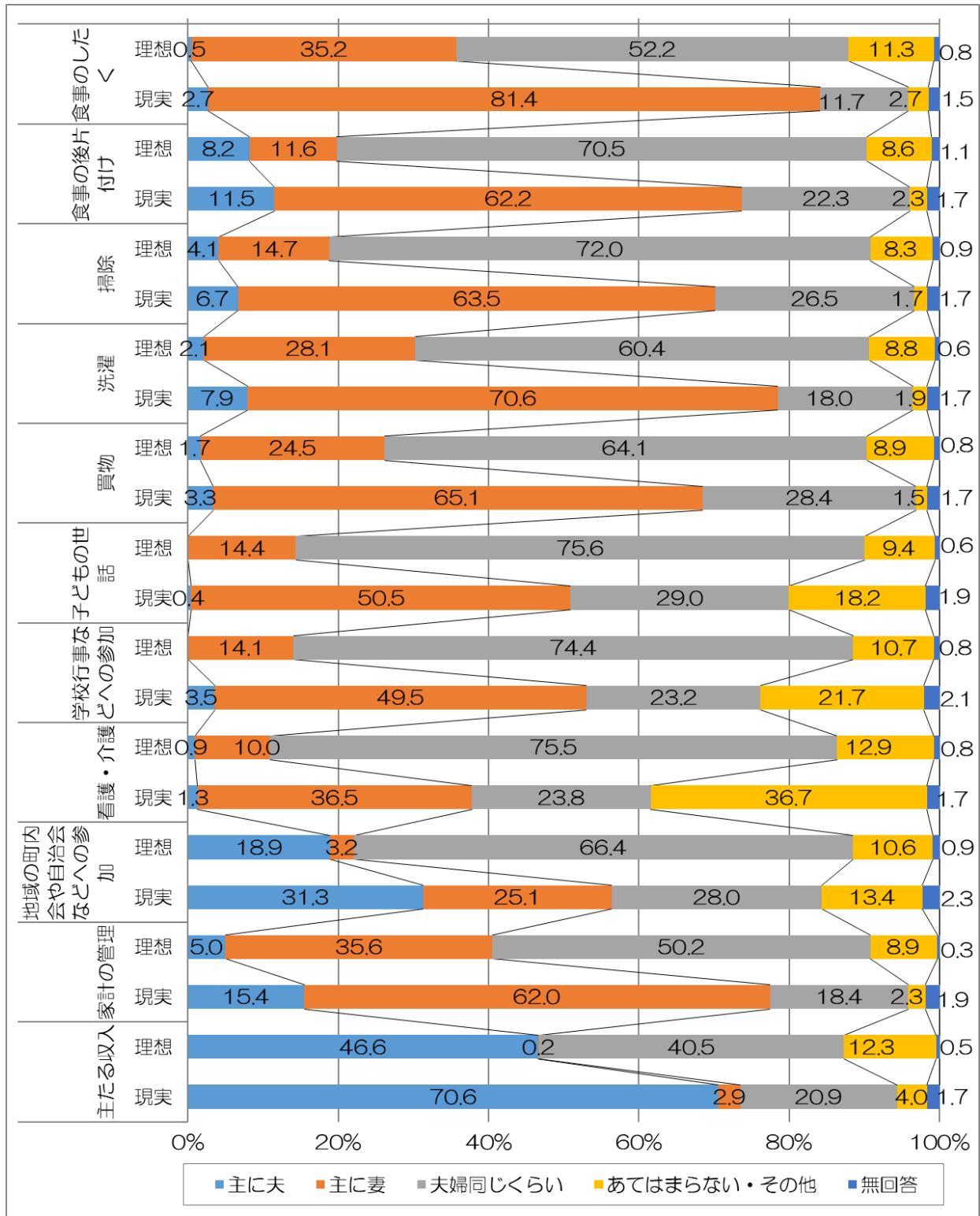


家庭内の役割を現実に誰が主に担っているかについて、各回答の割合を比較すると、「主に夫」の回答が突出して高いのは「主たる収入」で、70.6%でした。

一方、「主に妻」が高かったのは、「食事のしたく」で81.4%でした。次いで、「洗濯」が70.6%でした。

「夫婦同じくらい」が最も高かったのは、「子どもの世話」で、29%で、最も低かったのは「食事のしたく」の11.7%でした。

◇理想と現実（問5・問6）の比較—役割分担についての理想と現実—◇
回答割合（%）



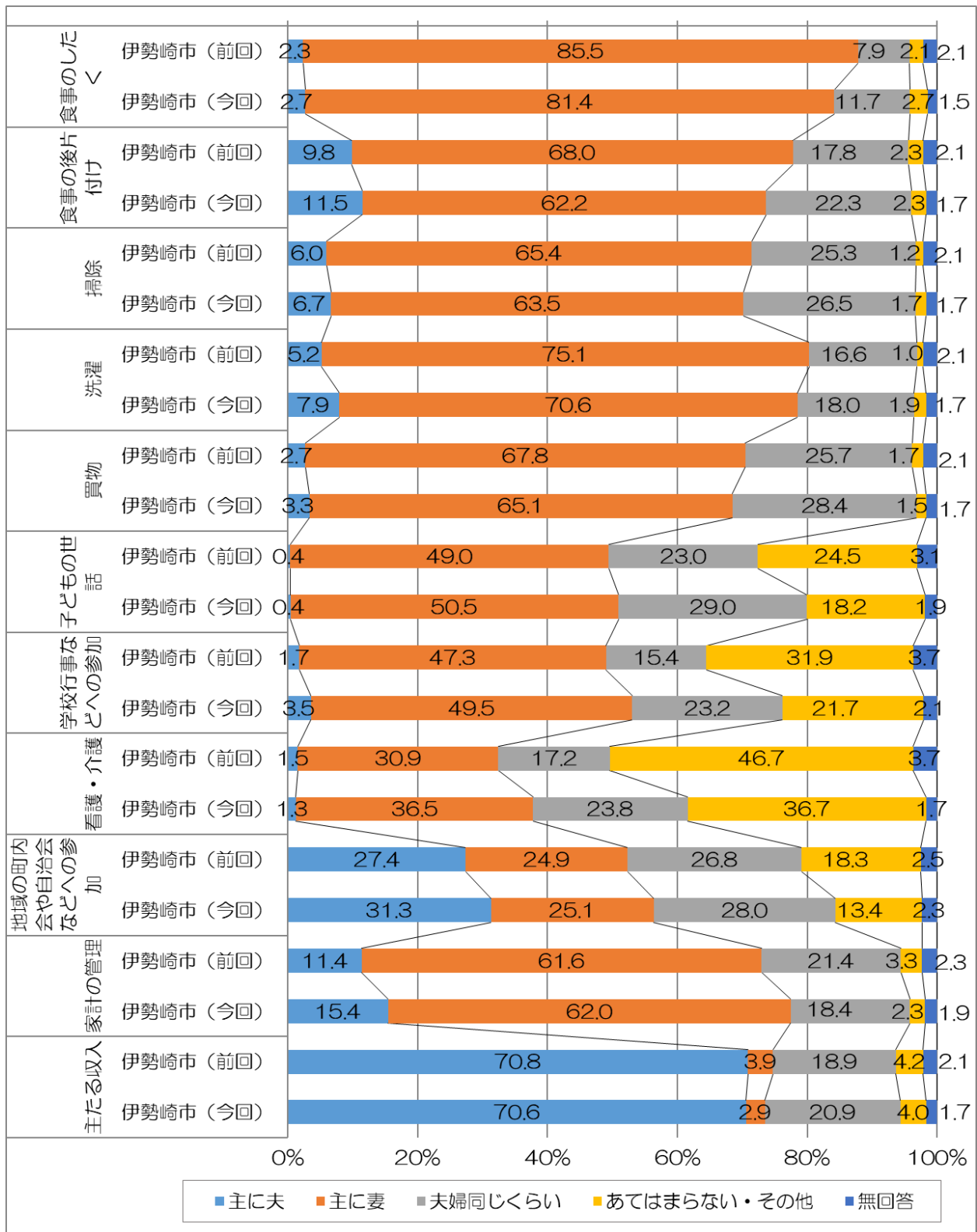
家庭内の役割の担い方について、理想と現実で最も差が大きかったのは「看護・介護」で、「夫婦同じくらい」で担うが、理想と現実では51.7ポイントと大幅に差がありました。

「学校行事などへの参加」、「子どもの世話」についても、理想は「夫婦同じくらいで担う」が高いものの、現実には「主に妻」と「あてはまらない・その他」の割合が高く、差が大きくなっています。

また、「看護・介護」、「子どもの世話」については、「主に夫」の回答が理想と現実で共に低く、2%未満です。

◇前回調査との比較—役割分担についての現実（問6）—◇

回答割合（％）



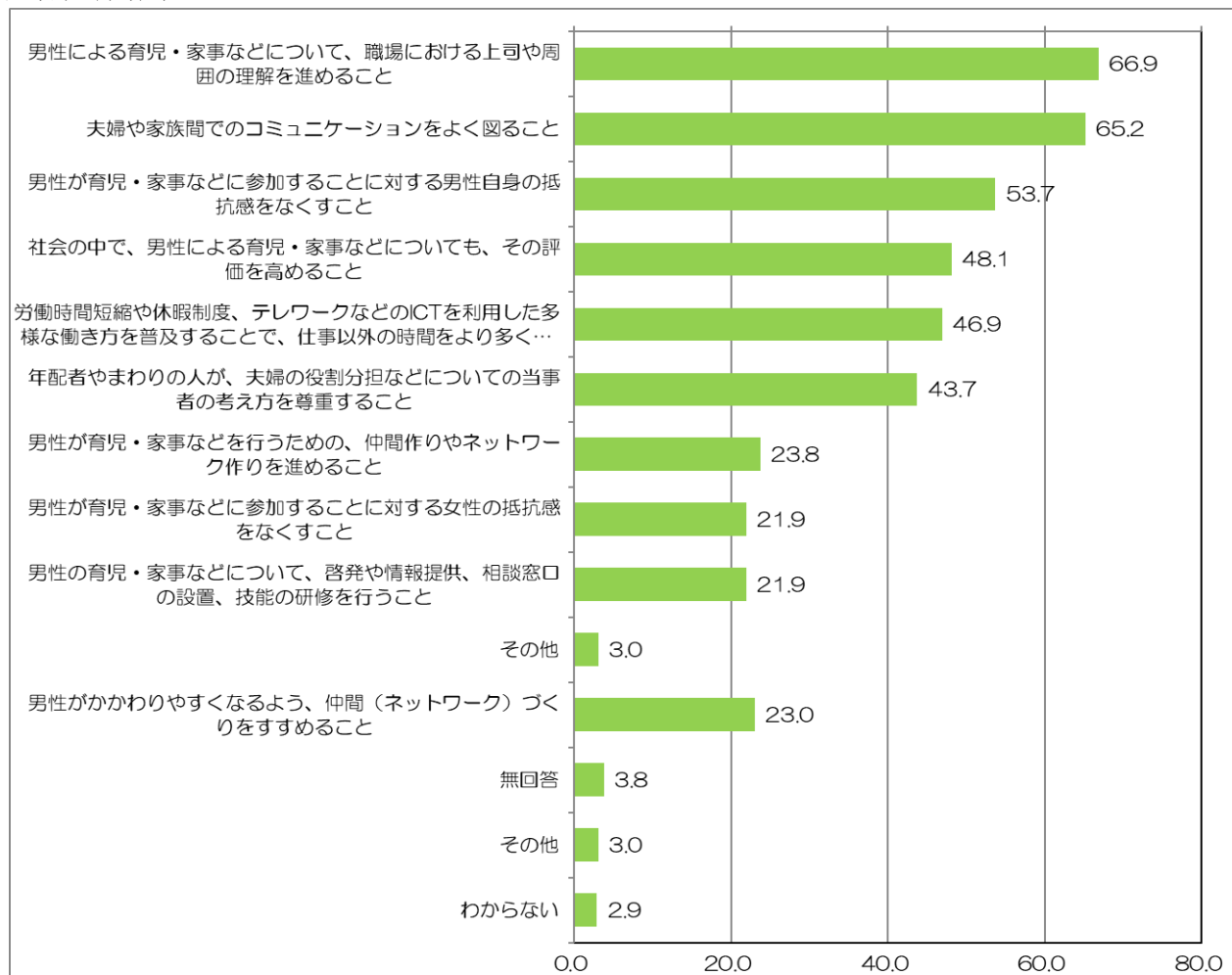
役割分担の現実について前回調査と比較すると、回答割合が最も変化したのは、「看護・介護」で、「主に妻」が担う割合で、前回から5.6ポイント増加、「夫婦同じくらい」が6.6ポイント増加、「あてはまらない・その他」が10ポイント減少しています。

3 男性の家事や子育てへの参加について

問7 今後、男性が育児や介護、家事、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか
(あてはまるものすべてに○)

	回答数(人)	回答割合(%) N=661
男性による育児・家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること	442	66.9
夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること	431	65.2
男性が育児・家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	355	53.7
社会の中で、男性による育児・家事などについても、その評価を高めること	318	48.1
労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	310	46.9
年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	289	43.7
男性が育児・家事などを行うための、仲間作りやネットワーク作りを進めること	157	23.8
男性が育児・家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	145	21.9
男性の育児・家事などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	145	21.9
その他	20	3.0
男性がかかわりやすくなるよう、仲間(ネットワーク)づくりをすすめること	152	23.0
無回答	25	3.8
その他	20	3.0
わからない	19	2.9

回答割合(%)



最も回答が多かったのは、「男性による育児・家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」で、66.9%でした。

他に、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」、「男性が育児・家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が、半数以上の回答となっています。

また、「その他」として、「核家族化をやめること」、「お互いが尊重し理解しあうこと」、「社会全体で男性による育児・家事等の意識改革を行うべき」などの記載がありました。

男性が育児や介護、家事、地域活動に積極的に参加していくために必要だと思うこと（問7） 性別比較

回答数(人)

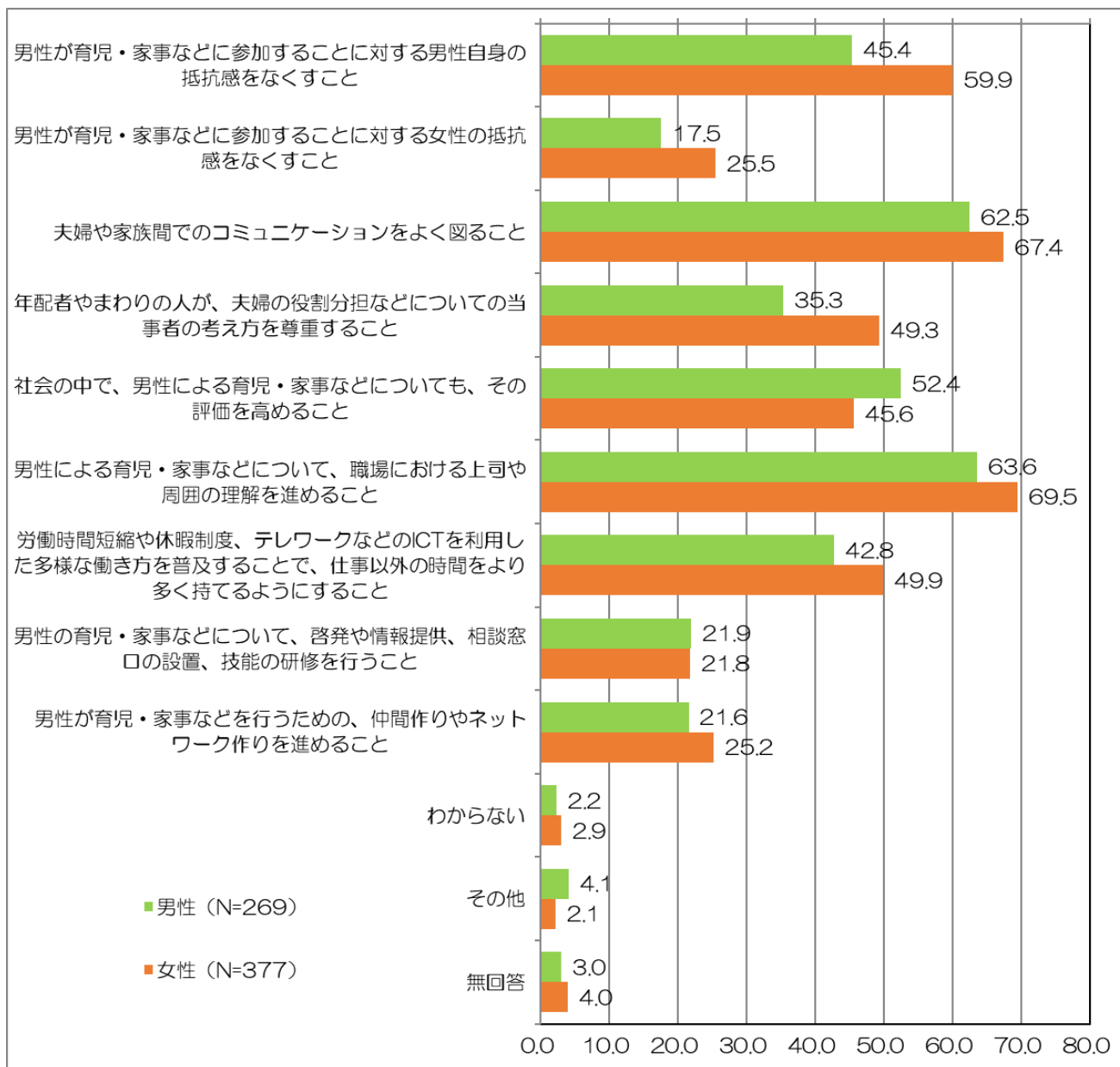
	男性が育児・家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が育児・家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性による育児・家事などについても、その評価を高めること	男性による育児・家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること	労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	男性の育児・家事などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	男性が育児・家事などを行うための、仲間作りやネットワーク作りを進めること	わからない	その他	無回答
男性(N=269)	122	47	168	95	141	171	115	59	58	6	11	8
女性(N=377)	226	96	254	186	172	262	188	82	95	11	8	15
その他(N=7)	3	2	5	5	3	4	4	3	1	1	0	1
無回答(N=8)	4	0	4	3	2	5	3	1	3	1	1	1
計(N=661)	355	145	431	289	318	442	310	145	157	19	20	25

回答割合(%)

	男性が育児・家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が育児・家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性による育児・家事などについても、その評価を高めること	男性による育児・家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること	労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	男性の育児・家事などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	男性が育児・家事などを行うための、仲間作りやネットワーク作りを進めること	わからない	その他	無回答
男性(N=269)	45.4	17.5	62.5	35.3	52.4	63.6	42.8	21.9	21.6	2.2	4.1	3.0
女性(N=377)	59.9	25.5	67.4	49.3	45.6	69.5	49.9	21.8	25.2	2.9	2.1	4.0
その他(N=7)	42.9	28.6	71.4	71.4	42.9	57.1	57.1	42.9	14.3	14.3	0.0	14.3
無回答(N=8)	50.0	0.0	50.0	37.5	25.0	62.5	37.5	12.5	37.5	12.5	12.5	12.5
計(N=661)	53.7	21.9	65.2	43.7	48.1	66.9	46.9	21.9	23.8	2.9	3.0	3.8

男性が家事、子育て、介護に積極的に参加していくために必要だと思うこと(問7)
性別比較

回答割合(%)



性別で比較すると、男女で最も回答に差があるのは「男性が育児・家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」で、女性の方が14.5ポイント高くなっています。

次いで「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」も、女性の方が14ポイント高くなっています。

4 職場や働き方について

問8 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどのように思いますか
(1つに○)

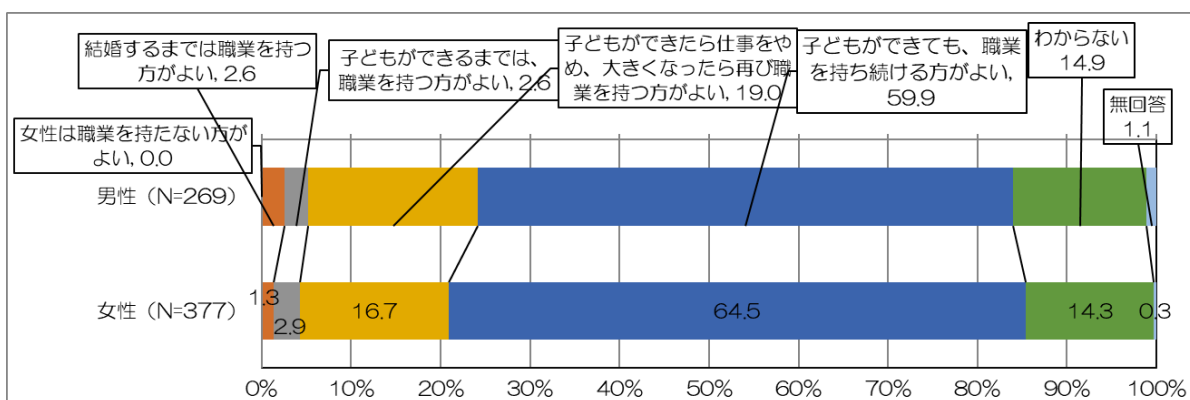
回答数 (人)

	女性は職業を持たない方がよい	結婚するまでは職業を持つ方がよい	子どもができるまでは、職業を持つ方がよい	子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい	子どもができても、職業を持ち続ける方がよい	わからない	無回答
男性(N=269)		7	7	51	161	40	3
女性(N=377)		5	11	63	243	54	1
その他(N=7)		2		1	1	3	
無回答(N=8)		1			5	1	1
計(N=661)		15	18	115	410	98	5

回答割合 (%)

	女性は職業を持たない方がよい	結婚するまでは職業を持つ方がよい	子どもができるまでは、職業を持つ方がよい	子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい	子どもができても、職業を持ち続ける方がよい	わからない	無回答
男性(N=269)	0.0	2.6	2.6	19.0	59.9	14.9	1.1
女性(N=377)	0.0	1.3	2.9	16.7	64.5	14.3	0.3
その他(N=7)	0.0	28.6	0.0	14.3	14.3	42.9	0.0
無回答(N=8)	0.0	12.5	0.0	0.0	62.5	12.5	12.5
計(N=661)	0.0	2.3	2.7	17.4	62.0	14.8	0.8

女性が職業を持つことについて、回答者全体では、「子どもができても、職業を持ち続ける方がよい」という回答が最も多く、62%でした。

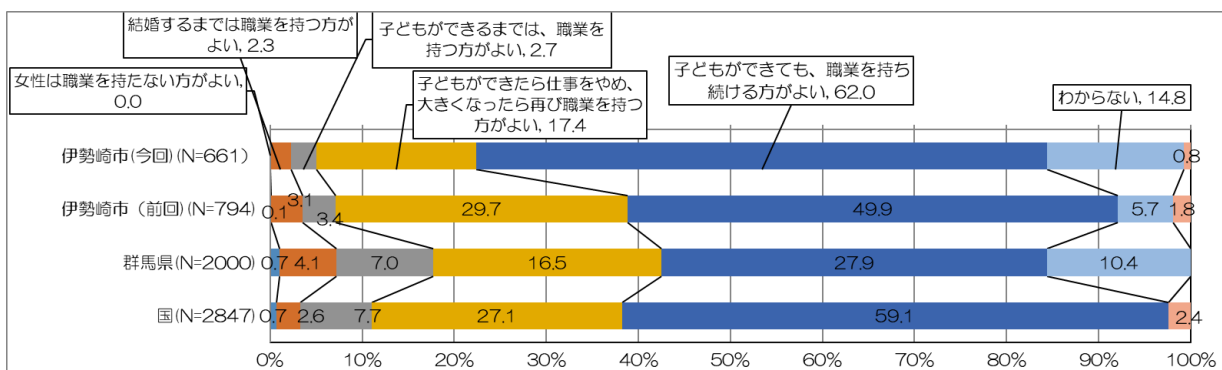


性別による大きな傾向の違いは見られませんが、「子どもができても、職業を持ち続ける方がよい」が、女性の方が4.6ポイントと若干高くなっています。

◇他調査との比較—女性が職業を持つことについてどう思うか（問8）—◇

回答割合(%)

	女性は職業を持たない方がよい	結婚するまでは職業を持つ方がよい	子どもができるまでは、職業を持つ方がよい	子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい	子どもができて、職業を持ち続ける方がよい	わからない	無回答
伊勢崎市(今回)(N=661)	0.0	2.3	2.7	17.4	62.0	14.8	0.8
伊勢崎市(前回)(N=794)	0.1	3.1	3.4	29.7	49.9	5.7	1.8
群馬県(N=2000)	0.7	4.1	7.0	16.5	27.9	10.4	
国(N=2847)	0.7	2.6	7.7	27.1	59.1		2.4



※伊勢崎市(前回)、国、県の調査は選択肢が同一ではありません。

伊勢崎市の前回調査と比較すると、「子どもができて、職業を持ち続ける方がよい」が、12.1ポイント増加し、一方「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」という回答は、12.3ポイント減少しています。

群馬県と比較すると、「子どもができて、職業を持ち続ける方がよい」が、伊勢崎市の方が34.1%高くなっています。

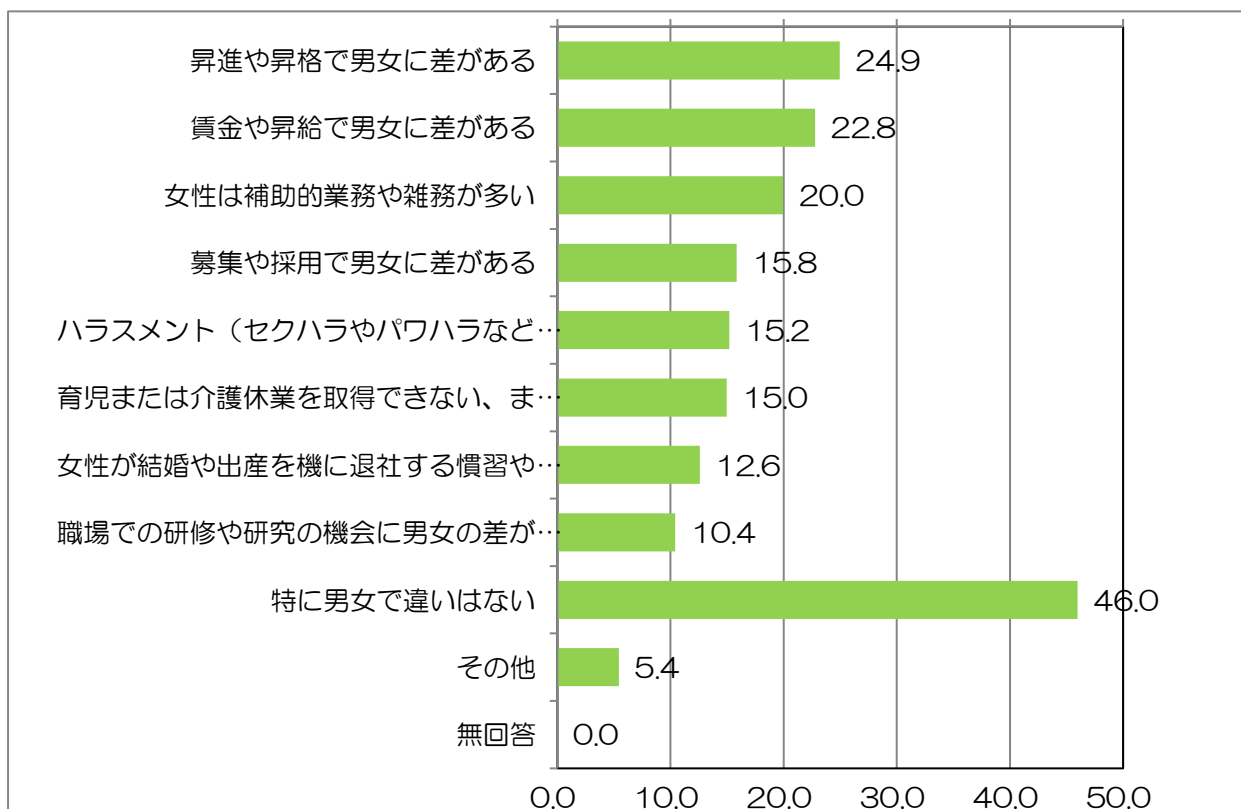
国と比較すると、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が、伊勢崎市の方が9.7ポイント低くなっています。

問9 あなたの職場では次のようなことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

※現在勤めている方への設問

	回答数(人)	回答割合(%) N=461
昇進や昇格で男女に差がある	115	24.9
賃金や昇給で男女に差がある	105	22.8
女性は補助的業務や雑務が多い	92	20.0
募集や採用で男女に差がある	73	15.8
ハラスメント(セクハラやパワハラなどの嫌がらせ)の相談窓口が設置されていない	70	15.2
育児または介護休業を取得できない、または取得しにくい	69	15.0
女性が結婚や出産を機に退社する慣習や雰囲気がある	58	12.6
職場での研修や研究の機会に男女の差がある	48	10.4
特に男女で違いはない	212	46.0
その他	25	5.4
無回答	0	0.0

回答割合(%)



職場における男女格差について、「特に男女で違いはない」が最も多く、46%でした。「昇進や昇格で男女に差がある」、「賃金や昇給で男女に差がある」、「女性は補助的業務や雑務が多い」は、いずれも20%代でした。

また、「その他」として、「職場に男性(または女性)しかいない」などの記載がありました。

職場における男女格差（問9）性別比較

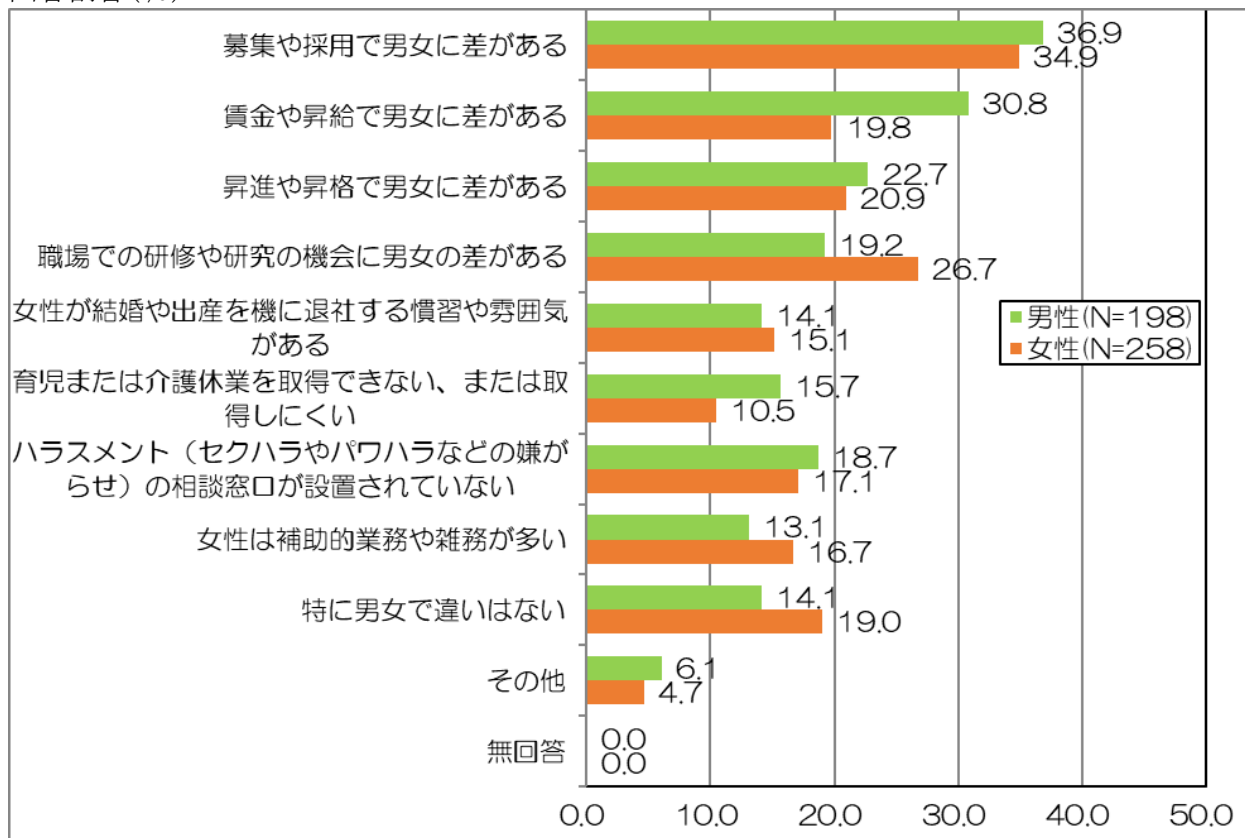
回答数(人)

	募集や採用で男女に差がある	賃金や昇給で男女に差がある	昇進や昇格で男女に差がある	職場での研修や研究の機会に男女の差がある	女性が結婚や出産を機に退社する慣習や雰囲気がある	育児または介護休業を取得できない、または取得しにくい	ハラスメント(セクハラやパワハラなどの嫌がらせ)の相談窓口が設置されていない	女性は補助的業務や雑務が多い	特に男女で違いはない	その他	無回答
男性(N=198)	73	61	45	38	28	31	37	26	28	12	0
女性(N=258)	90	51	54	69	39	27	44	43	49	12	0
その他(N=3)	3	0	2	0	1	1	1	0	0	1	0
無回答(N=2)	0	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0
計(N=461)	166	113	102	108	69	60	83	70	77	25	0

回答割合(%)

	募集や採用で男女に差がある	賃金や昇給で男女に差がある	昇進や昇格で男女に差がある	職場での研修や研究の機会に男女の差がある	女性が結婚や出産を機に退社する慣習や雰囲気がある	育児または介護休業を取得できない、または取得しにくい	ハラスメント(セクハラやパワハラなどの嫌がらせ)の相談窓口が設置されていない	女性は補助的業務や雑務が多い	特に男女で違いはない	その他	無回答
男性(N=198)	36.9	30.8	22.7	19.2	14.1	15.7	18.7	13.1	14.1	6.1	0.0
女性(N=258)	34.9	19.8	20.9	26.7	15.1	10.5	17.1	16.7	19.0	4.7	0.0
その他(N=3)	100.0	0.0	66.7	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0
無回答(N=2)	0.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
計(N=461)	36.0	24.5	22.1	23.4	15.0	13.0	18.0	15.2	16.7	5.4	0.0

回答割合(%)

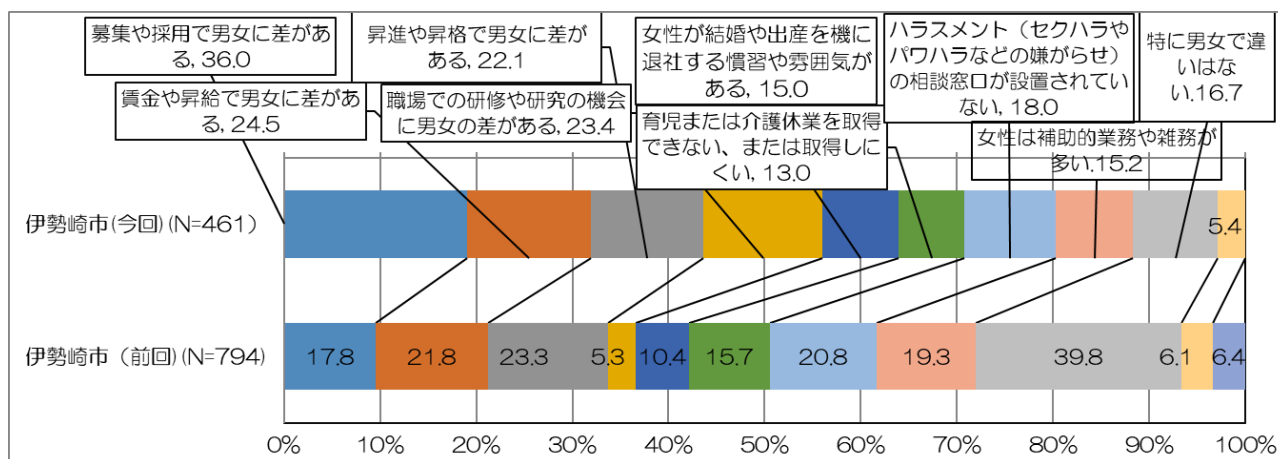


性別で比較すると、男女で最も回答に差があるのは、「賃金や昇給で男女に差がある」で、男性の方が11ポイント高くなっています。逆に、「職場での研修や研究の機会に男女の差がある」は、女性の方が7.5ポイント高くなっています。

◇他調査との比較—職場における男女格差（問9）—◇

回答割合(%)

	募集や採用で男女に差がある	賃金や昇給で男女に差がある	昇進や昇格で男女に差がある	職場での研修や研究の機会に男女の差がある	女性が結婚や出産を機に退社する慣習や雰囲気がある	育児または介護休業を取得できない、または取得しにくい	ハラスメント（セクハラやパワハラなどの嫌がらせ）の相談窓口が設置されていない	女性は補助的業務や雑務が多い	特に男女で違いはない	その他	無回答
伊勢崎市(今回)(N=461)	36.0	24.5	22.1	23.4	15.0	13.0	18.0	15.2	16.7	5.4	0.0
伊勢崎市(前回)(N=794)	17.8	21.8	23.3	5.3	10.4	15.7	20.8	19.3	39.8	6.1	6.4



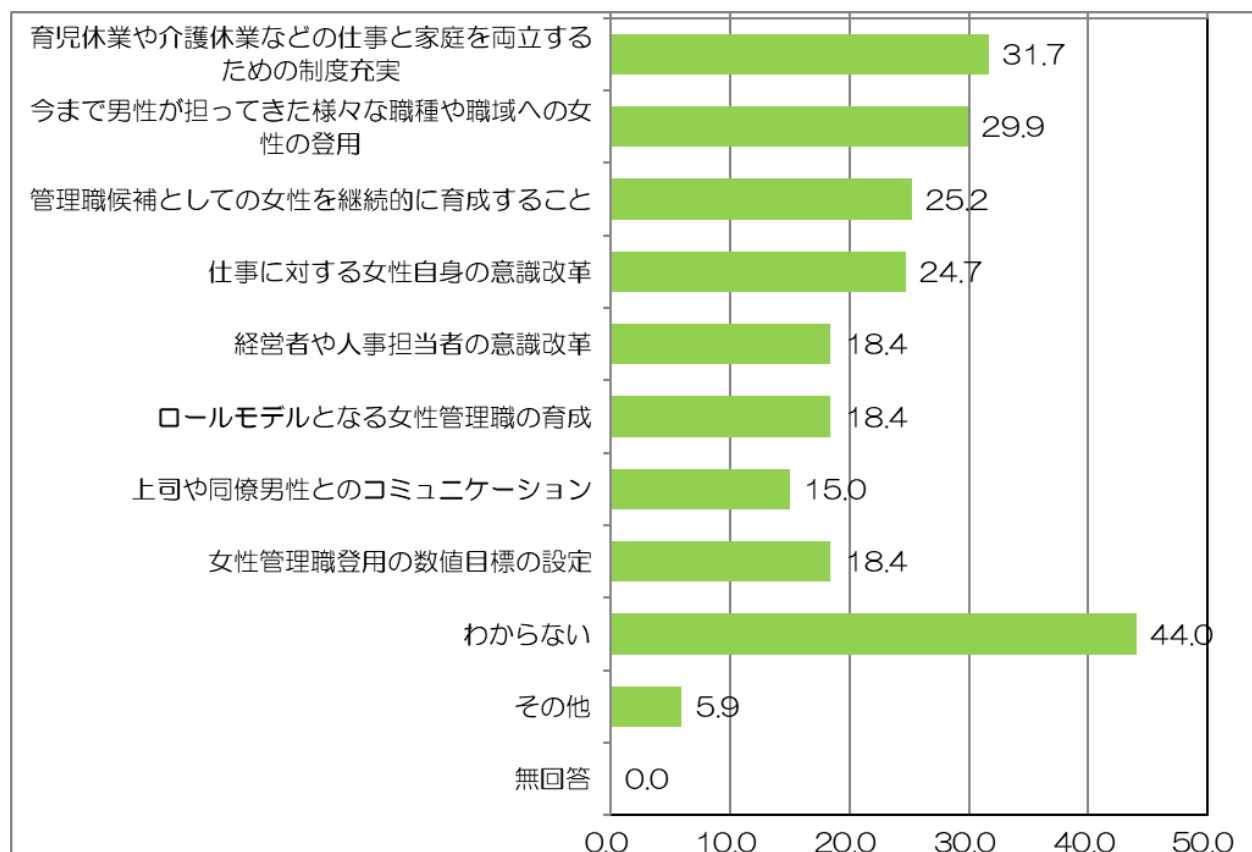
※伊勢崎市(前回)は、今回の調査と選択肢の表現が若干異なるため、厳密な比較ではありません。

伊勢崎市の前回調査と比較すると、「募集や採用で男女に差がある」、「職場での研究の機会に男女の差がある」が、いずれも18ポイント以上増加し、一方「特に男女で違いはない」が、23.1ポイント減少しています。

問10 あなたの職場で、女性の管理職が登用されるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(1つに○)※現在勤めている方への設問

	回答数(人)	回答割合(%) N=461
育児休業や介護休業などの仕事と家庭を両立するための制度充実	146	31.7
今まで男性が担ってきた様々な職種や職域への女性の登用	138	29.9
管理職候補としての女性を継続的に育成すること	116	25.2
仕事に対する女性自身の意識改革	114	24.7
経営者や人事担当者の意識改革	85	18.4
ロールモデルとなる女性管理職の育成	85	18.4
上司や同僚男性とのコミュニケーション	69	15.0
女性管理職登用の数値目標の設定	85	18.4
わからない	233	44.0
その他	27	5.9
無回答	0	0.0

回答割合(%)



女性の管理職が登用されるためにどのようなことが必要かについて、最も多かったのは、「わからない」で、44%でした。次いで、「育児休業や介護休業などの仕事と家庭を両立するための制度充実」が、31.7%でした。

また、「その他」として、「性別に関係なく、能力で評価すべき」、「女性の管理職に対する男性の意識改革」などの記載がありました。

女性管理職登用に必要だと思うこと（問10）性別比較

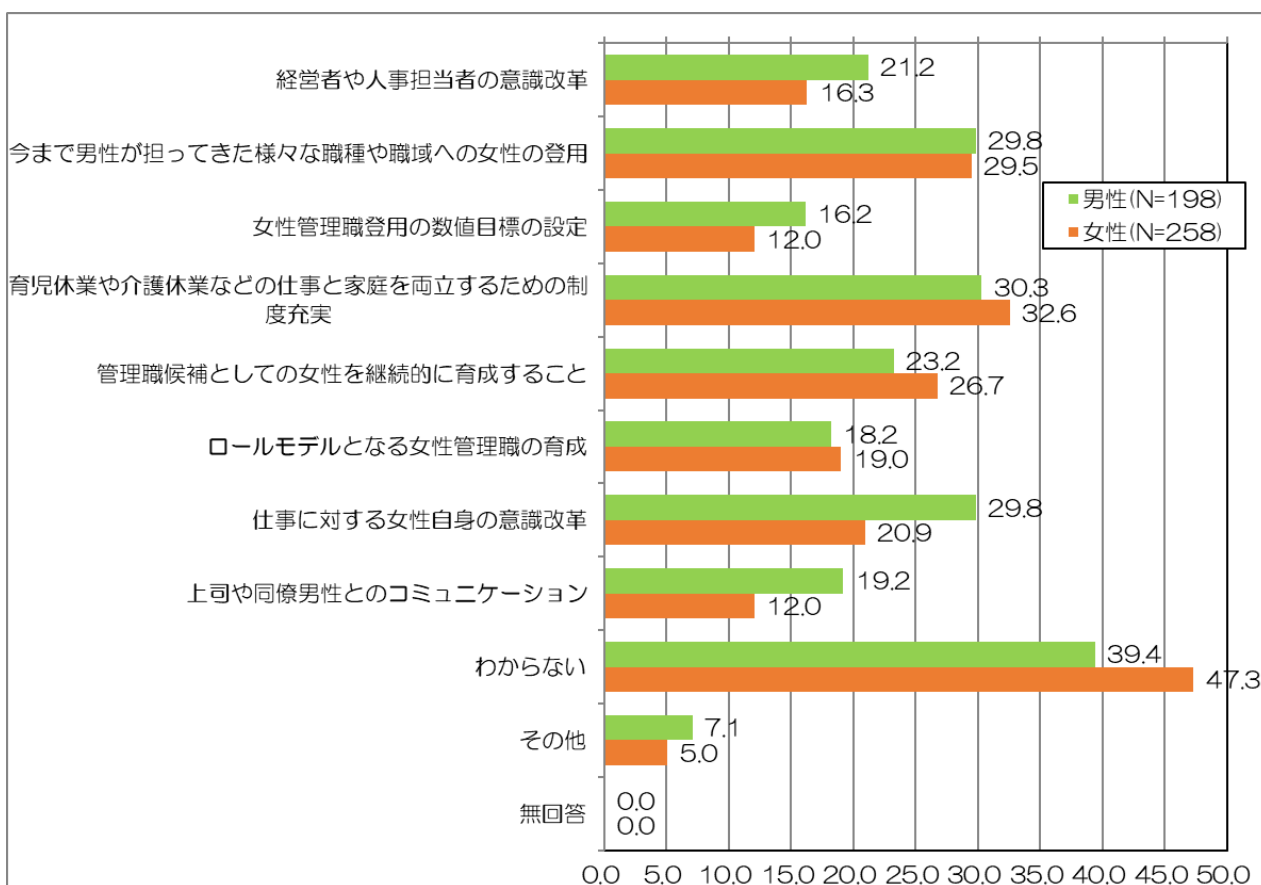
回答数(人)

	経営者や人事担当者の意識改革	今まで男性が担ってきた様々な職種や職域への女性の登用	女性管理職登用の数値目標の設定	育児休業や介護休業などの仕事と家庭を両立するための制度充実	管理職候補としての女性を継続的に育成すること	ロールモデルとなる女性管理職の育成	仕事に対する女性自身の意識改革	上司や同僚男性とのコミュニケーション	わからない	その他	無回答
男性(N=198)	42	59	32	60	46	36	59	38	78	14	0
女性(N=258)	42	76	31	84	69	49	54	31	122	13	0
その他(N=3)	1	2	0	2	1	0	1	0	1	0	0
無回答(N=2)	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0
計(N=461)	85	138	63	146	116	85	114	69	203	27	0

回答割合(%)

	経営者や人事担当者の意識改革	今まで男性が担ってきた様々な職種や職域への女性の登用	女性管理職登用の数値目標の設定	育児休業や介護休業などの仕事と家庭を両立するための制度充実	管理職候補としての女性を継続的に育成すること	ロールモデルとなる女性管理職の育成	仕事に対する女性自身の意識改革	上司や同僚男性とのコミュニケーション	わからない	その他	無回答
男性(N=198)	21.2	29.8	16.2	30.3	23.2	18.2	29.8	19.2	39.4	7.1	0.0
女性(N=258)	16.3	29.5	12.0	32.6	26.7	19.0	20.9	12.0	47.3	5.0	0.0
その他(N=3)	33.3	66.7	0.0	66.7	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0
無回答(N=2)	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
計(N=461)	18.4	29.9	13.7	31.7	25.2	18.4	24.7	15.0	44.0	5.9	0.0

回答割合(%)



性別で比較すると、最も男女で差があるのは、「仕事に対する女性自身の意識改革」で、男性の方が8.9ポイント高くなっています。逆に「わからない」は、女性の方が7.9ポイント高くなっています。

5 育児休業・介護休業について

問11 現在の職場での育児・介護休業の取得について、お聞かせください。(1つに○)

※現在勤めている方への設問

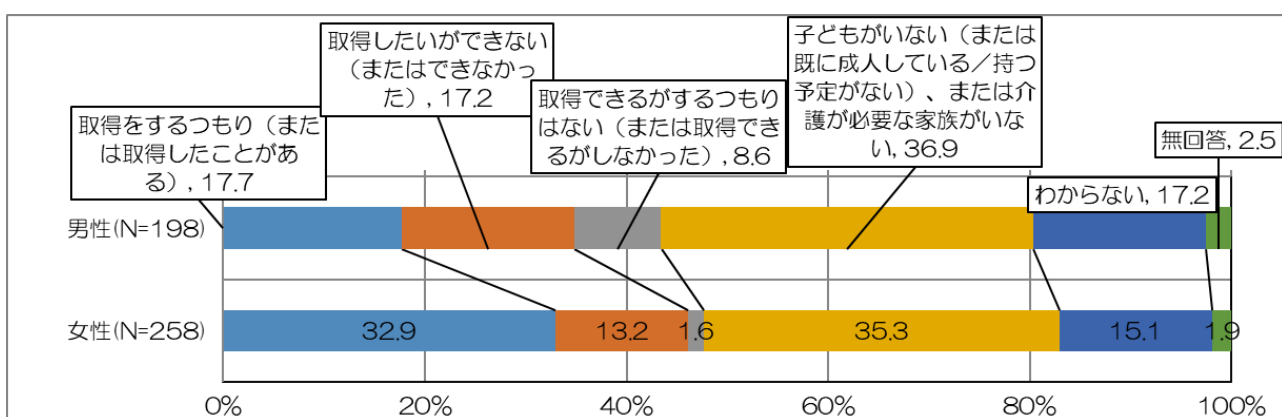
回答数(人)

	取得をするつもり (または取得した ことがある)	取得したいがで きない(またはでき なかった)	取得できるがする つもりはない(また は取得できるがし なかった)	子どもがいない (または既に成人 している/持つ予 定がない)、また は介護が必要な 家族がいない	わからない	無回答
男性(N=198)	35	34	17	73	34	5
女性(N=258)	85	34	4	91	39	5
その他(N=3)		1		2		
無回答(N=2)	1					1
計(N=461)	121	69	21	166	73	11

回答割合(%)

	取得をするつもり (または取得した ことがある)	取得したいがで きない(またはでき なかった)	取得できるがする つもりはない(また は取得できるがし なかった)	子どもがいない (または既に成人 している/持つ予 定がない)、また は介護が必要な 家族がいない	わからない	無回答
男性(N=198)	17.7	17.2	8.6	36.9	17.2	2.5
女性(N=258)	32.9	13.2	1.6	35.3	15.1	1.9
その他(N=3)	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0
無回答(N=2)	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
計(N=461)	26.2	15.0	4.6	36.0	15.8	2.4

育児休業の取得について、「子どもがいない(または既に成人している/持つ予定がない)」が36%で最も多く、次いで「取得するつもり(または取得したことがある)」は26.2%でした。



性別で比較すると、「取得するつもり(または取得したことがある)」は、女性の方が15.2ポイント高くなっています。

一方、「取得したいができない(またはできなかった)」は、男性の方が4ポイント高くなっています。

さらに、「取得できるがするつもりはない(または取得できなかった)」は、男性の方が7ポイント高くなっています。

問12 育児・介護休業を取得できないまたはしない理由はどのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

※問11で「取得したいができない」または「取得するつもりはない」と回答した方への設問

回答数(人)

	勤務先に 育児・介護 休業制度 がない	職場に取 得しにくい 雰囲気がある	復職できる 目途がた たない	上司や同 僚に迷惑 がかかる	所得が減る 心配がある	後の昇給 や昇格に 影響する 心配がある	配偶者や家 族などが子 どもをみる ことができる、あ るいは介護 が必要な家 族の世話を する者がいる	その他	無回答
男性(N=51)	11	22	3	27	21	10	12	3	1
女性(N=38)	14	20	7	19	20	3	2	2	0
その他(N=1)	1	1	1	1	0	1	0	0	0
無回答(N=0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計(N=90)	26	43	11	47	41	14	14	5	1

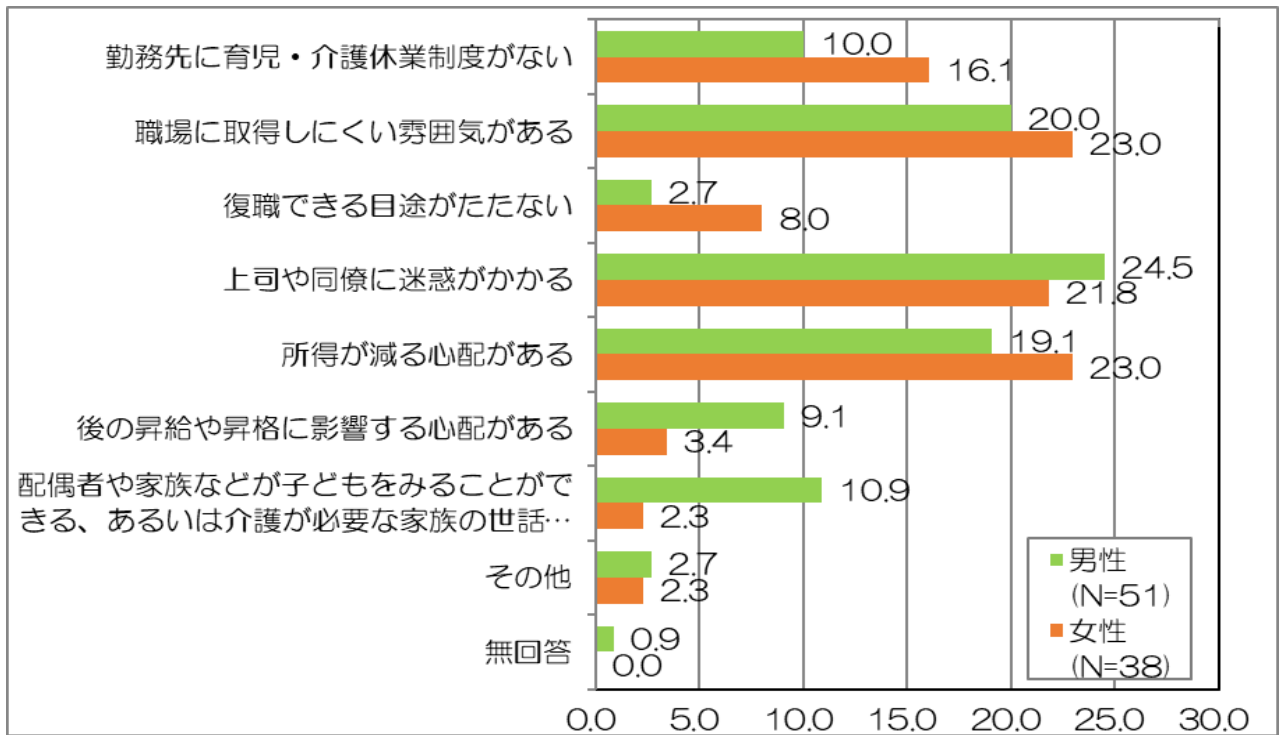
回答割合(%)

	勤務先に 育児・介護 休業制度 がない	職場に取 得しにくい 雰囲気がある	復職できる 目途がた たない	上司や同 僚に迷惑 がかかる	所得が減る 心配がある	後の昇給 や昇格に 影響する 心配がある	配偶者や家 族などが子 どもをみる ことができる、あ るいは介護 が必要な家 族の世話を する者がいる	その他	無回答
男性(N=51)	10.0	20.0	2.7	24.5	19.1	9.1	10.9	2.7	0.9
女性(N=38)	16.1	23.0	8.0	21.8	23.0	3.4	2.3	2.3	0.0
その他(N=1)	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
無回答(N=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計(N=90)	12.9	21.3	5.4	23.3	20.3	6.9	6.9	2.5	0.5

育児休業を取得できないまたはしない理由について、「上司や同僚に迷惑がかかる」が23.3%で最も高く、次いで「職場に取得しにくい雰囲気がある」は21.3%、「所得が減る心配がある」は20.3%でいずれも2割代でした。

「その他」として、「復帰に不安がある」、「パートのため、取得ができるかがわからない」などの記載がありました。

回答割合(%)



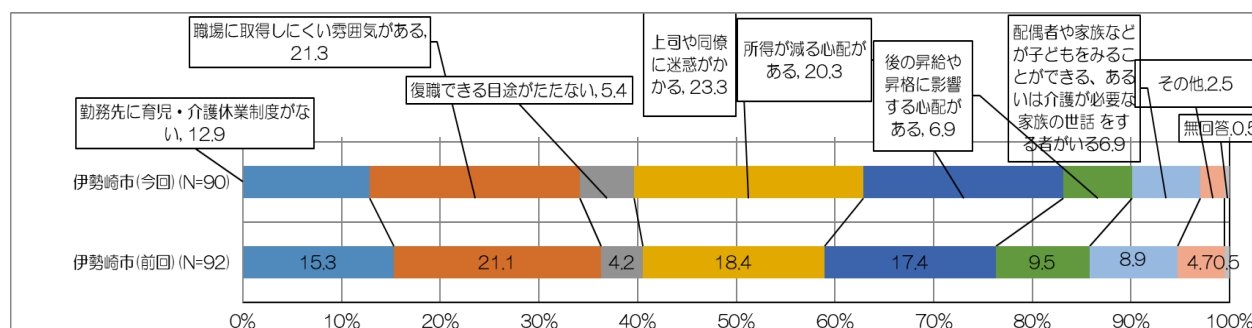
性別で比較すると、「配偶者や家族などが子どもをみることができる、あるいは介護が必要な家族の世話をする者がいる」で、男性の方が8.6ポイントと高くなっています。

逆に、「勤務先に育児・介護休業制度がない」と回答したのは、女性の方が6.1ポイント高くなっています。

◇他調査との比較—育児・介護休業の取得できないまたはしない理由（問12）—◇

回答割合(%)

	勤務先に育児・介護休業制度がない	職場に取得しにくい雰囲気がある	復職できる目途がたっていない	上司や同僚に迷惑がかかる	所得が減る心配がある	後の昇給や昇格に影響する心配がある	配偶者や家族などが子どもをみることができ、あるいは介護が必要な家族の世話をしている者がいる	その他	無回答
伊勢崎市(今回)(N=90)	12.9	21.3	5.4	23.3	20.3	6.9	6.9	2.5	0.5
伊勢崎市(前回)(N=92)	15.3	21.1	4.2	18.4	17.4	9.5	8.9	4.7	0.5



※伊勢崎市(前回)は、今回の調査と選択肢の表現が若干異なるため、厳密な比較ではありません。

伊勢崎市の前回調査と比較すると、「上司や同僚に迷惑がかかる」が、4.9ポイント増加しています。

問13 あなたは、男性の育児休業や介護休業取得についてどう思いますか。(1つに○)

回答数(人)

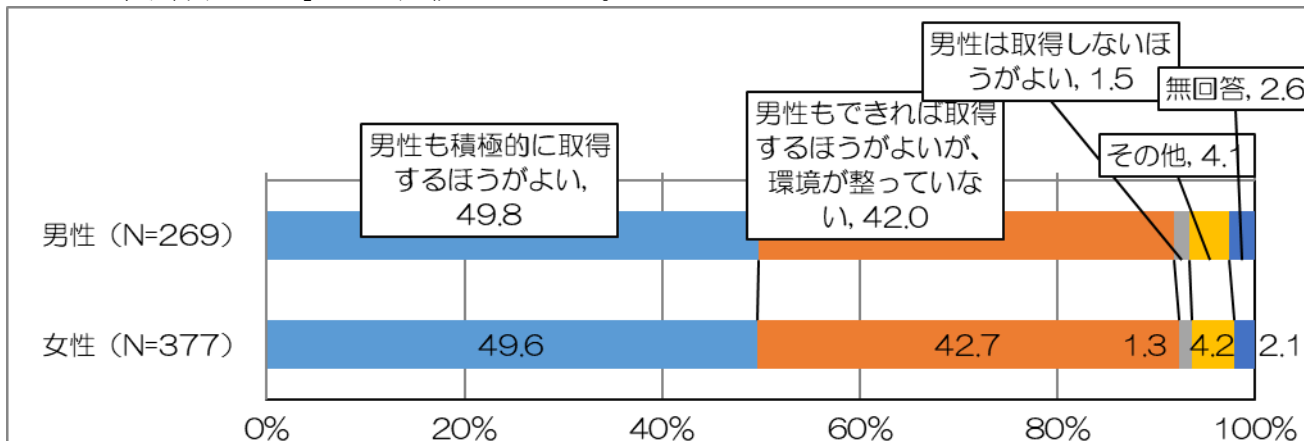
	男性も積極的に取得するほうがよい	男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない	男性は取得しないほうがよい	その他	無回答
男性(N=269)	134	113	4	11	7
女性(N=377)	187	161	5	16	8
その他(N=7)	3	3			1
無回答(N=8)	3	2			3
計(N=661)	327	279	9	27	19

回答割合(%)

	男性も積極的に取得するほうがよい	男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない	男性は取得しないほうがよい	その他	無回答
男性(N=269)	49.8	42.0	1.5	4.1	2.6
女性(N=377)	49.6	42.7	1.3	4.2	2.1
その他(N=7)	42.9	42.9	0.0	0.0	14.3
無回答(N=8)	37.5	25.0	0.0	0.0	37.5
計(N=661)	49.5	42.2	1.4	4.1	2.9

男性の育児休業取得について、最も高かったのは、「男性も積極的に取得するほうがよい」で、49.5%でした。次いで「男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない」は42.2%でした。

「その他」として、「環境さえ整備されていれば、取得は個人の自由」、「しっかりと育児に専念するのであれば、取得すべき」などの記載がありました。



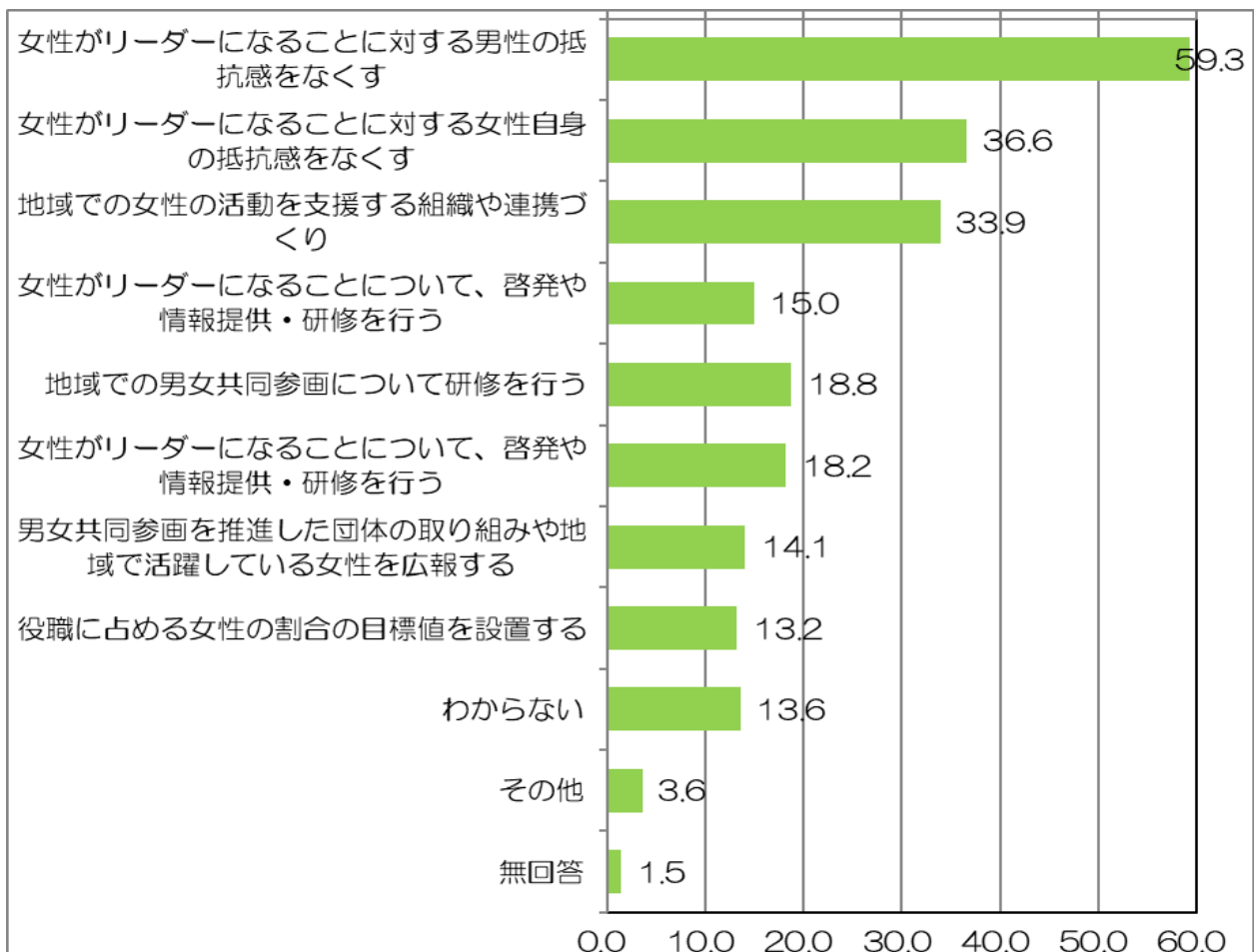
性別による大きな傾向の違いは見られませんでした。

6 地域の方針決定の場への女性の参画について

問14 町内会や自治会など地域における方針決定の場へ女性が増えていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

	回答数(人)	回答割合(%) N=661
女性がリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくす	392	59.3
女性がリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくす	242	36.6
地域での女性の活動を支援する組織や連携づくり	224	33.9
女性がリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行う	119	15.0
地域での男女共同参画について研修を行う	124	18.8
女性がリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行う	120	18.2
男女共同参画を推進した団体の取り組みや地域で活躍している女性を広報する	93	14.1
役職に占める女性の割合の目標値を設置する	87	13.2
わからない	90	13.6
その他	24	3.6
無回答	10	1.5

回答割合(%)



町内会や自治会など地域における方針決定の場へ女性が増えていくために必要なこととして、最も高かったのは、「女性がリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくす」で、59.3%でした。

次いで、「女性がリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくす」と「地域での女性の活動を支援する組織や連携づくり」で、いずれも3割代でした。

「その他」として、「そもそも自らやりたい女性がいいるのではないか」、「職場申請で公休や免職扱いになるなど住民参加のための時間の保障があれば、参加しやすい」、「女性軽視の考えを持っている人が多いので、まずはそのことから直していくべき」などの記載がありました。

町内会や自治会など地域における方針決定の場へ女性が増えるために必要だと思うこと（問14）
性別比較

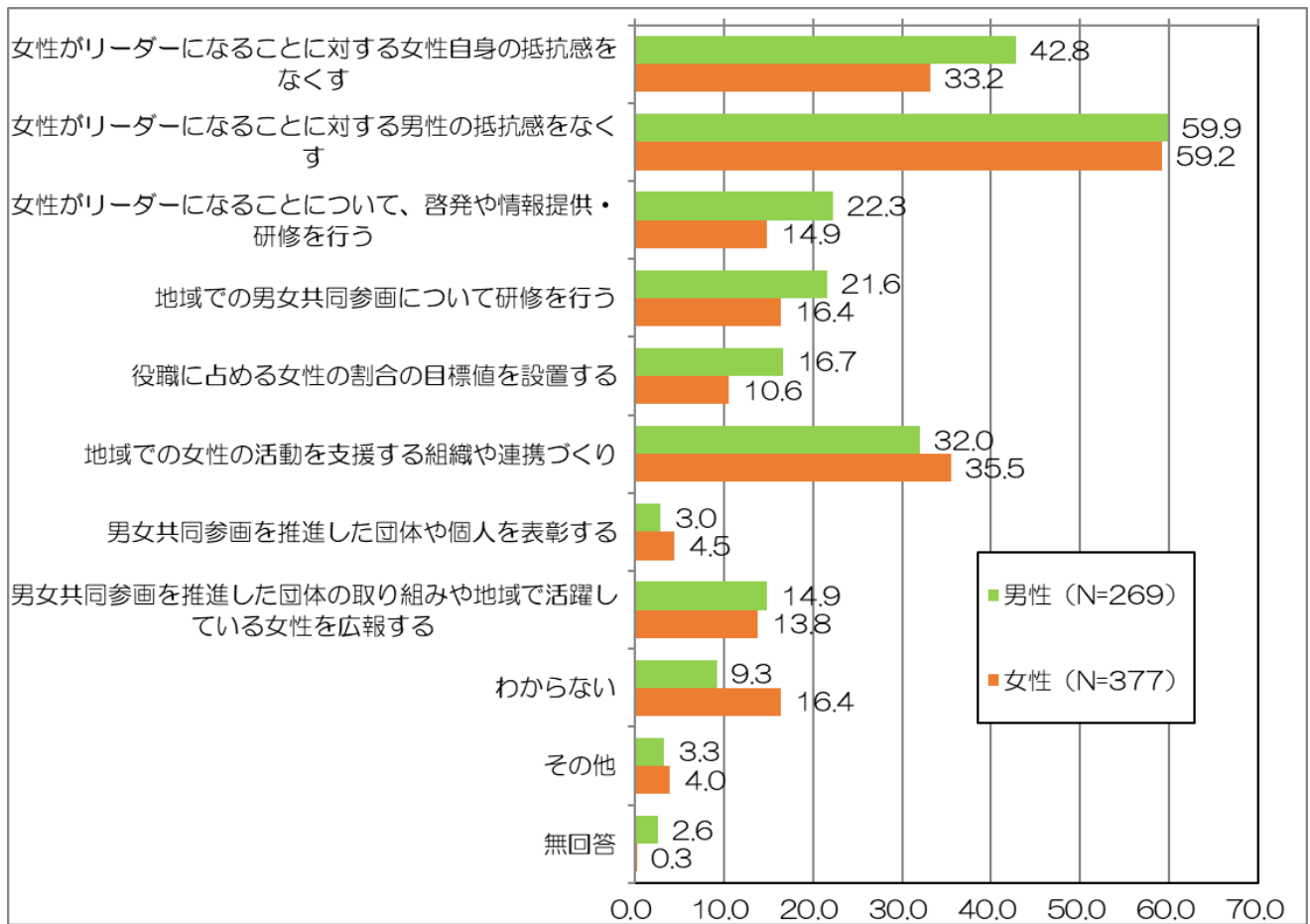
回答数(人)

	女性がリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくす	女性がリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくす	女性がリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行う	地域での男女共同参画について研修を行う	役職に占める女性の割合の目標値を設定する	地域での女性の活動を支援する組織や連携づくり	男女共同参画を推進した団体や個人を表彰する	男女共同参画を推進した団体の取り組みや地域で活躍している女性を広報する	わからない	その他	無回答
男性(N=269)	115	161	60	58	45	86	8	40	25	9	7
女性(N=377)	125	223	56	62	40	134	17	52	62	15	1
その他(N=7)	1	4	3	2	2	2	0	0	1	0	1
無回答(N=8)	1	4	1	2	0	2	0	1	2	0	1
計(N=661)	242	392	120	124	87	224	25	93	90	24	10

回答割合(%)

	女性がリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくす	女性がリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくす	女性がリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行う	地域での男女共同参画について研修を行う	役職に占める女性の割合の目標値を設定する	地域での女性の活動を支援する組織や連携づくり	男女共同参画を推進した団体や個人を表彰する	男女共同参画を推進した団体の取り組みや地域で活躍している女性を広報する	わからない	その他	無回答
男性(N=269)	42.8	59.9	22.3	21.6	16.7	32.0	3.0	14.9	9.3	3.3	2.6
女性(N=377)	33.2	59.2	14.9	16.4	10.6	35.5	4.5	13.8	16.4	4.0	0.3
その他(N=7)	14.3	57.1	42.9	28.6	28.6	28.6	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3
無回答(N=8)	12.5	50.0	12.5	25.0	0.0	25.0	0.0	12.5	25.0	0.0	12.5
計(N=661)	36.6	59.3	18.2	18.8	13.2	33.9	3.8	14.1	13.6	3.6	1.5

回答割合(%)

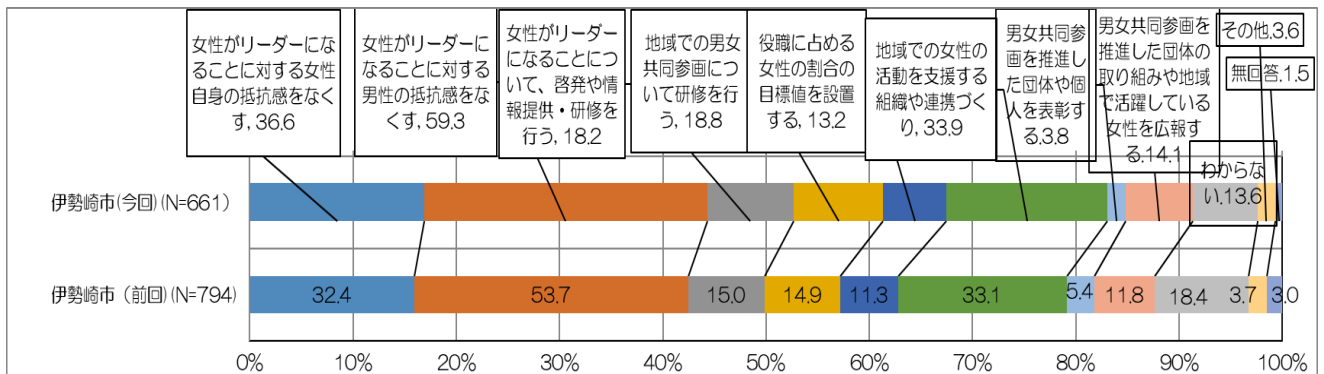


性別で比較すると、「女性がリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくす」が、男性の方が9.6ポイント高く、逆に「わからない」は、女性の方が7.1ポイント高くなっています。

◇他調査との比較—方針決定の場へ女性を増やすために必要なこと（問14）—◇

回答割合(%)

	女性がリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくす	女性がリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくす	女性がリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行う	地域での男女共同参画について研修を行う	役職に占める女性の割合の目標値を設置する	地域での女性の活動を支援する組織や連携づくり	男女共同参画を推進した団体や個人を表彰する	男女共同参画を推進した団体の取り組みや地域で活躍している女性を広報する	わからない	その他	無回答
伊勢崎市(今回)(N=661)	36.6	59.3	18.2	18.8	13.2	33.9	3.8	14.1	13.6	3.6	1.5
伊勢崎市(前回)(N=794)	32.4	53.7	15.0	14.9	11.3	33.1	5.4	11.8	18.4	3.7	3.0



伊勢崎市の前回調査と比較すると、「女性がリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくす」が、5.6ポイント増加しています。

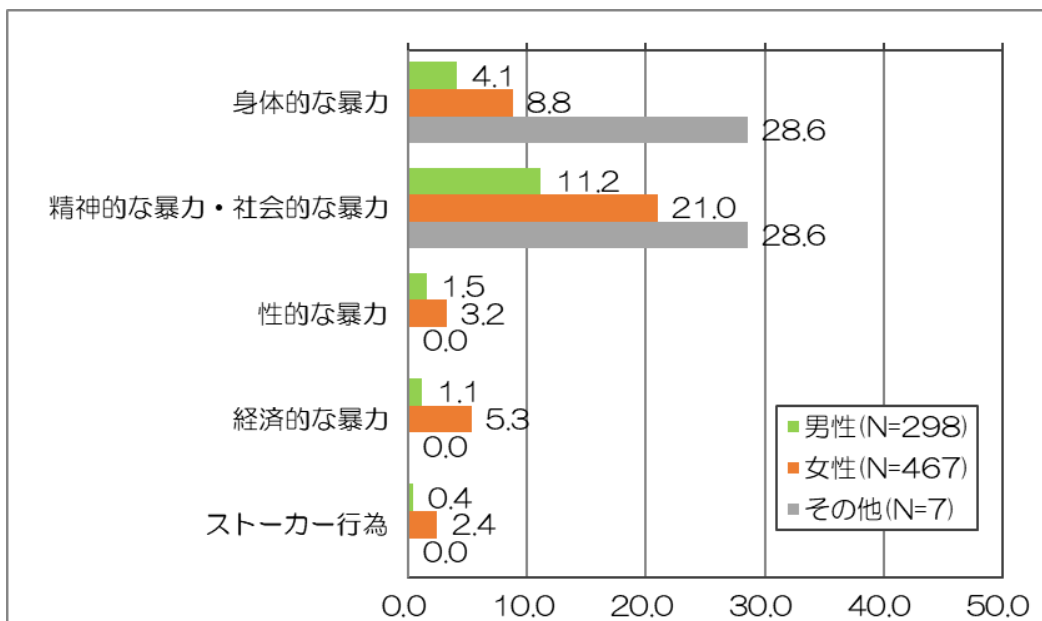
7 DV（ドメスティック・バイオレンス）について

問15 あなたは過去5年以内に、恋人や配偶者等のパートナー※から、次のようなことを「されたこと」や「したこと」がありますか。（それぞれ1つに○）

各項目について「されたこと」 回答数と回答割合

	性別	回答数(人)				回答割合(%)			
		何度もある	1・2度ある	ない	無回答	何度もある	1・2度ある	ない	無回答
身体的な暴力	男性(N=269)	1	10	246	12	0.4	3.7	91.4	4.5
	女性(N=377)	13	20	331	13	3.4	5.3	87.8	3.4
	その他(N=7)	1	1	4	1	14.3	14.3	57.1	14.3
	無回答(N=8)	1	0	7	0	12.5	0.0	87.5	0.0
	計(N=661)	16	31	588	26	2.4	4.7	89.0	3.9
精神的な暴力・ 社会的な暴力	男性(N=269)	9	21	227	12	3.3	7.8	84.4	4.5
	女性(N=377)	38	41	284	14	10.1	10.9	75.3	3.7
	その他(N=7)	2	0	4	1	28.6	0.0	57.1	14.3
	無回答(N=8)	2	0	5	1	25.0	0.0	62.5	12.5
	計(N=661)	51	62	520	28	7.7	9.4	78.7	4.2
性的な暴力	男性(N=269)	1	3	252	13	0.4	1.1	93.7	4.8
	女性(N=377)	4	8	351	14	1.1	2.1	93.1	3.7
	その他(N=7)	0	0	6	1	0.0	0.0	85.7	14.3
	無回答(N=8)	1	1	5	1	12.5	12.5	62.5	12.5
	計(N=661)	6	12	614	29	0.9	1.8	92.9	4.4
経済的な暴力	男性(N=269)	1	2	254	12	0.4	0.7	94.4	4.5
	女性(N=377)	12	8	344	13	3.2	2.1	91.2	3.4
	その他(N=7)	0	0	6	1	0.0	0.0	85.7	14.3
	無回答(N=8)	0	1	6	1	0.0	12.5	75.0	12.5
	計(N=661)	13	11	610	27	2.0	1.7	92.3	4.1
ストーカー行為	男性(N=269)	0	1	256	12	0.0	0.4	95.2	4.5
	女性(N=377)	3	6	355	13	0.8	1.6	94.2	3.4
	その他(N=7)	0	0	6	1	0.0	0.0	85.7	14.3
	無回答(N=8)	0	1	6	1	0.0	12.5	75.0	12.5
	計(N=661)	3	8	623	27	0.5	1.2	94.3	4.1

「ある」と回答した人（「何度もある」と「1・2度ある」の合計）の割合(%)



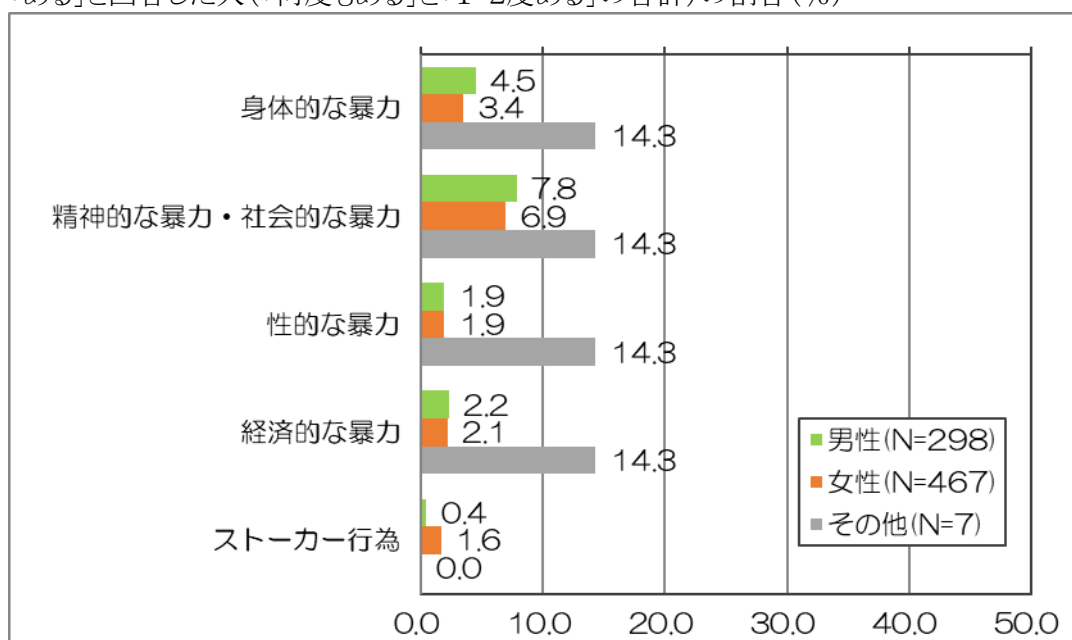
1度でも「ある」と回答した人の割合は、すべての項目において女性の方が高く、中でも「精神的な暴力・社会的な暴力」で、21%でした。

「身体的な暴力」は、女性で8.8%、男性でも4.1%が「ある」と回答しています。

各項目について「したこと」 回答数と回答割合

	性別	回答数(人)				回答割合(%)			
		何でもある	1・2度ある	ない	無回答	何でもある	1・2度ある	ない	無回答
身体的な暴力	男性(N=269)	0	12	247	10	0.0	4.5	91.8	3.7
	女性(N=377)	0	13	349	15	0.0	3.4	92.6	4.0
	その他(N=7)	1	0	5	1	14.3	0.0	71.4	14.3
	無回答(N=8)	0	1	5	2	0.0	12.5	62.5	25.0
	計(N=661)	1	26	606	28	0.2	3.9	91.7	4.2
精神的な暴力・社会的な暴力	男性(N=269)	4	17	239	9	1.5	6.3	88.8	3.3
	女性(N=377)	7	19	334	17	1.9	5.0	88.6	4.5
	その他(N=7)	1	0	5	1	14.3	0.0	71.4	14.3
	無回答(N=8)	0	0	7	1	0.0	0.0	87.5	12.5
	計(N=661)	12	36	585	28	1.8	5.4	88.5	4.2
性的な暴力	男性(N=269)	1	4	255	9	0.4	1.5	94.8	3.3
	女性(N=377)	2	5	354	16	0.5	1.3	93.9	4.2
	その他(N=7)	1	0	5	1	14.3	0.0	71.4	14.3
	無回答(N=8)	0	0	7	1	0.0	0.0	87.5	12.5
	計(N=661)	4	9	621	27	0.6	1.4	93.9	4.1
経済的な暴力	男性(N=269)	3	3	253	10	1.1	1.1	94.1	3.7
	女性(N=377)	5	3	354	15	1.3	0.8	93.9	4.0
	その他(N=7)	1	0	5	1	14.3	0.0	71.4	14.3
	無回答(N=8)	0	0	7	1	0.0	0.0	87.5	12.5
	計(N=661)	9	6	619	27	1.4	0.9	93.6	4.1
ストーカー行為	男性(N=269)	0	1	259	9	0.0	0.4	96.3	3.3
	女性(N=377)	3	3	356	15	0.8	0.8	94.4	4.0
	その他(N=7)	0	0	6	1	0.0	0.0	85.7	14.3
	無回答(N=8)	0	0	7	1	0.0	0.0	87.5	12.5
	計(N=661)	3	4	628	26	0.5	0.6	95.0	3.9

「ある」と回答した人(「何でもある」と「1・2度ある」の合計)の割合(%)



1度でも「ある」と回答した人の割合は、男性が「精神的な暴力・社会的な暴力」について7.8%、女性が6.9%でした。

「身体的な暴力」をしたことが「ある」と回答した人の割合は、男性が4.5%、女性が3.4%でした。

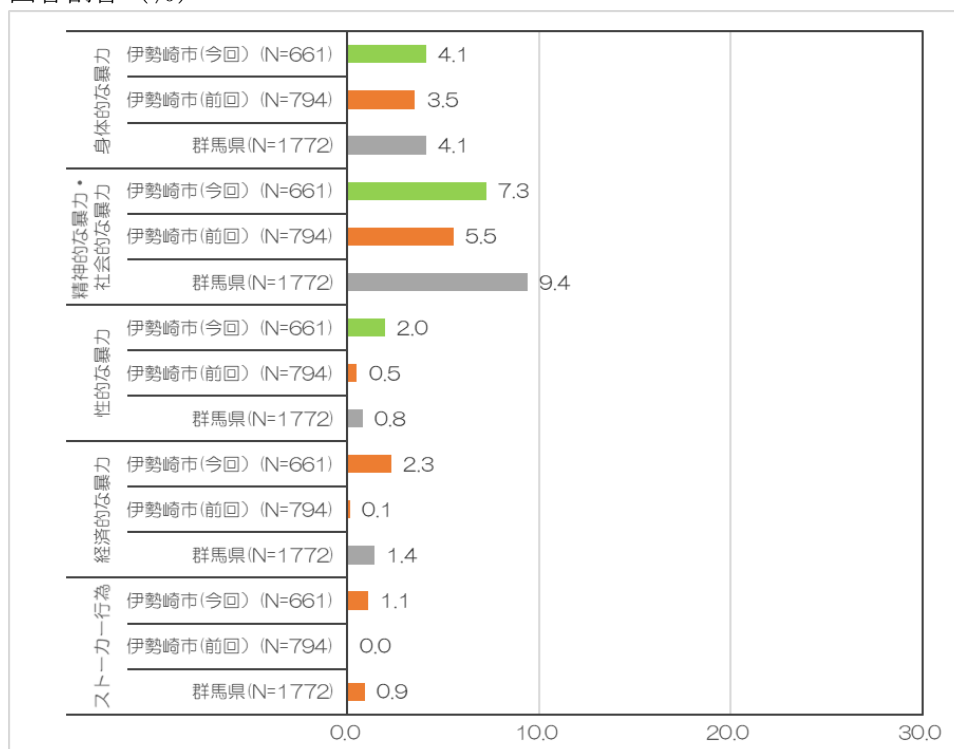
◇他調査との比較—過去5年にDVをした経験（問15）—◇

回答割合（％）

		何度もある	1・2度ある	ない	無回答
身体的な暴力	伊勢崎市(今回)(N=661)	0.2	3.9	91.7	4.2
	伊勢崎市(前回)(N=794)	0.5	3.0	86.9	9.6
	群馬県(N=1772)	0.9	3.2	95.9	
精神的な暴力・社会的な暴力	伊勢崎市(今回)(N=661)	1.8	5.4	88.5	4.2
	伊勢崎市(前回)(N=794)	1.4	4.2	85.4	9.1
	群馬県(N=1772)	2.7	6.7	90.6	
性的な暴力	伊勢崎市(今回)(N=661)	0.6	1.4	93.9	4.1
	伊勢崎市(前回)(N=794)	0.1	0.4	90.8	8.7
	群馬県(N=1772)	0.6	0.2	99.2	
経済的な暴力	伊勢崎市(今回)(N=661)	1.4	0.9	93.6	4.1
	伊勢崎市(前回)(N=794)	0.0	0.1	91.1	8.8
	群馬県(N=1772)	0.8	0.6	98.6	
ストーカー行為	伊勢崎市(今回)(N=661)	0.5	0.6	95.0	3.9
	伊勢崎市(前回)(N=794)	0.0	0.0	91.3	8.7
	群馬県(N=1772)	0.4	0.5	99.2	

「何度もある」と「1・2度ある」の合計

回答割合（％）



伊勢崎市の前回調査と比較すると、いずれの項目においても「ない」と回答した人の割合が、やや高くなっています。

群馬県と比較すると、概ね近い傾向となっています。

◇他調査との比較—過去5年にDVをされた経験（問15）—◇

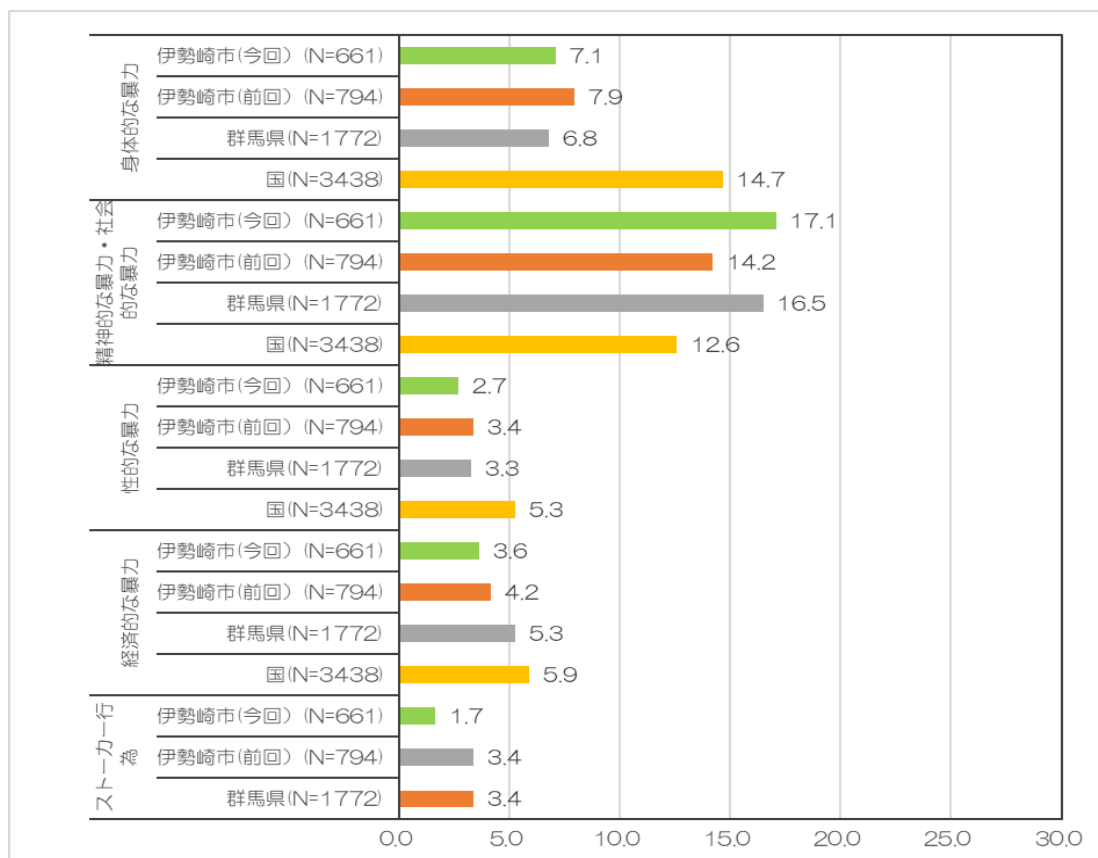
回答割合（％）

		何度もある	1・2度ある	ない	無回答
身体的な暴力	伊勢崎市(今回)(N=661)	2.4	4.7	89.0	3.9
	伊勢崎市(前回)(N=794)	2.5	5.4	84.8	7.3
	群馬県(N=1772)	1.9	4.9	93.2	
	国(N=3438)	2.5	12.2	83.8	1.5
精神的な暴力・社会的な暴力	伊勢崎市(今回)(N=661)	7.7	9.4	78.7	4.2
	伊勢崎市(前回)(N=794)	5.3	8.9	78.8	6.9
	群馬県(N=1772)	7.1	9.4	83.5	
	国(N=3438)	4.8	7.8	85.4	2.0
性的な暴力	伊勢崎市(今回)(N=661)	0.9	1.8	92.9	4.4
	伊勢崎市(前回)(N=794)	1.1	2.3	89.4	7.2
	群馬県(N=1772)	1.2	2.1	96.7	
	国(N=3438)	1.9	3.4	92.6	2.2
経済的な暴力	伊勢崎市(今回)(N=661)	2.0	1.7	92.3	4.1
	伊勢崎市(前回)(N=794)	2.6	1.5	88.8	7.1
	群馬県(N=1772)	2.8	2.5	94.8	
	国(N=3438)	2.8	3.1	92.1	1.9
ストーカー行為	伊勢崎市(今回)(N=661)	0.5	1.2	94.3	4.1
	伊勢崎市(前回)(N=794)	1.9	1.5	89.7	6.9
	群馬県(N=1772)	1.2	2.2	96.6	

国については、令和2年度実施の「男女間における暴力に関する調査」の結果による

「何度もある」と「1・2度ある」の合計

回答割合（％）



伊勢崎市前回・群馬県と比較すると、概ね近い傾向となっています。

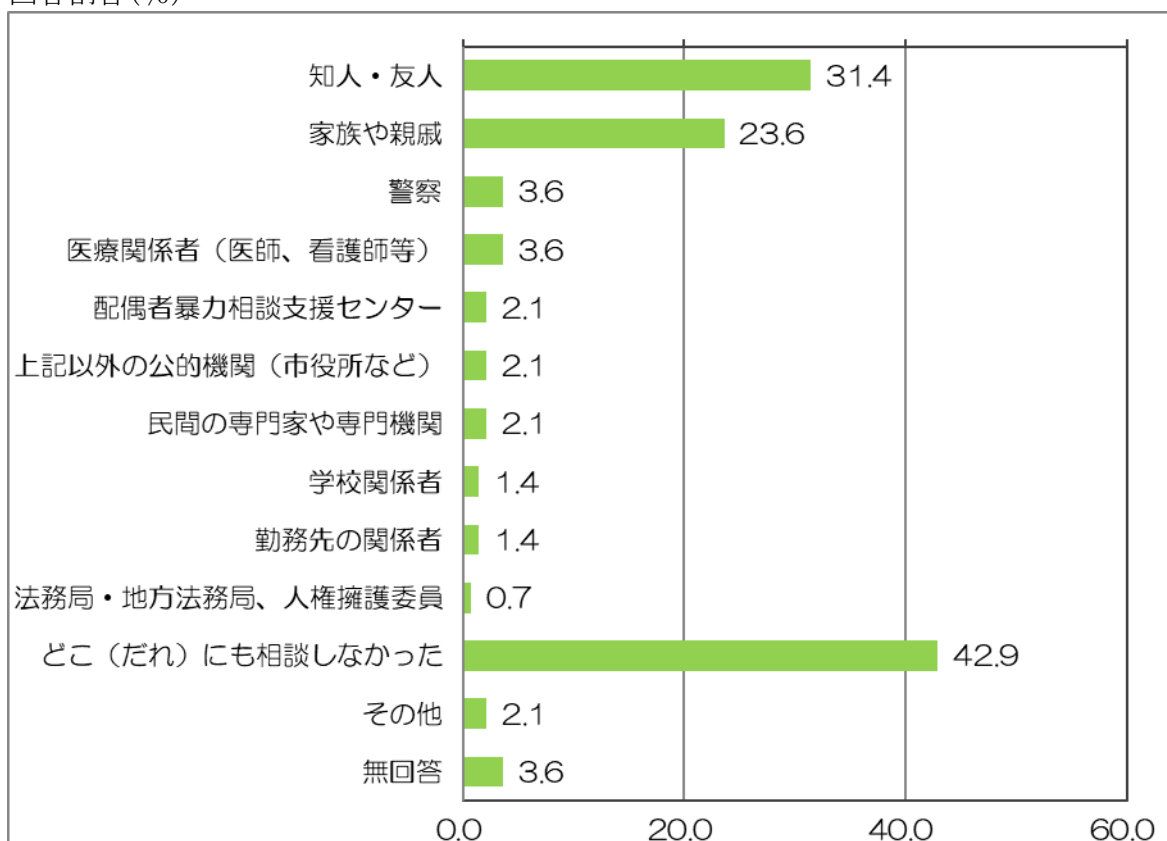
国と比較すると、身体的暴力について「1・2度ある」と回答した人の割合が、伊勢崎市の方が7.5ポイント低くなっています。

問16 次のような機関や人に相談したことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

※問15で①～⑤のうち1つでも「1・2度ある」または「何度もある」と答えた方への設問

	回答数(人)	回答割合(%) N=140
知人・友人	44	31.4
家族や親戚	33	23.6
警察	5	3.6
医療関係者(医師、看護師等)	5	3.6
配偶者暴力相談支援センター	3	2.1
上記以外の公的機関(市役所など)	3	2.1
民間の専門家や専門機関	3	2.1
学校関係者	2	1.4
勤務先の関係者	2	1.4
法務局・地方法務局、人権擁護委員	1	0.7
どこ(だれ)にも相談しなかった	60	42.9
その他	3	2.1
無回答	5	3.6

回答割合(%)



1度でも暴力を「したこと」「されたこと」があると回答した人にたずねたところ、約4割が「どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答しています。

相談した先で多いのは「知人・友人」で、31.4%、次いで「家族や親戚」で、23.6%でした。

「その他」として、「自己解決」、「時間が解決」といった記載がありました。

DVについて相談した先（問16） 性別比較

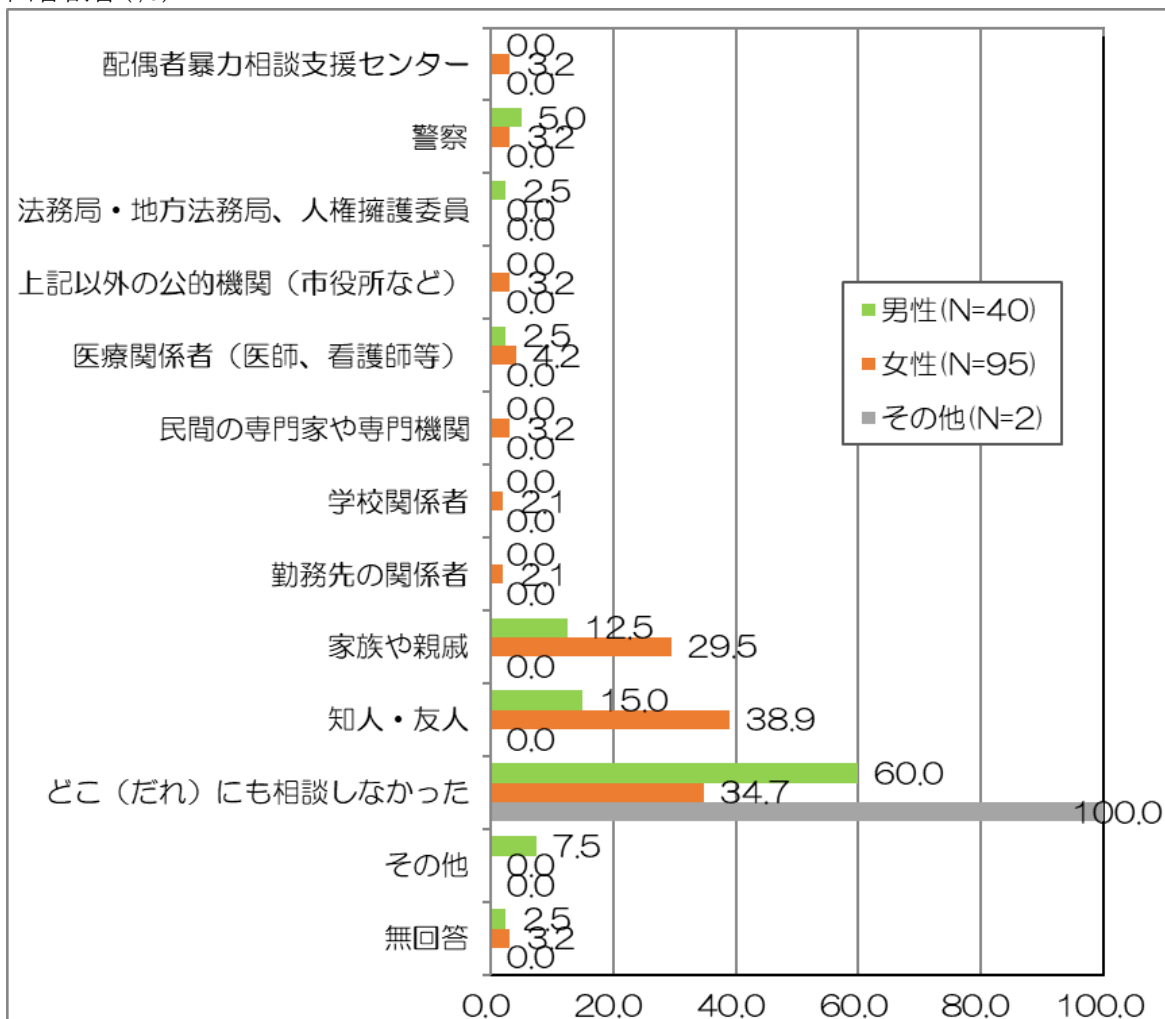
回答数(人)

	配偶者暴力相談支援センター	警察	法務局・地方法務局、人権擁護委員	上記以外の公的機関(市役所など)	医療関係者(医師、看護師等)	民間の専門家や専門機関	学校関係者	勤務先の関係者	家族や親戚	知人・友人	どこ(だれ)にも相談しなかった	その他	無回答
男性(N=40)	0	2	1	0	1	0	0	0	5	6	24	3	1
女性(N=95)	3	3	0	3	4	3	2	2	28	37	33	0	3
その他(N=2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
無回答(N=3)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1
計(N=140)	3	5	1	3	5	3	2	2	33	44	60	3	5

回答割合(%)

	配偶者暴力相談支援センター	警察	法務局・地方法務局、人権擁護委員	上記以外の公的機関(市役所など)	医療関係者(医師、看護師等)	民間の専門家や専門機関	学校関係者	勤務先の関係者	家族や親戚	知人・友人	どこ(だれ)にも相談しなかった	その他	無回答
男性(N=40)	0.0	5.0	2.5	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0	12.5	15.0	60.0	7.5	2.5
女性(N=95)	3.2	3.2	0.0	3.2	4.2	3.2	2.1	2.1	29.5	38.9	34.7	0.0	3.2
その他(N=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
無回答(N=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3
計(N=140)	2.1	3.6	0.7	2.1	3.6	2.1	1.4	1.4	23.6	31.4	42.9	2.1	3.6

回答割合(%)



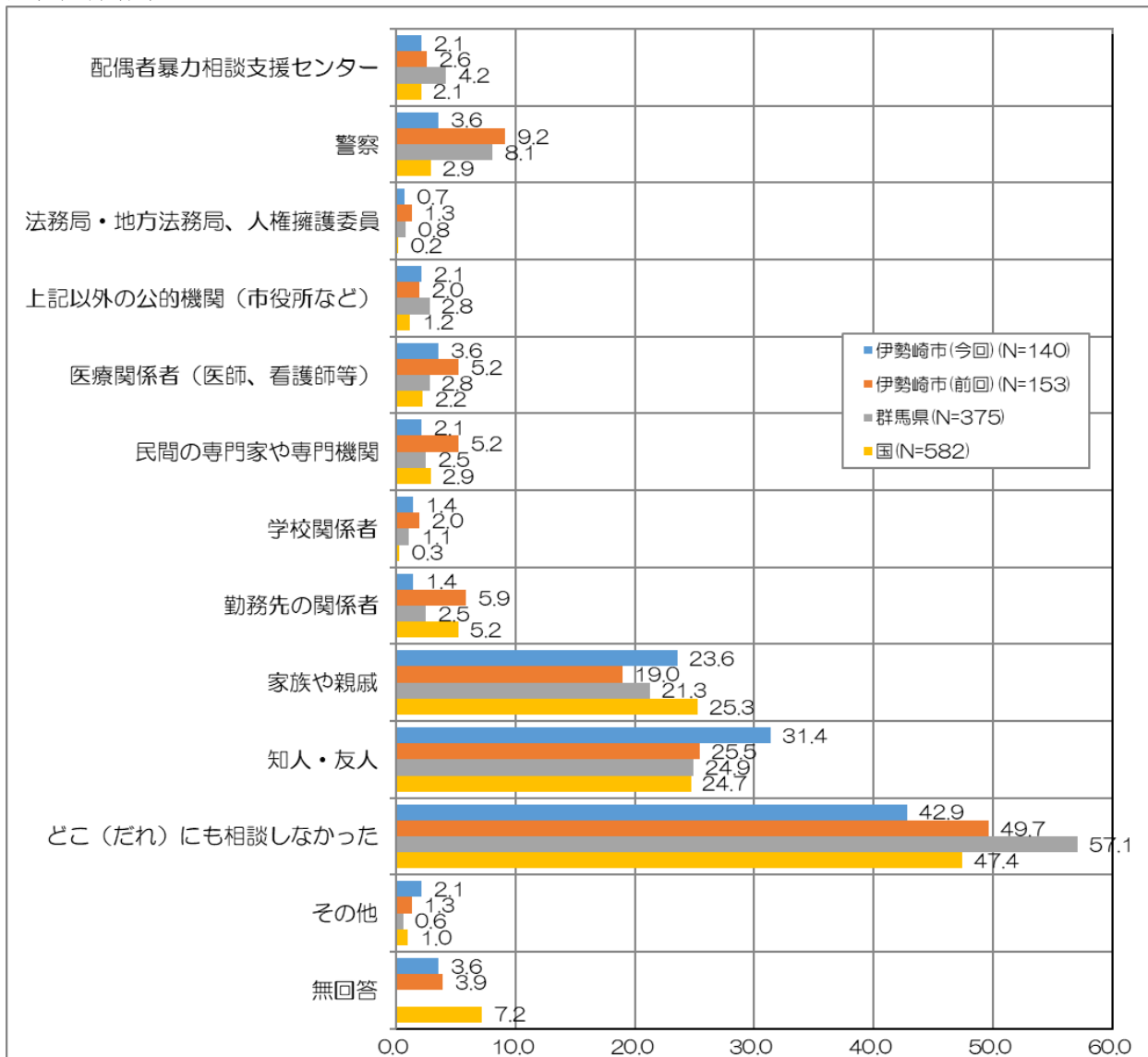
性別で比較をすると、男性の方が「どこ(だれ)にも相談しなかった」との回答が大幅に高く、「家族や親戚」、「知人・友人」は女性の方が高い傾向が見られます。

◇他調査との比較—DVについて相談した先（問16）—◇

回答割合(%)

	配偶者暴力相談支援センター	警察	法務局・地方法務局、人権擁護委員	上記以外の公的機関（市役所など）	医療関係者（医師、看護師等）	民間の専門家や専門機関	学校関係者	勤務先の関係者	家族や親戚	知人・友人	どこ（だれ）にも相談しなかった	その他	無回答
伊勢崎市(今回)(N=140)	2.1	3.6	0.7	2.1	3.6	2.1	1.4	1.4	23.6	31.4	42.9	2.1	3.6
伊勢崎市(前回)(N=153)	2.6	9.2	1.3	2.0	5.2	5.2	2.0	5.9	19.0	25.5	49.7	1.3	3.9
群馬県(N=375)	4.2	8.1	0.8	2.8	2.8	2.5	1.1	2.5	21.3	24.9	57.1	0.6	
国(N=582)	2.1	2.9	0.2	1.2	2.2	2.9	0.3	5.2	25.3	24.7	47.4	1.0	7.2

回答割合(%)



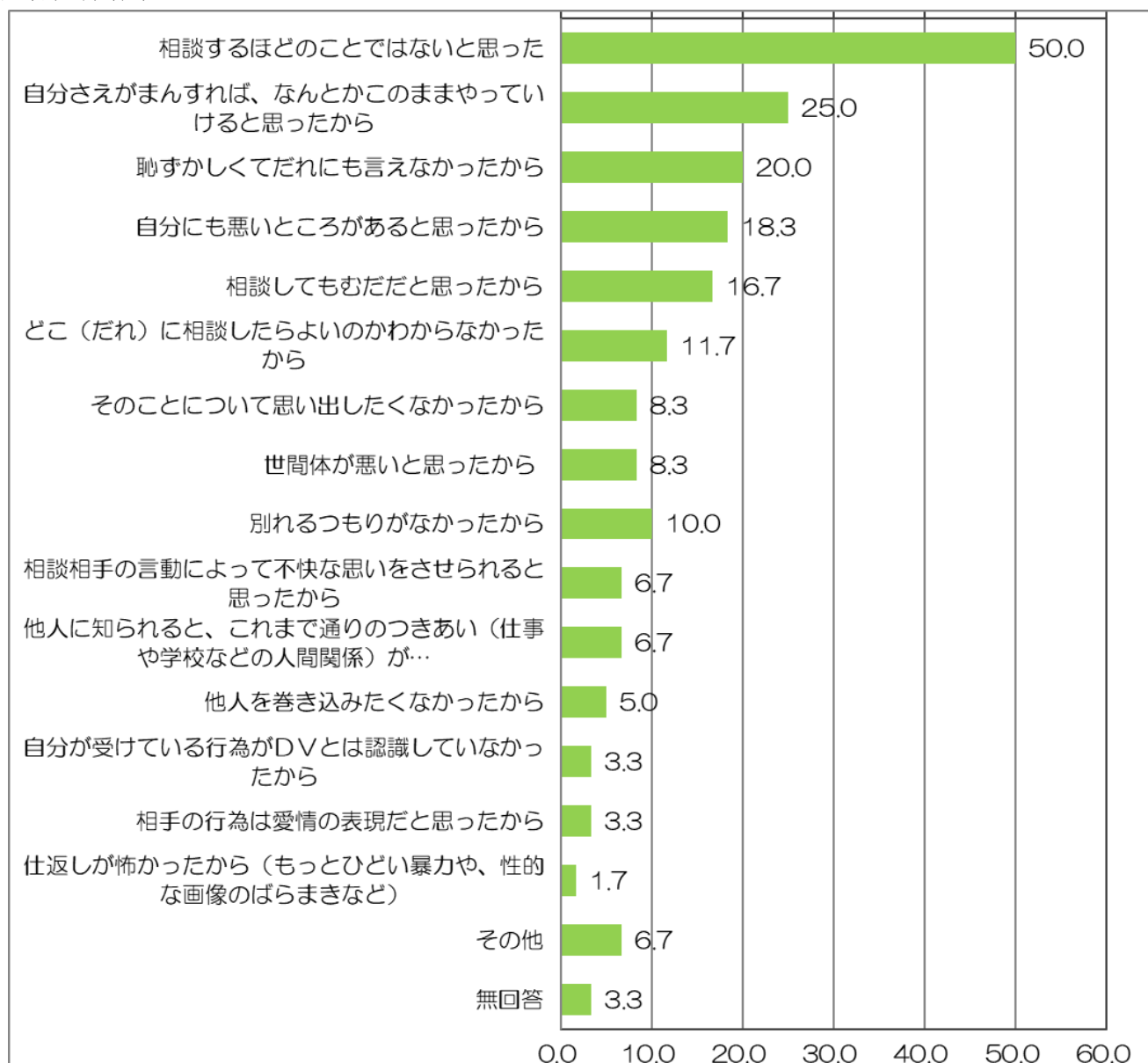
伊勢崎市(今回)が、他調査と比較して高かったのは、「知人・友人」でした。
一方で、他調査と比較して低かったのは「どこ(だれ)にも相談しなかった」でした。

問17 相談しなかった・できなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

※問 16で「どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えた方への設問

	回答数(人)	回答割合 (%) N=60
相談するほどのことではないと思った	30	50.0
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	15	25.0
恥ずかしくてだれにも言えなかったから	12	20.0
自分にも悪いところがあると思ったから	19	18.3
相談してもむだだと思ったから	10	16.7
どこ(だれ)に相談したらよいのかわからなかったから	7	11.7
そのことについて思い出したくなかったから	5	8.3
世間体が悪いと思ったから	7	8.3
別れるつもりがなかったから	6	10.0
相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから	4	6.7
他人に知られると、これまで通りのつきあい(仕事や学校などの人間関係)が できなくなる と思ったから	4	6.7
他人を巻き込みたくなかったから	3	5.0
自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから	2	3.3
相手の行為は愛情の表現だと思ったから	2	3.3
仕返しが怖かったから(もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど)	1	1.7
その他	4	6.7
無回答	2	3.3

回答割合 (%)



DVについて「どこ(だれ)にも相談しなかった」理由について、半数の方が「相談するほどのことではないと思った」と回答しています。

次いで、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が、いずれも2割代の回答となっています。

「その他」の内容では、「全ての行動を監視されていたから」「忙しくて、そこまで手が回らないから」などの記載がありました。

DVについて相談をしなかった・できなかった理由（問17）性別比較

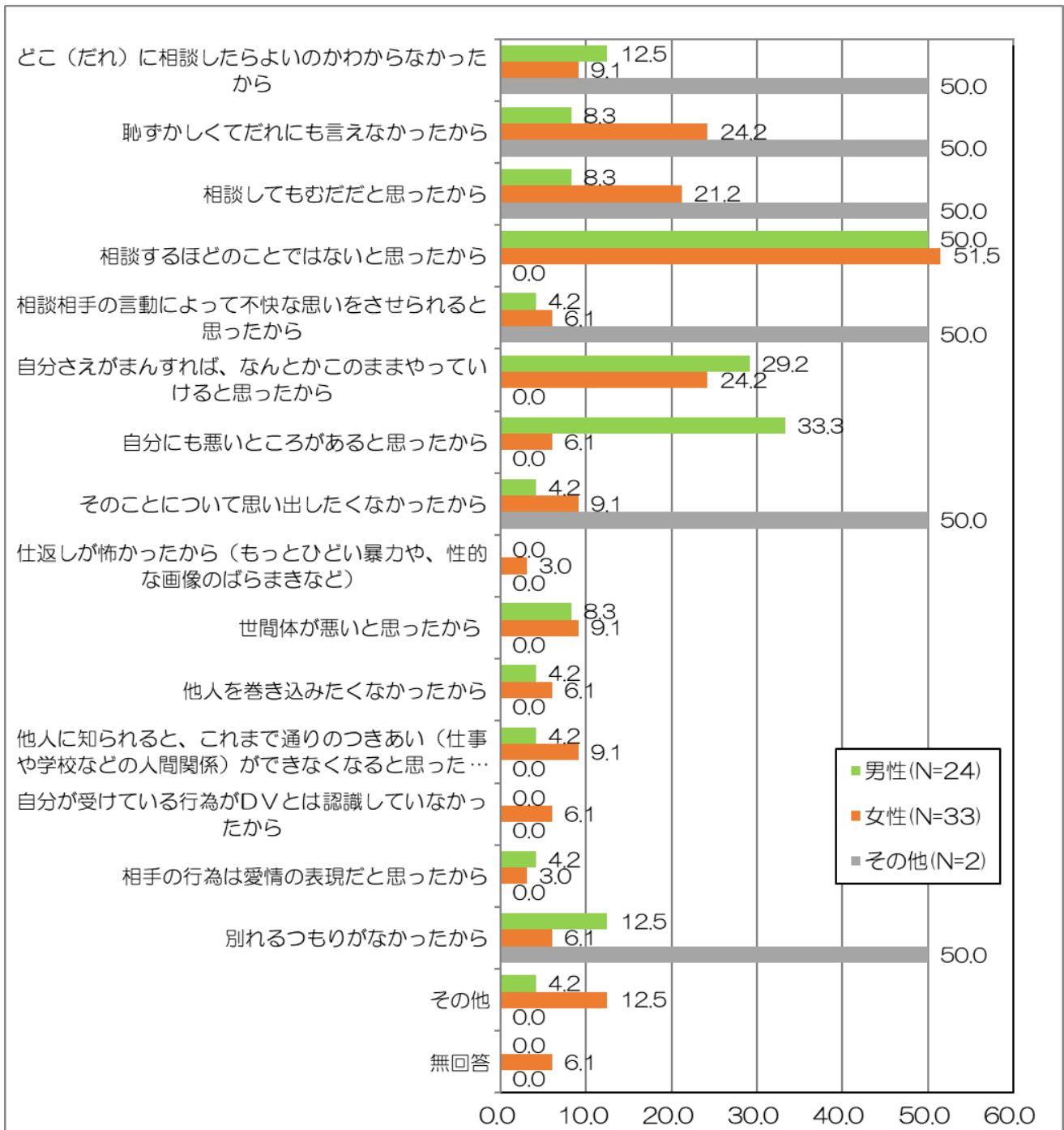
回答数(人)

	どこ(だれ)に相談したらよいかわからなかったから	恥ずかしくてだれにも言えなかったから	相談してもむだだと思ったから	相談することではないと思ったから	相談相手の言動によって不快な思いをさせられたから	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていると思ったから	自分にも悪いところがあると思ったから	そのことについて思い出したくないから	仕返しが怖かったから(もつとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど)	世間体が悪いと思ったから	他人を巻き込みたくなかったから	他人に知られると、これまで通りのつきあい(仕事や学校など)の人間関係ができなくなると思ったから	自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから	相手の行為は愛情の表現だと思ったから	別れるつもりがなかったから	その他	無回答
男性(N=24)	3	2	2	12	1	7	8	1	0	2	1	1	0	1	3	1	0
女性(N=33)	3	8	7	17	2	8	2	3	1	3	2	3	2	1	2	3	2
その他(N=2)	1	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0
無回答(N=1)	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計(N=60)	7	12	10	30	4	15	11	5	1	5	3	4	2	2	6	4	2

回答割合(%)

	どこ(だれ)に相談したらよいかわからなかったから	恥ずかしくてだれにも言えなかったから	相談してもむだだと思ったから	相談することではないと思ったから	相談相手の言動によって不快な思いをさせられたから	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていると思ったから	自分にも悪いところがあると思ったから	そのことについて思い出したくないから	仕返しが怖かったから(もつとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど)	世間体が悪いと思ったから	他人を巻き込みたくなかったから	他人に知られると、これまで通りのつきあい(仕事や学校など)の人間関係ができなくなると思ったから	自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから	相手の行為は愛情の表現だと思ったから	別れるつもりがなかったから	その他	無回答
男性(N=24)	12.5	8.3	8.3	50.0	4.2	29.2	33.3	4.2	0.0	8.3	4.2	4.2	0.0	4.2	12.5	4.2	0.0
女性(N=33)	9.1	24.2	21.2	51.5	6.1	24.2	6.1	9.1	3.0	9.1	6.1	9.1	6.1	3.0	6.1	12.5	6.1
その他(N=2)	50.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
無回答(N=1)	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計(N=60)	11.7	20.0	16.7	50.0	6.7	25.0	18.3	8.3	1.7	8.3	5.0	6.7	3.3	3.3	10.0	6.7	3.3

回答割合(%)



DVについて「どこ(だれ)にも相談しなかった・できなかった」理由について、性別で比較をすると、「自分にも悪いところがあると思ったから」の項目で、男性の方が27.2%と大幅に高く、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」は女性の方が15.9ポイント高くなっています。

◇他調査との比較—DVについて相談しなかった・できなかった理由（問17）—◇

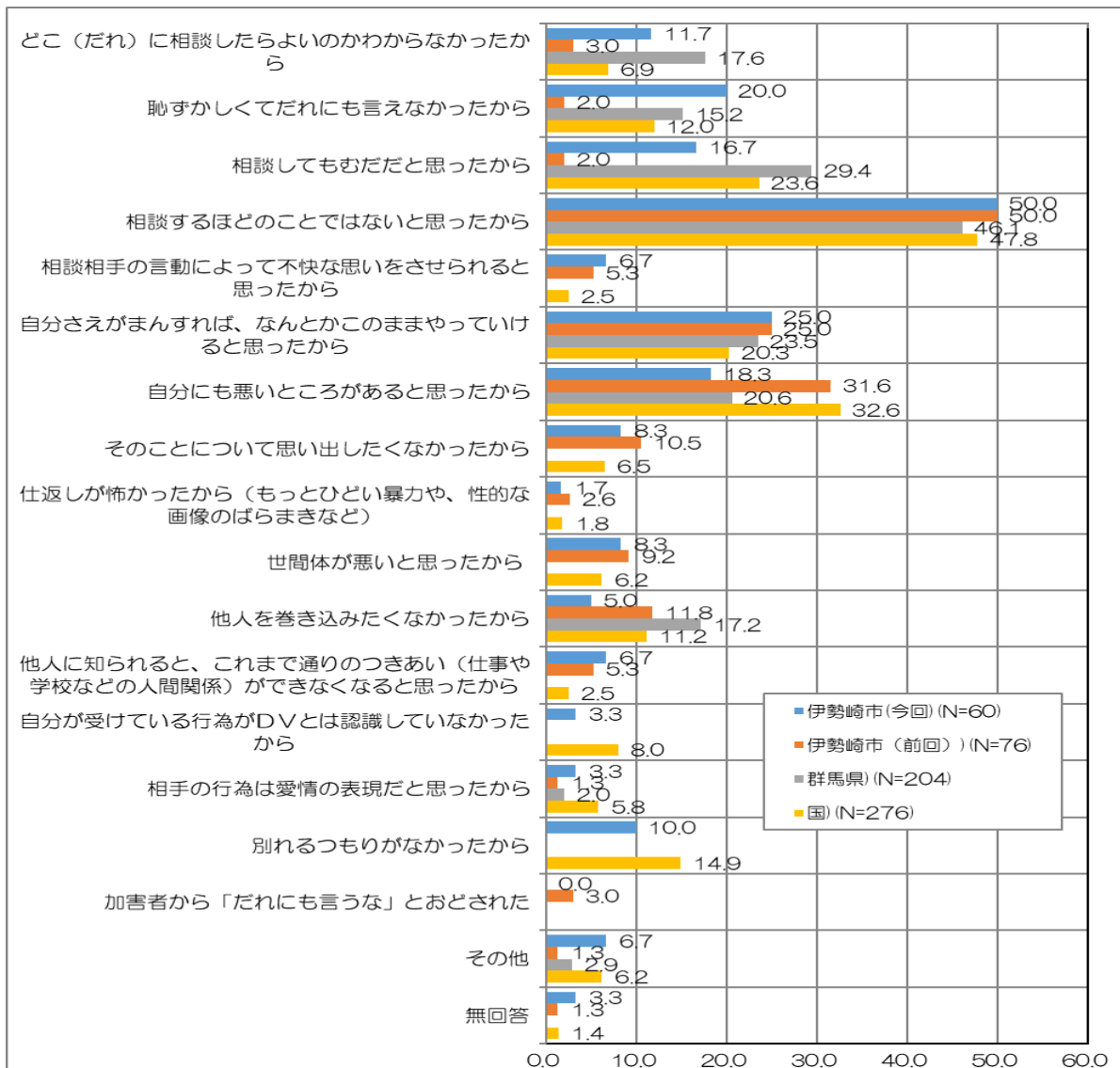
回答割合（％）

	どこ(だれ)に相談したらよいかわからなかったから	恥ずかしくてだれにも言えなかったから	相談してもむだと思ったから	相談するほどのことではないと思ったから	相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	自分にも悪いところがあると思ったから	そのことについて思い出したくなかったから	仕返しが怖かったから(もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど)	世間体が悪いと思ったから	他人を巻き込みたくなかったから	他人に知られると、これまで通りのつきあい(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思ったから	自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから	相手の行為は愛情の表現だと思ったから	別れるつもりがなかったから	加害者から「だれにも言うな」とおどされた	その他	無回答
伊勢崎市(今回)(N=60)	11.7	20.0	16.7	50.0	6.7	25.0	18.3	8.3	1.7	8.3	5.0	6.7	3.3	3.3	10.0		6.7	3.3
伊勢崎市(前回)(N=76)	3.0	2.0	2.0	50.0	5.3	25.0	31.6	10.5	2.6	9.2	11.8	5.3				3.0	1.3	1.3
群馬県(N=204)	17.6	15.2	29.4	46.1		23.5	20.6				17.2			2.0			2.9	
国(N=276)	6.9	12.0	23.6	47.8	2.5	20.3	32.6	6.5	1.8	6.2	11.2	2.5	8.0	5.8	14.9		6.2	1.4

※国については、令和2年度実施の「男女間における暴力に関する調査」の結果による。

※伊勢崎市(前回)、国、県の調査は選択肢が同一ではありません。

回答割合（％）

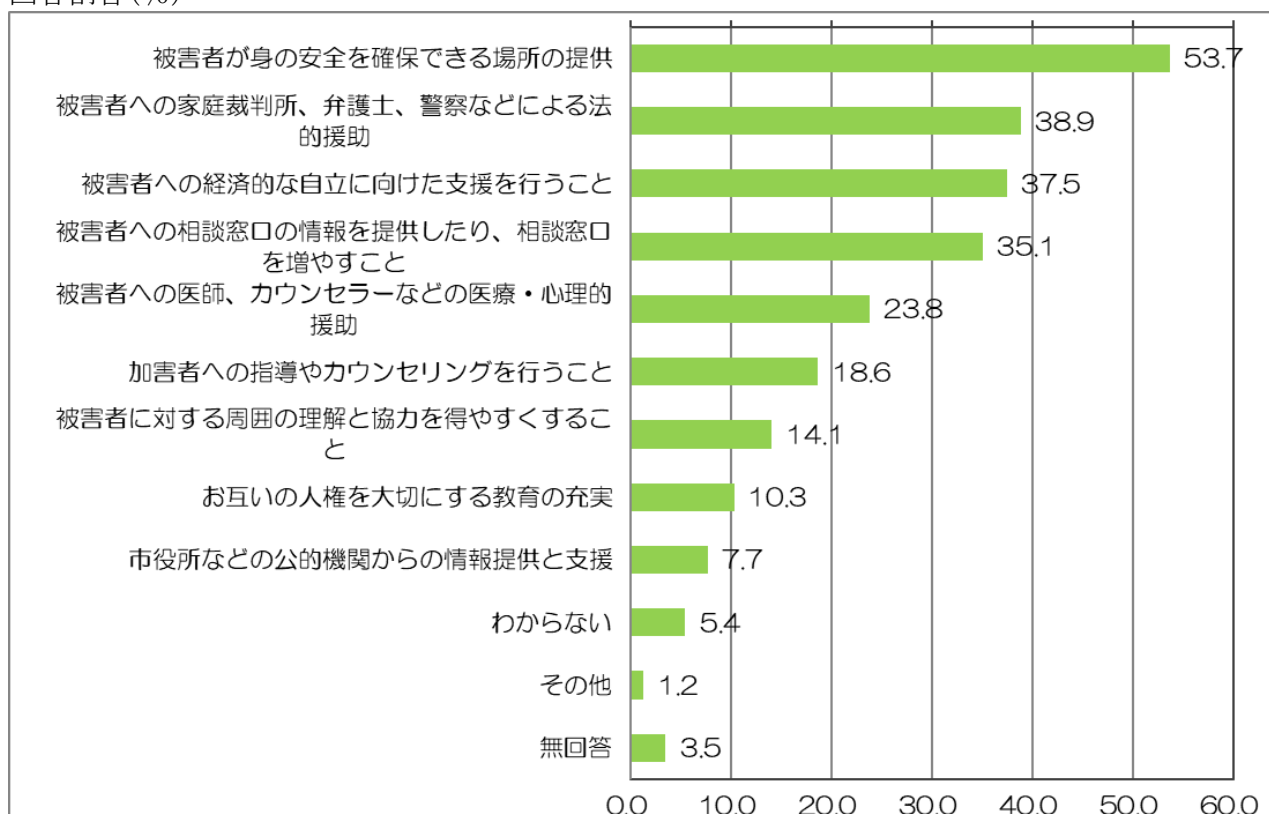


伊勢崎市(今回)が、他調査と比較して高かったのは、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」でした。一方で、他調査と比較して低かったのは、「自分にも悪いところがあると思ったから」、「他人を巻き込みたくなかったから」でした。

問18 DV(ドメスティック・バイオレンス)被害者支援の取り組みとして、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

	回答数(人)	回答割合 (%) N=661
被害者が身の安全を確保できる場所の提供	355	53.7
被害者への家庭裁判所、弁護士、警察などによる法的援助	257	38.9
被害者への経済的な自立に向けた支援を行うこと	248	37.5
被害者への相談窓口の情報を提供したり、相談窓口を増やすこと	232	35.1
被害者への医師、カウンセラーなどの医療・心理的援助	157	23.8
加害者への指導やカウンセリングを行うこと	123	18.6
被害者に対する周囲の理解と協力を得やすくすること	93	14.1
お互いの人権を大切にす教育の充実	68	10.3
市役所などの公的機関からの情報提供と支援	51	7.7
わからない	36	5.4
その他	8	1.2
無回答	23	3.5

回答割合(%)



DV被害者支援に必要なと思うこととして、「被害者が身の安全を確保できる場所の提供」が、約半数で最も高く、次いで「被害者への家庭裁判所、弁護士、警察などによる法的援助」、「被害者の経済的な自立に向けた支援を行うこと」、「被害者への相談窓口の情報を提供したり、相談窓口を増やすこと」が、それぞれ3割を超えています。

「その他」として、「加害者に対して強制的かつ物理的な手段を執行できる権限を、警察なり行政が持つこと」、「被害者が身の安全の確保できる場所ではなく、加害者の行動を制限してほしい」、「DVであると気づくようにさせること(特に障害者)」などの記載がありました。

DV被害者支援に必要なこと（問18） 性別比較

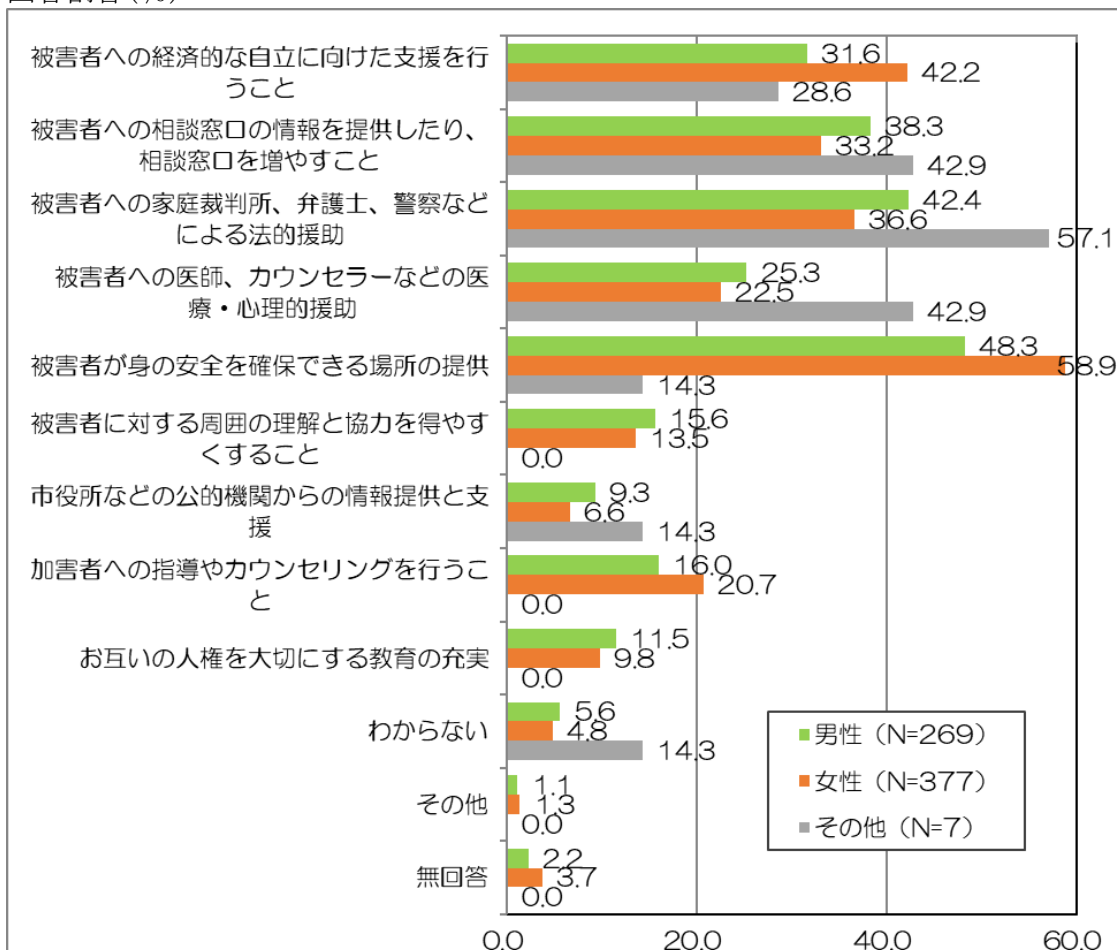
回答数(人)

	被害者への経済的な自立に向けた支援を行うこと	被害者への相談窓口の情報を提供したり、相談窓口を増やすこと	被害者への家庭裁判所、弁護士、警察などによる法的援助	被害者への医師、カウンセラーなどの医療・心理的援助	被害者が身の安全を確保できる場所の提供	被害者に対する周囲の理解と協力を得やすくすること	市役所などの公的機関からの情報提供と支援	加害者への指導やカウンセリングを行うこと	お互いの人権を大切にする教育の充実	わからない	その他	無回答
男性(N=269)	85	103	114	68	130	42	25	43	31	15	3	6
女性(N=377)	159	125	138	85	222	51	25	78	37	18	5	14
その他(N=7)	2	3	4	3	1	0	1	0	0	1	0	0
無回答(N=8)	2	1	1	1	2	0	0	2	0	2	0	3
計(N=661)	248	232	257	157	355	93	51	123	68	36	8	23

回答割合(%)

	被害者への経済的な自立に向けた支援を行うこと	被害者への相談窓口の情報を提供したり、相談窓口を増やすこと	被害者への家庭裁判所、弁護士、警察などによる法的援助	被害者への医師、カウンセラーなどの医療・心理的援助	被害者が身の安全を確保できる場所の提供	被害者に対する周囲の理解と協力を得やすくすること	市役所などの公的機関からの情報提供と支援	加害者への指導やカウンセリングを行うこと	お互いの人権を大切にする教育の充実	わからない	その他	無回答
男性(N=269)	31.6	38.3	42.4	25.3	48.3	15.6	9.3	16.0	11.5	5.6	1.1	2.2
女性(N=377)	42.2	33.2	36.6	22.5	58.9	13.5	6.6	20.7	9.8	4.8	1.3	3.7
その他(N=7)	28.6	42.9	57.1	42.9	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0
無回答(N=8)	25.0	12.5	12.5	12.5	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	37.5
計(N=661)	37.5	35.1	38.9	23.8	53.7	14.1	7.7	18.6	10.3	5.4	1.2	3.5

回答割合(%)



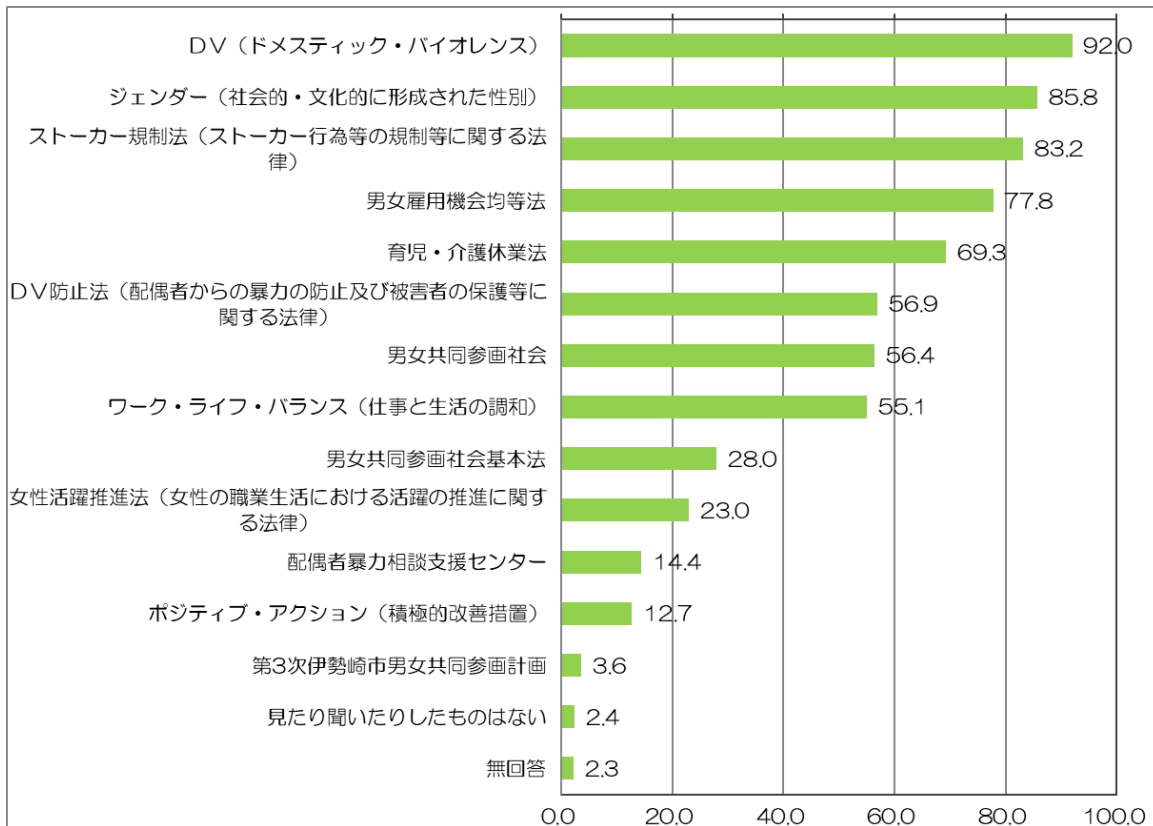
性別で比較すると、「被害者への経済的な自立に向けた支援を行うこと」、「被害者が身の安全を確保できる場所の提供」は、いずれも女性の方が10ポイント以上高く、一方、「被害者への家庭裁判所、弁護士、警察などによる法的援助」、「被害者への相談窓口の情報を提供したり、相談窓口を増やすこと」は、いずれも男性の方が5ポイント以上高くなっています。

8 男女共同参画社会について

問19 次の言葉や制度のうち、見聞きしたことがあるものはありますか。
(〇は知っているものすべて)

	回答数(人)	回答割合 (%) N=661
DV(ドメスティック・バイオレンス)	608	92.0
ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)	567	85.8
ストーカー規制法(ストーカー行為等の規制等に関する法律)	550	83.2
男女雇用機会均等法	514	77.8
育児・介護休業法	458	69.3
DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律)	376	56.9
男女共同参画社会	373	56.4
ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	364	55.1
男女共同参画社会基本法	185	28.0
女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)	152	23.0
配偶者暴力相談支援センター	95	14.4
ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	84	12.7
第3次伊勢崎市男女共同参画計画	24	3.6
見たり聞いたりしたものはない	16	2.4
無回答	15	2.3

回答割合(%)



言葉や制度で知っているものについて、「DV(ドメスティック・バイオレンス)」は、9割以上でした。いずれも「見たり聞いたりしたものはない」との回答は、2.4%でした。

言葉や制度を知っているか（問19） 性別比較

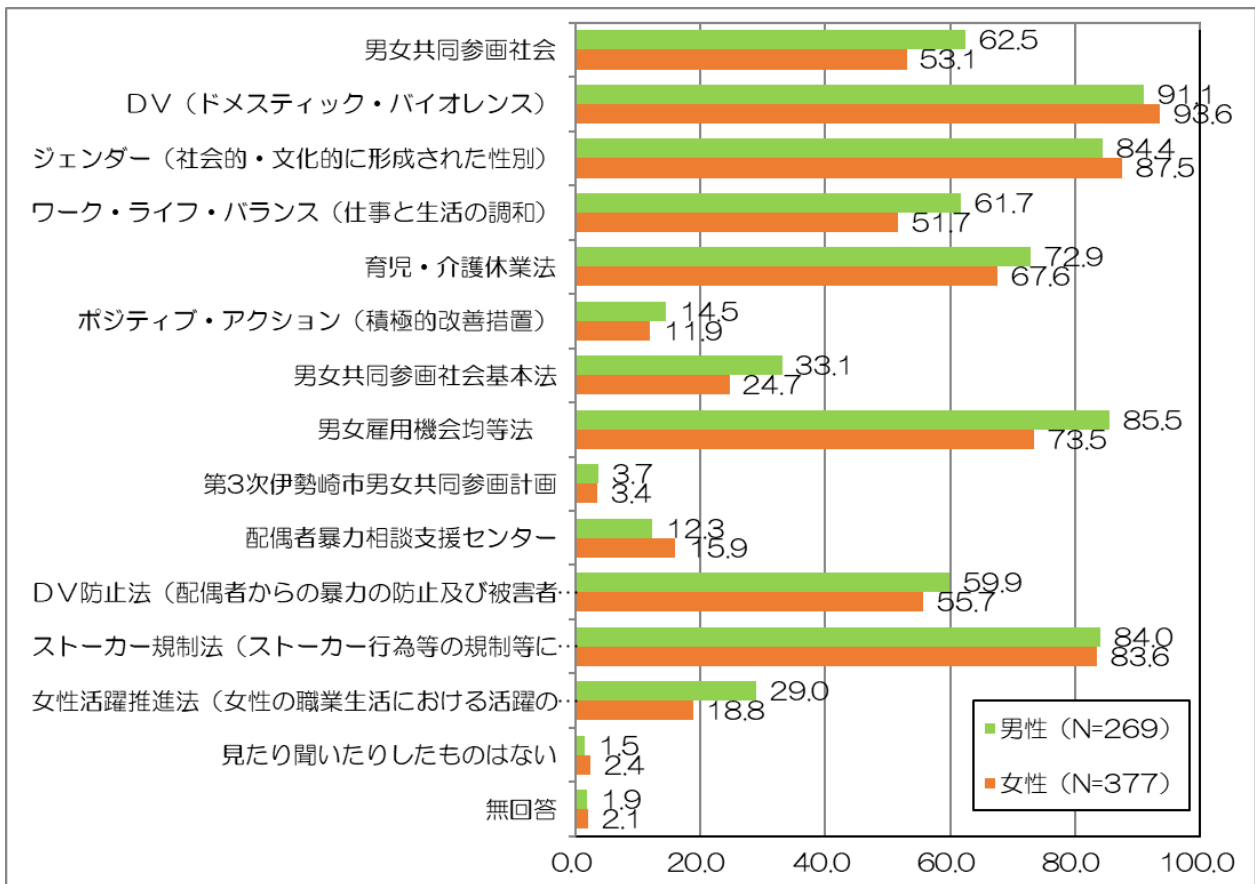
回答数(人)

	男女共同参画社会	DV(ドメスティック・バイオレンス)	ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)	ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	育児・介護休業法	ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	男女共同参画社会基本法	男女雇用機会均等法	第3次伊勢崎市男女共同参画計画	配偶者暴力相談支援センター	DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律)	ストーカー規制法(ストーカー行為等の規制等に関する法律)	女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)	見たり聞いたりしたものはない	無回答
男性(N=269)	168	245	227	166	196	39	89	230	10	33	161	226	78	4	5
女性(N=377)	200	353	330	195	255	45	93	277	13	60	210	315	71	9	8
その他(N=7)	2	5	5	2	4	0	2	3	1	1	3	4	2	2	0
無回答(N=8)	3	5	5	1	3	0	1	4	0	1	2	5	1	1	2
計(N=661)	373	608	567	364	458	84	185	514	24	95	376	550	152	16	15

回答割合(%)

	男女共同参画社会	DV(ドメスティック・バイオレンス)	ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)	ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	育児・介護休業法	ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	男女共同参画社会基本法	男女雇用機会均等法	第3次伊勢崎市男女共同参画計画	配偶者暴力相談支援センター	DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律)	ストーカー規制法(ストーカー行為等の規制等に関する法律)	女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)	見たり聞いたりしたものはない	無回答
男性(N=269)	62.5	91.1	84.4	61.7	72.9	14.5	33.1	85.5	3.7	12.3	59.9	84.0	29.0	1.5	1.9
女性(N=377)	53.1	93.6	87.5	51.7	67.6	11.9	24.7	73.5	3.4	15.9	55.7	83.6	18.8	2.4	2.1
その他(N=7)	28.6	71.4	71.4	28.6	57.1	0.0	28.6	42.9	14.3	14.3	42.9	57.1	28.6	28.6	0.0
無回答(N=8)	37.5	62.5	62.5	12.5	37.5	0.0	12.5	50.0	0.0	12.5	25.0	62.5	12.5	12.5	25.0
計(N=661)	56.4	92.0	85.8	55.1	69.3	12.7	28.0	77.8	3.6	14.4	56.9	83.2	23.0	2.4	2.3

回答割合(%)



性別で比較すると、「男女共同参画社会」、「ワークライフバランス(仕事と生活の調和)」、「男女共同参画社会基本法」、「男女雇用機会均等法」、「女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)」が男性の方がいずれも10ポイント以上高くなっています。

◇他調査との比較—言葉や制度を知っているか（問19）—◇

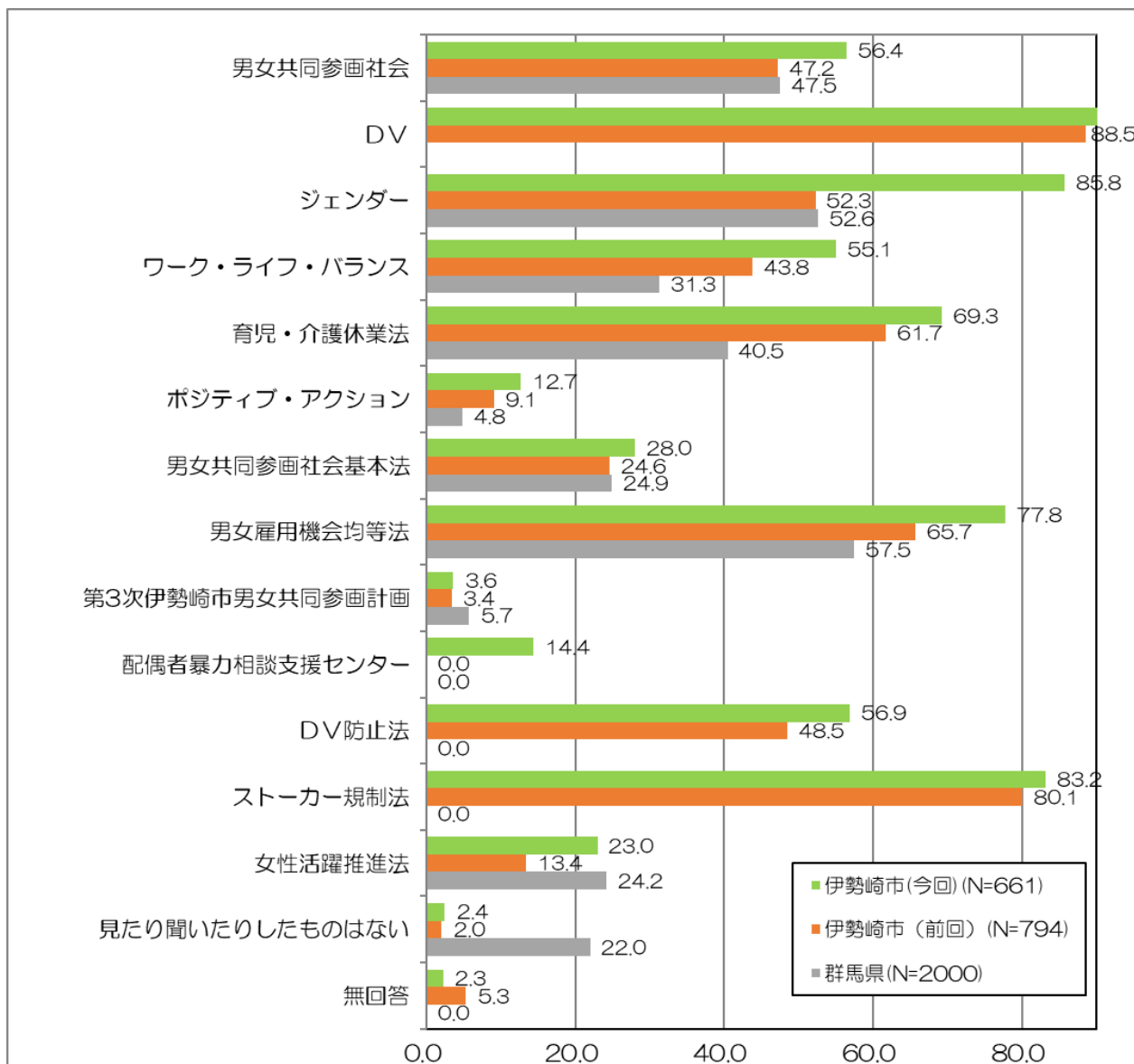
回答割合（％）

	男女共同参画社会	DV	ジェンダー	ワーク・ライフ・バランス	育児・介護休業法	ポジティブ・アクション	男女共同参画社会基本法	男女雇用機会均等法	第3次伊勢崎市男女共同参画計画	配偶者暴力相談支援センター	DV防止法	ストーカー規制法	女性活躍推進法	見たり聞いたりしたものはない	無回答
伊勢崎市(今回)(N=661)	56.4	92.0	85.8	55.1	69.3	12.7	28.0	77.8	3.6	14.4	56.9	83.2	23.0	2.4	2.3
伊勢崎市(前回)(N=794)	47.2	88.5	52.3	43.8	61.7	9.1	24.6	65.7	3.4		48.5	80.1	13.4	2.0	5.3
群馬県(N=2000)	47.5		52.6	31.3	40.5	4.8	24.9	57.5	5.7				24.2	22.0	

※伊勢崎市(前回)、県の調査は選択肢が同一ではありません。

いずれも選択肢が異なる※「第3次伊勢崎市男女共同参画計画」は、前回調査では「第2次伊勢崎市男女共同参画計画」、群馬県では「群馬県男女共同参画基本計画」

回答割合(%)



前回調査と比較して、全項目でいずれも認知度が高まっています。中でも、「ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)」は、33.5ポイントと大幅に増加しています。

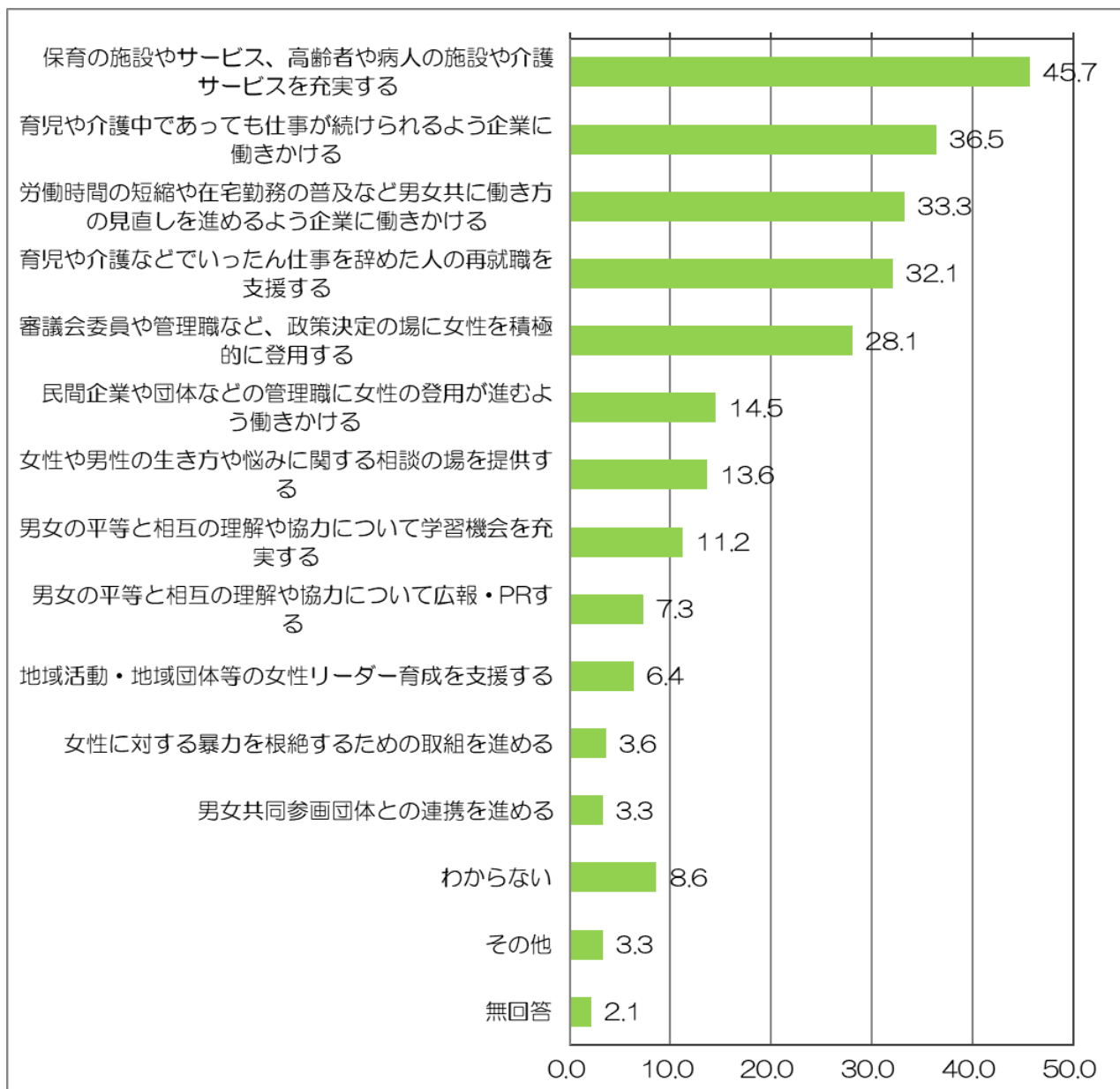
県と比較すると、「ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)」、「育児・介護休業法」の認知度がいずれも高くなっています。

問20 男女共同参画社会を実現するために、特にどのようなことが重要だと思いますか。

(○は3つまで)

	回答数(人)	回答割合 (%) N=661
保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する	302	45.7
育児や介護中であっても仕事が続けられるよう企業に働きかける	241	36.5
労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進めるよう企業に働きかける	220	33.3
育児や介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	212	32.1
審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する	186	28.1
民間企業や団体などの管理職に女性の登用が進むよう働きかける	96	14.5
女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する	90	13.6
男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する	74	11.2
男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする	48	7.3
地域活動・地域団体等の女性リーダー育成を支援する	42	6.4
女性に対する暴力を根絶するための取組を進める	24	3.6
男女共同参画団体との連携を進める	22	3.3
わからない	57	8.6
その他	22	3.3
無回答	14	2.1

回答割合(%)



男女共同参画社会実現のために特に重要と思うことについて、最も多かったのは「保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」で、45.7%でした。次いで、「育児や介護中であっても仕事が続けられるよう企業に働きかける」、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進めるよう企業に働きかける」、「育児や介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」がともに30%を超えています。

「その他」として、「男性女性を問わず、能力のある人の登用。また、登用される仕組み作り。」、「男女問わず一人一人の意識の改革」、「性別による区別は必要な所もあると思う」などの記載がありました。

男女共同参画社会実現のために特に重要と思うこと（問20） 性別比較

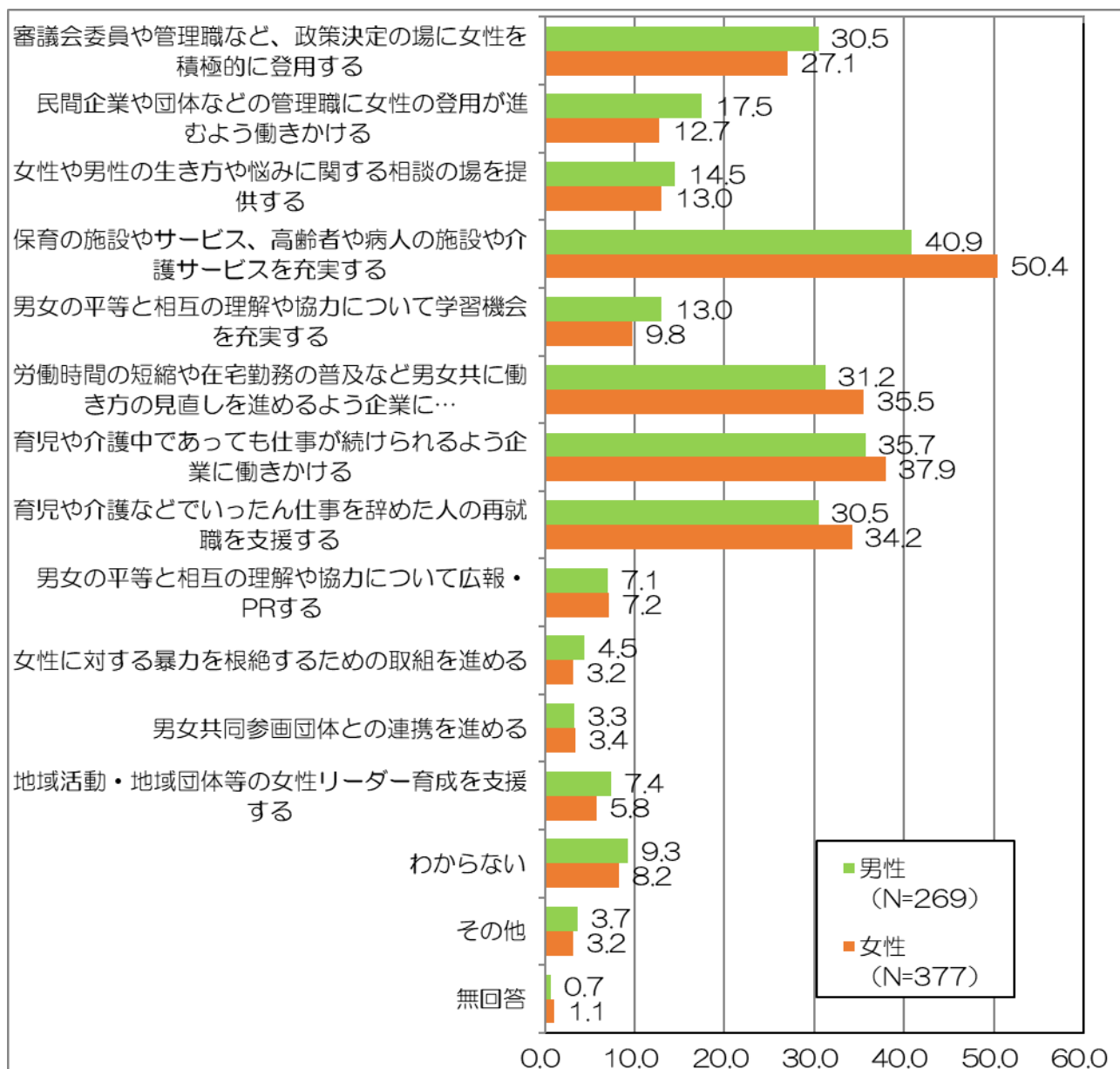
回答数(人)

	審議会や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する	民間企業や団体などの管理職に女性の登用が進むよう働きかける	女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する	保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する	男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進めるよう企業に働きかける	育児や介護中であっても仕事が続けられるよう企業に働きかける	育児や介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする	女性に対する暴力を根絶するための取組を進める	男女共同参画団体との連携を進める	地域活動・地域団体等の女性リーダー育成を支援する	わからない	その他	無回答
男性(N=269)	82	47	39	110	35	84	96	82	19	12	9	20	25	10	2
女性(N=377)	102	48	49	190	37	134	143	129	27	12	13	22	31	12	4
その他(N=7)	2	1	2	1	2	2	1	1	2	0	0	0	1	0	1
無回答(N=8)	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	7
計(N=661)	186	96	90	302	74	220	241	212	48	24	22	42	57	22	14

回答割合(%)

	審議会や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する	民間企業や団体などの管理職に女性の登用が進むよう働きかける	女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する	保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する	男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進めるよう企業に働きかける	育児や介護中であっても仕事が続けられるよう企業に働きかける	育児や介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする	女性に対する暴力を根絶するための取組を進める	男女共同参画団体との連携を進める	地域活動・地域団体等の女性リーダー育成を支援する	わからない	その他	無回答
男性(N=269)	30.5	17.5	14.5	40.9	13.0	31.2	35.7	30.5	7.1	4.5	3.3	7.4	9.3	3.7	0.7
女性(N=377)	27.1	12.7	13.0	50.4	9.8	35.5	37.9	34.2	7.2	3.2	3.4	5.8	8.2	3.2	1.1
その他(N=7)	28.6	14.3	28.6	14.3	28.6	28.6	14.3	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3
無回答(N=8)	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	87.5
計(N=661)	28.1	14.5	13.6	45.7	11.2	33.3	36.5	32.1	7.3	3.6	3.3	6.4	8.6	3.3	2.1

回答割合(%)



性別で比較すると、「保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」で、女性の方が9.5ポイント高くなっています。

III 資料（調査票）

男女共同参画に関する市民意識調査へのご協力をお願い

日頃より市政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

伊勢崎市では、令和2年3月に「第3次伊勢崎市男女共同参画計画」を策定し、男女共同参画社会の実現に向けて各種施策を計画的に推進しています。

本調査は、令和6年度に予定している「第4次伊勢崎市男女共同参画計画」の策定のための基礎資料とするものです。

調査に当たり、住民基本台帳の中から18歳以上の方2,000人を無作為に選ばせていただいたところ、あなた様に回答をお願いすることになりました。

お忙しい中恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただけますよう、お願いいたします。

令和5年8月

伊勢崎市長 臂 泰 雄

◆ご回答にあたって

- お送りしたあて名のご本人がお答えください。（代筆・代理入力は差し支えありません）
- 回答は、あてはまる回答の番号に○印を付けてください。回答数は、（ ）内に表示してある指定の数でお願いします。「その他」につけた場合には（ ）内に具体的に記入してください。
- ご回答いただいた内容は、個人が特定できないように、全て統計的に処理いたします。
- ご回答は「郵送」または「インターネット」どちらか一方でお願いします。

【郵送で回答する場合】

ご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒に入れて、**9月22日（金）**までに郵便ポストに投函してください（切手は不要です）。

【インターネットで回答する場合】

下記QRコードまたはURLから回答ページにアクセスの上、**9月22日（金）**までに入力してください。（調査票の郵送は不要です）

〔回答フォームURL〕

URL:<https://logofom.jp/form/Gpfu/294530>



【回答フォーム】

◆問い合わせ先◆

伊勢崎市役所 市民部人権課男女共同参画係 電話：0270-27-2730（直通）

e-mail：jinken@city.isesaki.lg.jp

男女平等の現状について

問1：あなたは、次の分野で、男女の地位が平等になっていると思いますか。
(それぞれ1つに○)

	優遇されている 男性の方が	優遇されている 男性の方が どちらかといえば	平等になっている	優遇されている 女性の方が どちらかといえば	優遇されている 女性の方が	わからない
① 家庭生活	1	2	3	4	5	6
② 職場	1	2	3	4	5	6
③ 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
④ 地域の町内会や自治会など	1	2	3	4	5	6
⑤ 法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
⑥ 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5	6
⑦ 政治の場	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会全体の中	1	2	3	4	5	6

結婚や家庭生活について

問2：結婚や家庭に関する次のような考え方について、どう思いますか。
(それぞれ1つに○)

	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	わからない
① 結婚は個人の自由であるから、してもしなくても良い	1	2	3	4	5
② 結婚してもうまくいかなければ離婚してもかまわない	1	2	3	4	5
③ 結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だ	1	2	3	4	5
④ 結婚したら、子どもは持つべきだ	1	2	3	4	5
⑤ 夫婦の別姓が認められたほうが良い	1	2	3	4	5

問3：「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(1つに○)

1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. どちらかといえば反対
4. 反対
5. わからない

問4-1：問3で「1. 賛成」「2. どちらかといえば賛成」と答えた方に伺います。
賛成と思うのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 日本の伝統的な家族の在り方だと思うから
2. 自分の両親も役割分担をしていたから
3. 夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから
4. 妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから
5. 育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから
6. わからない・この中にはない

問4-2：問3で「4. 反対」「3. どちらかといえば反対」と答えた方に伺います。
反対と思うのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 男女平等に反すると思うから
2. 自分の両親も外で働いていたから
3. 夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られると思うから
4. 妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから
5. 育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから
6. 固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから
7. わからない・この中にはない

問5：あなたは、次のような家庭内の役割を、どのように担うべきだと思いますか。

(それぞれ1つに○)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他
① 食事のしたく	1	2	3	4
② 食事の後片付け	1	2	3	4
③ 掃除	1	2	3	4
④ 洗濯	1	2	3	4
⑤ 買物	1	2	3	4
⑥ 子どもの世話	1	2	3	4
⑦ 学校行事などへの参加	1	2	3	4
⑧ 看護・介護	1	2	3	4
⑨ 地域の町内会や自治会などへの参加	1	2	3	4
⑩ 家計の管理	1	2	3	4
⑪ 主たる収入	1	2	3	4

問6：現在、結婚（事実婚を含む）されている方に伺います。※それ以外の方は問7へ→

あなたの家庭では、次のような役割を主にだれが担っていますか。

(それぞれ1つに○)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	あてはまらない・その他
① 食事のしたく	1	2	3	4
② 食事の後片付け	1	2	3	4
③ 掃除	1	2	3	4
④ 洗濯	1	2	3	4
⑤ 買物	1	2	3	4
⑥ 子どもの世話	1	2	3	4
⑦ 学校行事などへの参加	1	2	3	4
⑧ 看護・介護	1	2	3	4
⑨ 地域の町内会や自治会などへの参加	1	2	3	4
⑩ 家計の管理	1	2	3	4
⑪ 主たる収入	1	2	3	4

問9：現在、勤めている方、(パート・アルバイト等を含む)に伺います。

※それ以外の方は問13へ⇒

あなたの職場では次のようなことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 募集や採用で男女に差がある
2. 賃金や昇給で男女に差がある
3. 昇進や昇格で男女に差がある
4. 職場での研修や研究の機会に男女の差がある
5. 女性が結婚や出産を機に退社する慣習や雰囲気がある
6. 育児または介護休業を取得できない、または取得しにくい
7. ハラスメント(セクハラやパワハラなどの嫌がらせ)の相談窓口が設置されていない
8. 女性は補助的業務や雑務が多い
9. 特に男女で違いはない
10. その他()

問10：現在、勤めている方、(パート・アルバイト等を含む)に伺います。

あなたの職場で、女性の管理職が登用されるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つに○)

1. 経営者や人事担当者の意識改革
2. 今まで男性が担ってきた様々な職種や職域への女性の登用
3. 女性管理職登用の数値目標の設定
4. 育児休業や介護休業などの仕事と家庭を両立するための制度充実
5. 管理職候補としての女性を継続的に育成すること
6. ロールモデルとなる女性管理職の育成
7. 仕事に対する女性自身の意識改革
8. 上司や同僚男性とのコミュニケーション
9. わからない
10. その他()

DV（ドメスティック・バイオレンス）について

問15：あなたは過去5年以内に、恋人や配偶者等のパートナー※から、次のようなことを「されたこと」や「したこと」がありますか。（それぞれ1つに〇）

※「パートナー」には、配偶者、婚姻届を出していない事実婚、別居中の夫婦、元配偶者（離婚・死別した相手、事実婚を解消した相手）を含みます。

		1・2度ある	何度もある	ない
① 身体的な暴力 なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばす、刃物でおどす 等	されたこと	1	2	3
	したこと	1	2	3
② 精神的な暴力・社会的な暴力 人格を否定するような暴言、長時間の無視、どなる、「誰のおかげで生活できるんだ」や「かいしようなし」等の見下した発言、身の危険を感じるような脅迫、交友関係の監視や制限 等	されたこと	1	2	3
	したこと	1	2	3
③ 性的な暴力 相手が嫌がっているのに性的な行為を強要する、避妊に協力しない、中絶の強要 等	されたこと	1	2	3
	したこと	1	2	3
④ 経済的な暴力 生活費を入れない、外で働くことを妨害する、仕事を辞めさせる、家計の管理に関与させない、借金をさせてお金を取り上げる 等	されたこと	1	2	3
	したこと	1	2	3
⑤ ストーカー行為 つきまとい、待ち伏せ、押しかけ、監視していると告げる、面会・交際の要求、乱暴な言動、無言電話、連続した電話・FAX・メール、汚物の送付、名誉を傷つける、性的羞恥心の侵害 等	されたこと	1	2	3
	したこと	1	2	3

問20：「男女共同参画社会」とは、「男女が、互いにその人権を尊重しつつ喜びも責任も分かち合い、性別にかかわりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる社会」です。伊勢崎市が男女共同参画社会を実現するためには、どのようなことが重要だと思いますか。(〇は3つまで)

1. 審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する
2. 民間企業や団体などの管理職に女性の登用が進むよう働きかける
3. 女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する
4. 保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する
5. 男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する
6. 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進めるよう企業に働きかける
7. 育児や介護中であっても仕事が続けられるよう企業に働きかける
8. 育児や介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
9. 男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする
10. 女性に対する暴力を根絶するための取組を進める
11. 男女共同参画団体との連携を進める
12. 地域活動・地域団体等の女性リーダー育成を支援する
13. わからない
14. その他 ()

令和5年度
男女共同参画に関する市民意識調査
結果報告書

編集・発行 伊勢崎市市民部人権課
〒372-8501
伊勢崎市今泉町二丁目 410
電話 0270-24-5111 (代表)
0270-27-2703 (ダイヤルイン)
e-mail jinken@city.isesaki.lg.jp
